# Document made available under the Patent Cooperation Treaty (PCT)

International application number: PCT/JP05/005170

International filing date: 22 March 2005 (22.03.2005)

Document type: Certified copy of priority document

Document details: Country/Office: JP

Number: 2004-217834

Filing date: 26 July 2004 (26.07.2004)

Date of receipt at the International Bureau: 28 April 2005 (28.04.2005)

Remark: Priority document submitted or transmitted to the International Bureau in

compliance with Rule 17.1(a) or (b)



# 日 本 国 特 許 庁 JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出願年月日

2004年 7月26日 Date of Application:

願 番 号

特願2004-217834 Application Number:

バリ条約による外国への出願 に用いる優先権の主張の基礎 となる出願の国コードと出願 番号

The country code and number of your priority application, to be used for filing abroad under the Paris Convention, is JP2004-217834

出 願 人

チッソ株式会社 Applicant(s): 藤森工業株式会社

> 2005年 4月13日

特許庁長官 Commissioner, Japan Patent Office





```
【書類名】
              特許願
【整理番号】
              P-C40877
【あて先】
              特許庁長官
                      殿
【国際特許分類】
              C07K 14/745
【発明者】
  【住所又は居所】
              東京都中央区日本橋馬喰町一丁目4番16号 藤森工業株式会社
              本社内
              細川 和也
  【氏名】
【発明者】
  【住所又は居所】
              東京都中央区日本橋馬喰町一丁目4番16号 藤森工業株式会社
              本社内
  【氏名】
              鹿島 甲介
【特許出願人】
  【識別番号】
              0 0 0 0 0 0 2 0 7 1
  【氏名又は名称】
              チッソ株式会社
【特許出願人】
  【識別番号】
              0 0 0 2 2 4 1 0 1
  【氏名又は名称】
              藤森工業株式会社
【代理人】
  【識別番号】
              100100549
  【弁理士】
  【氏名又は名称】
              川口 嘉之
  【電話番号】
              03-3669-6571
  【連絡先】
              担当
【選任した代理人】
  【識別番号】
              100090516
  【弁理士】
  【氏名又は名称】
              松倉 秀実
【選任した代理人】
  【識別番号】
              100089244
  【弁理士】
  【氏名又は名称】
              遠山 勉
【先の出願に基づく優先権主張】
  【出願番号】
              特願2004-80950
  【出願日】
              平成16年 3月19日
【先の出願に基づく優先権主張】
  【出願番号】
              特願2004-170346
  【出願日】
              平成16年6月8日
【手数料の表示】
  【予納台帳番号】
             192372
  【納付金額】
              16,000円
【提出物件の目録】
  【物件名】
              特許請求の範囲
  【物件名】
              明細書
  【物件名】
              図面 1
  【物件名】
              要約書 1
  【包括委任状番号】 9712150
```

# 【書類名】特許請求の範囲

# 【請求項1】

野生型トロンビンのアミノ酸を1個もしくは数個置換して得られるトロンビン誘導体であって、トロンビン基質分解活性が野生型トロンビンの100万分の1以下であるトロンビン誘導体

# 【請求項2】

トロンビン基質結合能がアンヒドロトロンビンの1%以上である請求項1に記載のトロンビン誘導体。

#### 【請求項3】

ヒルジンC末端ペプチド結合能を有する請求項1に記載のトロンビン誘導体。

# 【請求項4】

トロンビンレセプター結合能がアンヒドロトロンビンの1%以上である請求項1に記載のトロンビン誘導体。

# 【請求項5】

ヘバリン結合能が野生型トロンビンと同程度である請求項 1 ~ 4 の何れか 1 項に記載のトロンビン誘導体。

#### 【請求項6】

0.1 MoNaCl を含む pH7.4 の50 mMトリス塩酸中でトロンビン蛋白質基質と 37 C で 3 時間反応させたときに分解されるトロンビン基質の割合が  $10 \text{ %以下である請求項 } 1 \sim 5$  の何れか 1 項に記載のトロンビン誘導体。

# 【請求項7】

トロンビン蛋白質基質が血液凝固第13因子である請求項6に記載のトロンビン誘導体。

# 【請求項8】

トロンビン蛋白質基質がトロンビンレセプター細胞外ドメインのペプチドである請求項6に記載のトロンビン誘導体。

# 【請求項9】

トロンビン蛋白質基質がフィブリノゲンである請求項6に記載のトロンビン誘導体。

## 【請求項10】

0.1 MのNaClを含むpH7.4の50mMトリス塩酸に溶解した1mg/mlフィブリノゲン溶液に、終濃度が0.1mg/mlになるように加えて、37C、3時間インキュベーションしたときにフィブリンクロットを形成させない請求項 $1\sim6$ の何れか1項に記載のトロンビン誘導体。

# 【請求項11】

野生型トロンビンのアミノ酸配列において、B鎖の205番目のセリン、203番目のグリシン、43番目のヒスチジン、および99番目のアスパラギン酸から選ばれた少なくとも2つのアミノ酸が置換されたアミノ酸配列を有するトロンビン誘導体。

# 【請求項12】

野生型トロンビンのアミノ酸配列において、B鎖の203番目のグリシン、43番目のヒスチジン、および99番目のアスパラギン酸から選ばれた少なくとも1つのアミノ酸と、B鎖の205番目のセリンが置換されたアミノ酸配列を有するトロンビン誘導体。

# 【請求項13】

B鎖の205番目のセリンを置換するアミノ酸が、アラニン、スレオニン、グリシン、およびシステインのいずれかである請求項11または12に記載のトロンビン誘導体。

#### 【請求項14】

B鎖の205番目のセリンを置換するアミノ酸がグリシンである請求項11または12に記載のトロンビン誘導体。

## 【請求項15】

B鎖の205番目のセリンを置換するアミノ酸がアラニンである請求項11または12に記載のトロンビン誘導体。

## 【請求項16】

B鎖の203番目のグリシンを置換するアミノ酸が、アラニン、スレオニン、およびセリンのいずれかである請求項11または12に記載のトロンビン誘導体。

# 【請求項17】

B鎖の99番目のアスパラギン酸を置換するアミノ酸が、アスパラギンである請求項11または12に記載のトロンビン誘導体。

# 【請求項18】

B鎖の43番目のヒスチジンを置換するアミノ酸が、アラニンまたはアスパラギンである 請求項11または12に記載のトロンビン誘導体。

# 【請求項19】

野生型トロンビンのアミノ酸配列において、少なくともB鎖の203番目のグリシンとB鎖の205番目のセリン置換されたトロンビンであって、該205番目のセリンがグリシンに置換されたアミノ酸配列を有するトロンビン誘導体。

# 【請求項20】

B鎖の203番目のグリシンがアラニンに置換された、請求項19に記載のトロンビン誘導体。

# 【請求項21】

野生型トロンビンのアミノ酸配列において、B鎖の205番目のセリン及びB鎖の43番目のヒスチジンが他のアミノ酸に置換されたアミノ酸配列を有するトロンビン誘導体。

## 【請求項22】

B鎖の205番目のセリンを置換する他のアミノ酸がグリシン、アラニン、スレオニン、システインのいずれかである、請求項21に記載のトロンビン誘導体。

## 【請求項23】

野生型トロンビンのアミノ酸配列において、B鎖の205番目のセリンがアラニンに置換され、B鎖の43番目のヒスチジンがアラニンに置換されたアミノ酸配列を有するトロンビン誘導体。

## 【請求項24】

さらに、ナトリウム結合部位のアミノ酸が置換された、請求項11~23のいずれか一項に記載のトロンビン誘導体。

## 【請求項25】

ナトリウム結合部位のアミノ酸がB鎖の232番目又は234番目のアスパラギン酸である請求項24に記載のトロンビン誘導体。

## 【請求項26】

さらに、前記置換されたアミノ酸以外のアミノ酸において、1又は数個のアミノ酸が置換、欠失、挿入又は付加され、ヒルジンC末端ペプチド結合能が野生型トロンビンの1%以上であり、トロンビン基質分解活性が野生型トロンビンの100万分の1以下である請求項11~25のいずれか一項に記載のトロンビン誘導体。

#### 【請求項27】

さらに、前記置換されたアミノ酸以外のアミノ酸において、1又は数個のアミノ酸が置換、欠失、挿入又は付加され、トロンビンレセプター結合能がアンヒドロトロンビンの1%以上であり、トロンビン基質分解活性が野生型トロンビンの100万分の1以下である請求項11~25のいずれか一項に記載のトロンビン誘導体。

## 【請求項28】

さらに、活性中心のアミノ酸以外のアミノ酸において、1又は数個のアミノ酸が置換、欠失、挿入又は付加され、トロンボモジュリンとの結合能が野生型トロンビンの50%以下に低下した請求項11~27のいずれか一項に記載のトロンビン誘導体。

## 【請求項29】

さらに、活性中心のアミノ酸以外のアミノ酸において、1又は数個のアミノ酸が置換され、トロンボモジュリンとの結合能が野生型トロンビンの50%以下に低下した請求項11~27のいずれか一項に記載のトロンビン誘導体。

## 【請求項30】

さらに、活性中心のアミノ酸以外のアミノ酸において、1又は数個のアミノ酸が置換され、抗血液凝固カスケード又は抗血小板効果のいずれか又は両方を保持し、且つトロンボモジュリンとの結合能が野生型トロンビンの50%以下に低下した請求項11~27のいずれか一項に記載のトロンビン誘導体。

# 【請求項31】

さらに、活性中心のアミノ酸以外のアミノ酸において、1又は数個のアミノ酸が置換、欠失、挿入又は付加され、フィブリノゲンとの結合能が野生型トロンビンの50%以下に低下した請求項11~27のいずれか一項に記載のトロンビン誘導体。

#### 【請求項32】

さらに、活性中心のアミノ酸以外のアミノ酸において、1又は数個のアミノ酸が置換され、フィブリノゲンとの結合能が野生型トロンビンの50%以下に低下した請求項11~27のいずれか一項に記載のトロンビン誘導体。

# 【請求項33】

さらに、活性中心のアミノ酸以外のアミノ酸において、1又は数個のアミノ酸が置換され、抗血液凝固カスケード又は抗血小板効果のいずれか又は両方を保持し、且つフィブリノゲンとの結合能が野生型トロンビンの50%以下に低下した請求項11~27のいずれか一項に記載のトロンビン誘導体。

## 【請求項34】

さらに、活性中心のアミノ酸以外のアミノ酸において、1又は数個のアミノ酸が置換され、該置換によってトロンビンレセプター又は血液凝固第8因子への結合能がフィブリノゲンへの結合能に比較して相対的に2倍以上に高まった請求項11~27のいずれか一項に記載のトロンビン誘導体。

# 【請求項35】

さらに、活性中心のアミノ酸以外のアミノ酸において、1又は数個のアミノ酸が置換され、該置換によってトロンビンレセプター又は血液凝固第8因子への結合能がトロンボモジュリンへの結合能に比較し相対的に2倍以上に高まった請求項11~27のいずれか一項に記載のトロンビン誘導体。

# 【請求項36】

置換されるアミノ酸がB鎖の77番目のリシンである請求項28~35のいずれか一項に 記載のトロンビン誘導体。

# 【請求項37】

B鎖の77番目のリシンを置換するアミノ酸が、アラニンまたはグルタミン酸である請求項36に記載のトロンビン誘導体。

#### 【請求項38】

置換されるアミノ酸がB鎖の24番目のグルタミンである請求項28~35のいずれか一項に記載のトロンビン誘導体。

#### 【請求項39】

野生型トロンビンがヒト野生型トロンビンである、請求項1~38のいずれか1項に記載のトロンビン誘導体。

# 【請求項40】

ヒト野生型トロンビンが配列番号2のアミノ酸配列を含む蛋白質である請求項39に記載のトロンビン誘導体。

#### 【請求項41】

カルボキシル基が修飾された請求項1~40のいずれか1項に記載のトロンビン誘導体。

#### 【請求項42】

アミノ酸のエステルによってカルボキシル基が修飾された請求項41記載のトロンビン誘導体。

#### 【請求項43】

ポリエチレングリコールによってカルボキシル基が修飾された請求項41記載のトロンビン誘導体。

# 【請求項44】

アミノ基を有するポリエチレングリコールによってカルボキシル基が修飾された請求項4 1記載のトロンビン誘導体。

#### 【請求項45】

前記ポリエチレングリコールが分子量1000以下のポリエチレングリコールである、請求項43または44記載のトロンビン誘導体。

# 【請求項46】

一分子当たり少なくとも3個以上のカルボキシル基が修飾された請求項41~45のいずれか一項に記載のトロンビン誘導体。

# 【請求項47】

一分子当たり少なくとも 2 5 個以下のカルボキシル基が修飾された請求項 4 1 ~ 4 5 のいずれか一項に記載のトロンビン誘導体。

# 【請求項48】

少なくともB鎖25番目のグルタミン酸のカルボキシル基が修飾された請求項41~47 のいずれか一項に記載のトロンビン誘導体。

# 【請求項49】

血小板のリストセチン凝集抑制能が向上した請求項41~48のいずれか一項に記載のトロンビン誘導体。

## 【請求項50】

血小板のGPIb  $\alpha$  拮抗能を有する請求項 4 1  $\sim$  4 8 のいずれか一項に記載のトロンビン誘導体。

## 【請求項51】

カルボキシル基がカルボジイミドによって修飾された請求項41に記載のトロンビン誘導体。

# 【請求項52】

請求項1~40のいずれか1項に記載のトロンビン誘導体をコードするDNA。

# 【請求項53】

請求項1~51のいずれか1項に記載のトロンビン誘導体を含有する医薬組成物。

#### 【請求項54】

抗血栓剤である請求項53に記載の医薬組成物。

## 【請求項55】

抗炎症剤である請求項53に記載の医薬組成物。

#### 【請求項56】

血小板凝集抑制剤である請求項53に記載の医薬組成物。

# 【請求項57】

血小板粘着抑制剤である請求項53に記載の医薬組成物。

# 【請求項58】

トロンビンレセプター活性化抑制剤である請求項53~57のいずれか1項に記載の医薬組成物。

# 【請求項59】

抗血液凝固作用と抗血小板作用の両方を有する請求項53~58のいずれか1項に記載の 医薬組成物。

# 【書類名】明細書

【発明の名称】トロンビン誘導体、およびそれを含有する医薬組成物

# 【技術分野】

# $[0\ 0\ 0\ 1\ ]$

本発明は、トロンビン誘導体、およびそれを含有する医薬組成物、特に抗血栓剤、抗炎 症剤に関する。

# 【背景技術】

## [00002]

トロンビンは血小板凝集反応や炎症反応などを担う、トリプシンと非常に相同性の高いトリプシン様のセリンプロテアーゼである。例えば、非特許文献1には、トロンビンが、基質であるトロンビンレセプターを活性化することによって血小板凝集反応や炎症反応を起こすことが記載されている。

# [0003]

# $[0\ 0\ 0\ 4]$

これらをもとに、抗血栓剤等の開発のために、様々なトロンビンの修飾・改変が試みられている。特許文献 1 には、セリンプロテアーゼと競争してセリンプロテアーゼの基質に結合することによって、該セリンプロテアーゼと該基質との反応を抑制する物質(以下「反応抑制物質」と言うことがある)を含有するセリンプロテアーゼ抑制剤が開示されている。さらに該文献には、このセリンプロテアーゼ抑制剤は、抗血栓剤(血栓形成抑制剤)として有効であることが記載されている。該文献には、該反応抑制物質の具体例として、セリンプロテアーゼであるトロンビンと、フェニルメチルスルフォニルフルオリド(以下「PMSF」と言うことがある)などの阻害剤とを反応させ、活性部位に存在するセリンをデヒドロアラニンに転換すること(以下「アンヒドロ化」と言うことがある)により、セリンプロテアーゼ活性が著しく低下したトロンビン誘導体(以下「AHT」と言うことがある)が開示されている。

# [0005]

また、特許文献2には、アンヒドロトロンビンのカルボキシル基とイミドとを反応させ、アンヒドロトロンビンを化学的に修飾したアンヒドロトロンビン誘導体(以下「MーAHT」と言うことがある)が開示されている。MーAHTは、血液中に大量に存在するフィブリノゲンへの結合能が選択的に低いことから、AHTに較べて部分活性化トロンボプラスチン時間(APTT)延長効果が飛躍的に増加し高い抗血栓効果を有する。

#### [0006]

一方で、アミノ酸置換を有するトロンビン誘導体の研究も行われている。トロンビンの 遺伝子組み換えによる活性中心の置換体はこれまで下記のように幾つかの検討がなされて きた。

#### [0007]

例えば、非特許文献5には活性中心セリンをアラニンに置換したトロンビンを作製し白血球への影響が述べられている。この誘導体の活性に関しては活性を失ったトロンビン組み換え体と記載されている。また、非特許文献6には、トロンビンB鎖 203グリシン

[0008]

その他のトロンビン誘導体については、特許文献3、非特許文献7~9に開示されるように、遺伝子工学的にアミノ酸置換を導入することによって抗血液凝固効果を持つようになったトロンビン誘導体が報告されている。これらに開示されるトロンビン誘導体はトロンボモジュリン特異性が保持または増強されており、且つフィブリノゲン分解能が著しく低下した誘導体であり、トロンボモジュリンに特異的に結合しプロテイン(を活性化する事で抗血栓性を有する誘導体である。

特許文献4には、活性中心のアミノ酸が置換され、さらにヒルジンを中和する事で抗凝 固を抑制するプロトロンビン誘導体が開示されている。

特許文献 5 , 6 には、活性中心セリンがアラニンに置換されたトロンビン、及び活性中心セリンがアラニンに、かつ活性中心アスパラギン酸がアスパラギンに置換されたトロンビンが、洗浄血小板懸濁液中においてトロンビンによるトロンビンレセプターへの刺激を抑制した事が記載されている。

しかしながら、これら報告のアミノ酸置換によって得られるトロンビン誘導体は血液中に多量に存在するフィブリノゲンと強い親和性を持つため、加えたトロンビン誘導体の殆どがフィブリノゲンに結合してしまい、抗血栓効果を得るために多量の投与が必要となり、実質的には血液中で抗血栓剤として使用するのは困難であった。

【特許文献 1 】国際公開第01/03740号バンフレット

【特許文献2】国際公開第02/077031号パンフレット

【特許文献3】特表平09-509045号公報

【特許文献4】特表平11-507542号公報

【特許文献 5 】 特表平 6 - 5 0 8 7 4 2 号公報

【特許文献 6 】 特開 2 0 0 3 - 1 5 9 0 8 8 号公報

【非特許文献 1 】 J. Biol. Chem. 261(1986)15928-15933

【非特許文献2】日本血栓止血学会誌 第10巻 2,3号(1999)

【非特許文献3】 Biochemical J. (2001) 354.309-313

【非特許文献4】 ヴォート生化学 上巻 1996年 p331-340 東京化学 同人

【非特許文献5】 Experimental cell research 219, 650-656(1995)

【非特許文献6】 Biochimica et Biophyscia Acta 1451(1999) 173-186

【非特許文献7】 J. Biol. Chem Vol. 275, 39827-39830

【非特許文献8】 1. Biol. Chem Vol. 279, 26387-26394

【非特許文献 9 】 J. Biol. Chem Vol. 277, 27581-27584

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

[0009]

AHTやM-AHTのように化学的手法により得られたトロンビン誘導体は、抗血栓効果や抗炎症効果を有しているが、セリンプロテアーゼ活性にばらつきがあり、AHTへ変

換する際のアルカリ処理、再生処理等の多工程を必要とし、回収率も50から60%と十分ではないという改善すべき点があった。

また、M-AhTにおいても微量に存在する残存トロンビン活性が、その抗凝固能を低下させる問題点があった。

# [0010]

また、従来トロンビンにおいて報告されている多くの配列において活性中心のトロンビン置換体を作成したところ、抗血栓、抗炎症剤としての十分な機能を有していなかった。理由として、これら報告の置換体は抗血栓、抗炎症剤として用いる目的において実質的なトロンビン基質分解活性を有する、あるいは置換による影響で主にエクソサイト」の構造変化にともないトロンビン基質結合能が著しく低下している等の問題が考えられた。例えばBiochimica et Biophyscia Acta 1451(1999) 173-186の中で活性が完全に喪失したと報告される活性中心セリンをアラニンに置換したトロンビン及びB鎖203グリシンをアラニンに置換したトロンビンにおいても、本発明で定義される抗血栓、抗炎症剤として用いる目的においての実質的なトロンビン基質分解活性が残存していた。さらにB鎖203グリシン及び活性中心ヒスチジン及びアスバラギン酸の置換は活性をより低下させるものの、その組み合わせによってはエクソサイト」の構造変化を招きトロンビン基質結合能が損なわれる場合があった。

本発明は、基質分解活性を実質的に欠き、且つ血栓形成に重要なトロンビン基質に特異的に結合することにより、抗血栓、抗炎症剤として使用可能なトロンビン変異体を提供することを課題とする。

## 【課題を解決するための手段】

# 

本発明者は前述の従来技術の問題点に鑑み鋭意研究を重ねた。その結果、トロンビンのアミノ酸配列において1若しくは数個のアミノ酸が、遺伝子組換操作により置換されたトロンビンであり且つ抗血栓、抗炎症剤として用いる目的において実質的にトロンビン基質を分解しないレベルに活性が低下していれば、AHT同様の抗血栓、抗炎症効果が得られる事を見出した。さらに、血栓形成に重要なトロンビン基質に対しより特異的な結合能を有していれば、より確実にAHT同様以上の抗血栓、抗炎症効果が得られる事を見出した

#### $[0\ 0\ 1\ 2]$

また、トロンビンの活性中心の置換方法についてさらなる検討を行ったところ、トロンビン誘導体において活性中心セリンの置換はアラニン、スレオニン、グリシン、システインへの置換であればエクソサイト Iの構造が保持されトロンビン基質結合能が保たれることを見出した。

さらに、B鎖の205番目のセリン(活性中心セリン)、203番目のグリシン、43番目のヒスチジン(活性中心ヒスチジン)、および99番目のアスパラギン酸(活性中心アスパラギン酸)から選ばれた少なくとも2つのアミノ酸を置換することにより、エクソサイト | の構造及びトロンビン基質結合能を保持し、且つ抗血栓、抗炎症剤として用いる目的において実質的なトロンビン基質分解活性を喪失した、抗血栓、抗炎症効果を持ったトロンビン誘導体が得られる事を見出した。

上記置換の中でも、例えば、活性中心セリン及び活性中心ヒスチジンの置換により、より望ましくは活性中心セリン、活性中心ヒスチジン両方のアラニンへの置換により、トロンビン基質認識性が変化し、他の活性中心のアミノ酸を置換したトロンビン誘導体に比較して、低濃度においても主に血液凝固カスケード(特に部分活性化トロンボプラスチン時間(APTT))特異的な抗血栓効果を発揮するトロンビン誘導体が得られる事を見出した。

#### $[0\ 0\ 1\ 3]$

本発明者はまた、上記変異体のナトリウム結合領域を置換あるいは修飾することによってさらにトロンビン基質分解活性を低下させることができることを見出した。

さらに、上記アミノ酸置換以外のさらなる置換によって、血中に多量に存在するフィブリノゲンに対するトロンビン誘導体の親和性を、トロンビンレセプター又は血液凝固第8

因子に対し相対的に低下させることにより、トロンビン基質特異性がさらに限定され、適 正な使用量で良好な抗血栓効果を得ることができることを見出した。

さらに、上記アミノ酸置換に加え、トロンビン誘導体が持つ抗血栓性を損なうことなく、トロンビン誘導体のトロンボモジュリン親和性を特異的に低下させることで、生体投与されたトロンビン誘導体が血管内皮細胞上でトロンボモジュリンに結合し、本来生体内で起こるトロンビンによるトロンボモジュリン上におけるプロテイン(の活性化を抑制することを防ぐことができ、より有効な抗血栓剤として機能しうる事を見出した。

また、国際公開第02/077031号パンフレット記載のカルボキシル基修飾アンヒドロトロンビンの効果が主にAPTT延長効果が主体であったのに対し、上記遺伝子組み換えによって得られた種々のトロンビン誘導体を、さらに国際公開第02/077031号パンフレット記載のカルボキシル基修飾方法を用いて一定範囲の個数の修飾を行った誘導体は、その活性中心及びその他のアミノ酸の置換に依存して、APTT延長効果以外にも様々な特徴の抗血栓効果を有する事を見出した。

特に本発明の種々のアミノ酸置換型トロンビン誘導体をさらにカルボキシル基修飾することにより、APTT延長効果無しに、抗血小板効果(特にリストセチン惹起血小板凝集抑制効果)が飛躍的に増加する誘導体、APTT延長効果、抗血小板効果共に飛躍的に増加する誘導体などが得られ、アミノ酸置換とカルボキシル基修飾の組み合わせにより種々の血栓症に適応しうる抗血液凝固効果、抗血小板効果を持ったトロンビン誘導体が作成できることを見出した。

本発明者はこれらの知見に基づいて本発明を完成させた。

# $[0\ 0\ 1\ 4\ ]$

すなわち、本発明は、以下のとおりである。

- (1)野生型トロンビンのアミノ酸を1個もしくは数個置換して得られるトロンビン誘導体であって、トロンビン基質分解活性が野生型トロンビンの100万分の1以下であるトロンビン誘導体
- (2)トロンビン基質結合能がアンヒドロトロンビンの1%以上である(1)のトロンビン誘導体。
  - (3) ヒルジン C 末端ペプチド結合能を有する(1) のトロンビン誘導体。
- (4)トロンビンレセプター結合能がアンヒドロトロンビンの1%以上である(1)の トロンビン誘導体。
- (5) ヘパリン結合能が野生型トロンビンと同程度である(1) ~ (4) の何れかのトロンビン誘導体。
- (6) 0.1 MのNaClを含むpH7.4の50mMトリス塩酸中でトロンビン蛋白質基質と37℃で3時間反応させたときに分解されるトロンビン基質の割合が10%以下である(1)~(5)の何れかのトロンビン誘導体。
  - (7)トロンビン蛋白質基質が血液凝固第13因子である(6)のトロンビン誘導体。
- (8)トロンビン蛋白質基質がトロンビンレセプター細胞外ドメインのペプチドである (6)のトロンビン誘導体。
  - (9)トロンビン蛋白質基質がフィブリノゲンである(6)のトロンビン誘導体。
- (10)0.1 MのNaClを含むpH7.4の50mMトリス塩酸に溶解した1mg/mlフィブリノゲン溶液に、終濃度が0.1mg/mlになるように加えて、37C、3時間インキュベーションしたときにフィブリンクロットを形成させない(1)~(6)の何れかのトロンビン誘導体。
- (11)野生型トロンビンのアミノ酸配列において、B鎖の205番目のセリン、203番目のグリシン、43番目のヒスチジン、および99番目のアスパラギン酸から選ばれた少なくとも2つのアミノ酸が置換されたアミノ酸配列を有するトロンビン誘導体。
- (12)野生型トロンビンのアミノ酸配列において、B鎖の203番目のグリシン、43番目のヒスチジン、および99番目のアスバラギン酸から選ばれた少なくとも1つのアミノ酸と、B鎖の205番目のセリンが置換されたアミノ酸配列を有するトロンビン誘導体。

- (13) B鎖の205番目のセリンを置換するアミノ酸が、アラニン、スレオニン、グリシン、およびシステインのいずれかである(11)または(12)のトロンビン誘導体
- (14) B鎖の205番目のセリンを置換するアミノ酸がグリシンである(11) または(12) のトロンビン誘導体。
- (15)B鎖の205番目のセリンを置換するアミノ酸がアラニンである(11)または(12)のトロンビン誘導体。
- (16) B鎖の203番目のグリシンを置換するアミノ酸が、アラニン、スレオニン、 およびセリンのいずれかである(11)または(12)のトロンビン誘導体。
- (17) B鎖の99番目のアスパラギン酸を置換するアミノ酸が、アスパラギンである(11) または(12) のトロンビン誘導体。
- (18) B鎖の43番目のヒスチジンを置換するアミノ酸が、アラニンまたはアスパラギンである(11)または(12)のトロンビン誘導体。
- (19)野生型トロンビンのアミノ酸配列において、少なくともB鎖の203番目のグリシンとB鎖の205番目のセリン置換されたトロンビンであって、205番目のセリンがグリシンに置換されたアミノ酸配列を有するトロンビン誘導体。
- (20) B鎖の203番目のグリシンがアラニンに置換された、(19)のトロンビン誘導体。
- (21)野生型トロンビンのアミノ酸配列において、B鎖の205番目のセリン及びB鎖の43番目のヒスチジンが他のアミノ酸に置換されたアミノ酸配列を有するトロンビン誘導体。
- (22) B鎖の205番目のセリンを置換する他のアミノ酸がグリシン、アラニン、スレオニン、システインのいずれかである、(21)のトロンビン誘導体。
- (23)野生型トロンビンのアミノ酸配列において、B鎖の205番目のセリンがアラニンに置換され、B鎖の43番目のヒスチジンがアラニンに置換されたアミノ酸配列を有するトロンビン誘導体。
- (24) さらに、ナトリウム結合部位のアミノ酸が置換された、(11)~(23)のいずれかのトロンビン誘導体。
- (25)ナトリウム結合部位のアミノ酸がB鎖の232番目又は234番目のアスバラギン酸である(24)のトロンビン誘導体。
- (26) さらに、前記置換されたアミノ酸以外のアミノ酸において、1又は数個のアミノ酸が置換、欠失、挿入又は付加され、ヒルジンC末端ペプチド結合能が野生型トロンビンの1%以上であり、トロンビン基質分解活性が野生型トロンビンの100万分の1以下である(11)~(25)のいずれかのトロンビン誘導体。
- (27) さらに、前記置換されたアミノ酸以外のアミノ酸において、1又は数個のアミノ酸が置換、欠失、挿入又は付加され、トロンビンレセプター結合能がアンヒドロトロンビンの1%以上であり、トロンビン基質分解活性が野生型トロンビンの100万分の1以下である(11)~(25)のいずれかのトロンビン誘導体。
- (28) さらに、活性中心のアミノ酸以外のアミノ酸において、1又は数個のアミノ酸が置換、欠失、挿入又は付加され、トロンボモジュリンとの結合能が野生型トロンビンの50%以下に低下した(11)~(27)のいずれかのトロンビン誘導体。
- (29) さらに、活性中心のアミノ酸以外のアミノ酸において、1又は数個のアミノ酸が置換され、トロンボモジュリンとの結合能が野生型トロンビンの50%以下に低下した(11)~(27)のいずれかのトロンビン誘導体。
- (30) さらに、活性中心のアミノ酸以外のアミノ酸において、1又は数個のアミノ酸が置換され、少なくとも抗血液凝固カスケード又は抗血小板効果のいずれかを保持し、且つトロンボモジュリン結合能が野生型トロンビンの50%以下に低下した(11)~(27)のいずれかのトロンビン誘導体。
- (31) さらに、活性中心のアミノ酸以外のアミノ酸において、1又は数個のアミノ酸 が置換、欠失、挿入又は付加され、フィブリノゲンとの結合能が野生型トロンビンの50

- %以下に低下した(11)~(27)のいずれかのトロンビン誘導体。
- (32) さらに、活性中心のアミノ酸以外のアミノ酸において、1又は数個のアミノ酸が置換され、フィブリノゲンとの結合能が野生型トロンビンの50%以下に低下した(11)~(27)のいずれかのトロンビン誘導体。
- (33) さらに、活性中心のアミノ酸以外のアミノ酸において、1又は数個のアミノ酸が置換され、少なくとも抗血液凝固カスケード又は抗血小板効果のいずれかを保持し、且つフィブリノゲン結合能が野生型トロンビンの50%以下に低下した(11)~(27)のいずれかのトロンビン誘導体。
- (34) さらに、活性中心のアミノ酸以外のアミノ酸において、1又は数個のアミノ酸が置換され、該置換によってトロンビンレセプター又は血液凝固第8因子への結合能がフィブリノゲンへの結合能に比較して相対的に2倍以上に高まった(11)~(27)のいずれかのトロンビン誘導体。
- (35) さらに、活性中心のアミノ酸以外のアミノ酸において、1又は数個のアミノ酸が置換され、該置換によってトロンビンレセプター又は血液凝固第8因子への結合能がトロンボモジュリンへの結合能に比較し相対的に2倍以上に高まった(11)~(27)のいずれかのトロンビン誘導体。
- (36) 置換されるアミノ酸がB鎖の77番目のリシンである(28) ~ (35) のいずれかのトロンビン誘導体。
- (37) B鎖の77番目のリシンを置換するアミノ酸が、アラニンまたはグルタミン酸である(36)のトロンビン誘導体。
- (38) 置換されるアミノ酸がB鎖の24番目のグルタミンである(28)~(35)のいずれかのトロンビン誘導体。
- (39)野生型トロンビンがヒト野生型トロンビンである、(1)~(38)のいずれかのトロンビン誘導体。
- (40)ヒト野生型トロンビンが配列番号2のアミノ酸配列を含む蛋白質である(39)のトロンビン誘導体。
- (41)カルボキシル基が修飾された(1)~(40)のいずれかのトロンビン誘導体
- (42) アミノ酸のエステルによってカルボキシル基が修飾された(41) のトロンビン誘導体。
- (43) ポリエチレングリコールによってカルボキシル基が修飾された(41)のトロンビン誘導体。
- (44) アミノ基を有するポリエチレングリコールによってカルボキシル基が修飾された(41) のトロンビン誘導体。
- (45)前記ポリエチレングリコールが分子量1000以下のポリエチレングリコールである、(43)または(44)のトロンビン誘導体。
- (46) 一分子当たり少なくとも3個以上のカルボキシル基が修飾された(41) ~ (45) のいずれかのトロンビン誘導体。
- (47)一分子当たり少なくとも25個以下のカルボキシル基が修飾された(41)~(45)のいずれかのトロンビン誘導体。
- (48)少なくともB鎖25番目のグルタミン酸のカルボキシル基が修飾された(41)~(47)のいずれかのトロンビン誘導体。
- (49)血小板のリストセチン凝集抑制能が向上された(41) $\sim$  (48)のいずれかのトロンビン誘導体。
- (50) 血小板のGPIb  $\alpha$  拮抗能を有する(41)  $\sim$  (48) のいずれかのトロンビン誘導体。
- (51) カルボキシル基がカルボジイミドによって修飾された(41) のトロンビン誘導体。
  - (52)(1)~(40)のいずれかのトロンビン誘導体をコードするDNA。
  - (53)(1)~(51)のいずれかのトロンビン誘導体を含有する医薬組成物。

- (54)抗血栓剤である(53)の医薬組成物。
- (55)抗炎症剤である(53)の医薬組成物。
- (56) 血小板凝集抑制剤である(53) の医薬組成物。
- (57) 血小板粘着抑制剤である(53) の医薬組成物。
- (58)トロンビンレセプター活性化抑制剤である(53)~(57)のいずれかの医薬組成物。
- (59)抗血液凝固作用と抗血小板作用の両方を有する(53)~(58)のいずれかの医薬組成物。

# 【発明の効果】

# [0015]

本発明のトロンビン誘導体は、従来の化学的手法により得られたトロンビン誘導体に比べて、より少ない使用量で安定な抗血栓効果を得ることが出来る。なぜならば、従来のAHTやMーAHTのように化学的手法により得られたものに比べ、得られるトロンビン誘導体個々のトロンビン基質分解活性やトロンビン基質結合能のばらつきが実質的に皆無であるからである。さらに、本発明のトロンビン誘導体は、AHTやMーAHTのようにトロンビンからアンヒドロ化、再生処理の多工程を経ずに高回収率で抗血栓、抗炎症作用をもった不活性化トロンビンを得ることができる。また、従来の変異体に比べても、トロンビン基質分解活性が低いため、より少ない使用量で安定な抗血栓効果を得ることが出来る。

また、活性中心及びその他のアミノ酸の置換を行うことにより、血中に多量に存在するトロンビン基質であるフィブリノゲンへの親和性を特異的に低下させることで、より低濃度で高い抗血栓効果を得ることができる。さらにアミノ酸の置換によりトロンボモジュリンとの親和性を特異的に低下させた誘導体は、生体内でのプロテイン(活性化を阻害する事が抑制し、生体内においてAhTやM-AhTと比較しより高い抗血栓効果を有する。

また、本発明のアミノ酸の置換を行ったトロンビン誘導体にさらに国際公開第02/077031号パンフレットのカルボキシル基置換を行うことで、該文献記載のカルボキシル基修飾アンヒドロトロンビンとは異なる種々の特徴を持った抗血栓効果を持ったトロンビン誘導体を得ることができる。

# 【発明を実施するための最良の形態】

# $[0\ 0\ 1\ 6]$

以下、本発明を詳細に説明する。

本発明のトロンビン誘導体は、野生型トロンビンのアミノ酸を1個もしくは数個置換して得られるトロンビン誘導体であって、トロンビン基質分解活性が野生型トロンビンの活性よりも低下した誘導体である。ここで数個とは、2~20個、好ましくは2~10個、より好ましくは2~5個を意味する。なお、本発明のトロンビン誘導体は、トロンビン基質への結合能を保持していることが好ましい。

## $[0\ 0\ 1\ 7]$

ここで野生型トロンビンとしてはヒトの野生型トロンビンが好ましく、配列番号 2 のアミノ酸配列を含むトロンビンがより好ましい。この配列はヒト野生型トロンビンのA鎖及びB鎖を含む配列である。なお、生体内では、トロンビンは、プロトロンビン(トロンビン前駆体)がXa因子などのプロテアーゼによって切断され、A鎖(例えば配列番号 2 のアミノ酸番号  $1\sim4$  9 の領域)及びB鎖(例えは配列番号 2 のアミノ酸番号  $1\sim4$  9 の領域)及びB鎖(例えは配列番号 2 のアミノ酸番号  $1\sim4$  9 の領域)が $1\sim4$  8 の領域)が $1\sim4$  9 の領域)及びB鎖(例えは配列番号  $1\sim4$  9 の領域)が $1\sim4$  9 の領域)かび $1\sim4$  9 の領域)を含むのであれば特に制限されず、 $1\sim4$  9 の領域)を含むいるにないできるしたが、本発明におけるトロンビン誘導体に含まれたのも含む。さらに、生体内で前記の立体構造をとることのできるプロトロンビンやプレトロンビンなどのトロンビン前駆体蛋白質も本発明のトロンビン誘導体に含まれる。

## [0018]

本発明において、「トロンビン基質への結合能」とは、血液凝固第VIII因子やトロンビンレセプターなどのトロンビン蛋白質基質やその一部のペプチドに対する結合能を意味する。トロンビン蛋白質基質としては血液凝固第8因子及びトロンビンレセプターが血栓形成及び炎症作用の進行に非常に重要であり、実質的には血液凝固第8因子及びトロンビンレセプターのトロンビンによる活性化を抑制することで血栓形成及び炎症作用は充分抑制される。したがって、トロンビン蛋白質基質としては血液凝固第8因子トロンビンレセプターのトロンビン結合領域を含むペプチドが好ましい。

本発明において、抗血栓作用とは、好ましくは、抗血小板、抗血液凝固の1次止血、2次止血を合わせた全体での抗血栓作用を意味する。本発明の抗血小板作用、及び抗血液凝固作用を有するトロンビン誘導体は、例えば、1次止血においては主にGP1b  $\alpha$  (血小板受容体糖タンパク質1b  $\alpha$ ) 及びトロンビンレセプターに作用することで血小板へのトロンビン、リストセチン及びずり応力等の刺激を抑制して血小板凝集及び粘着を抑制し、2次止血においては主に血液凝固第8因子の活性化を抑制してAPTT(部分活性化トロンボプラスチン時間)を特異的に延長する。

# $[0\ 0\ 1\ 9]$

また、「トロンビン基質への結合能」は、トロンビン蛋白質基質に保存されている領域 のアミノ酸配列を有するペプチド、例えば、ヒルジン〔末端ペプチドなどに対する結合量 を測定することによってスクリーニングしてもよい。トロンビンのエクソサイト は多く の血栓形成、炎症作用を持ったトロンビン基質蛋白質への結合に最も重要な役割を果たす 必須の領域として報告されている領域であるが(Journal of Biological Chemistry 1989 Vol 264 8692-8698)、ヒルジン(末端ペプチドはこのエクソサイト Iに対し特異的に結合 することが知られる(lournal of Biological Chemistry 1991 Vol 266 23633-23636)。 特に、血小板活性化を通じて血栓形成に重要な働きを持つトロンビンレセプターはヒルジ ン(末端領域に高い相同性を持ち、エクソサイト」へ強固に結合する事が報告されている。 よってヒルジン(末端ペプチドに対する結合能を失っているものはエクソサイト」の構造が 破壊されトロンビンレセプターをはじめとする多くのトロンビン基質への結合能を失って いるものと考えられる。ヒルジン(末端ペプチド(例えば、配列番号3)に対する結合能 は、実施例に示すようにヒルジンカラムへのトロンビン誘導体の結合量を測定することに よって行うことができる。本発明のトロンビン誘導体は、野生型トロンビン又はアンヒド ロトロンビンの1%以上、好ましくは10%以上、より好ましくは80%以上のトロンビ ン基質結合能を保持していることが望ましい。ここで、アンヒドロトロンビンはトロンビ ンの活性中心セリンが脱水酸化されたトロンビンであって、具体的には、国際公開第01 /03740号パンフレットの実施例1記載のアンヒドロトロンビンを例示することがで

#### [0020]

一方、本発明のトロンビン誘導体は、トロンビン基質分解活性が野生型トロンビンの活性よりも低下していることが好ましいが、この「トロンビン基質分解活性」は、フィブリノゲン、血液凝固第13因子、トロンビンレセプターなどの生体基質やS2238(シグマ社より入手可)などの合成基質を用いて測定することができる。ただしトロンビン誘導体を化学修飾などにより本来トロンビンの持つ基質特異性を変化させている場合、トロンビン誘導体が特異性を残している基質を選択する必要がある。また、フィブリノゲン凝固活性を確認することによっても「トロンビン基質分解活性」を測定することが出来る。

#### $[0 \ 0 \ 2 \ 1]$

本発明のトロンビン誘導体の活性は、野生型トロンビンに比べてより一層低下したレベルである事が望ましい。具体的には100万分の1以下、さらに望ましくは1000万分の1以下に低下していることが望ましい。トロンビンの生理的条件下における蛋白質基質活性化におけるkcat値は約100sec $^{-1}$ ほどにもなり、他多くの基質に対しても同等のkcat値を示す。ラット投与実験におけるアンヒドロトロンビン生体内薬効半減期は1時間以内であり、1000万分の1以下であれば抗血栓、抗炎症効果を目的としてトロンビン誘導体を投与した際、数時間にわたって蛋白性のトロンビン基質と結合した場合にもトロン

ビン誘導体のトロンビン基質分解活性が問題となることがないと考えられる。

# [0022]

ただし、実際には合成基質による活性測定は種々のプロテアーゼの影響を大きく受け、 100万分の1のレベルの活性を正確に測定する事は難しく、より好ましくはトロンビン の蛋白質基質に対する分解活性を測定した方がより微妙な分解活性を確認する事ができる

より具体的には、本発明のトロンビン誘導体は、例えば、実施例で示すような生理的条件下、3時間、フィブリノゲン、血液凝固第13因子、トロンビンレセプター、プロテイン Cなどのトロンビン蛋白質基質と混合し反応させた場合の該基質の分解が10%以下のものを挙げることができる。上記条件であれば生体への投与後、本誘導体が代謝されるまでの間の本誘導体によるトロンビン基質活性化は問題にならないと考えられる。

本発明で得られるトロンビン誘導体は特表平09-509045、J. Biol. Chem Vol. 275, 39827-39830, J. Biol. Chem Vol. 279, 26387-26394, J. Biol. Chem Vol. 277, 27581-27584, に開示されるトロンビン誘導体とは異なる抗血栓作用の機構を有する。

すなわち、これらの文献に開示されるトロンビン誘導体はトロンボモジュリン特異性が保持又は向上しており、優先的にプロテイン(を活性化する事で抗血栓性を発揮する。これに対し、本発明のトロンビン誘導体はプロテイン(を含むトロンビン基質の活性化能を有さない。またトロンボモジュリン親和性もより低下している事が望ましい。本発明のトロンビン誘導体は、より特異的に、血栓形成に重要なトロンビン基質に対し、活性化すること無しに結合し、血液中に存在するトロンビンによるこれらトロンビン基質の活性化を抑制することによって抗血栓性を発揮する。

# [0023]

本発明のトロンビン誘導体は、通常の遺伝子変異導入法によってトロンビンの変異体をコードするDNAを作製し、該DNAを哺乳動物細胞などで発現させることによって得られる変異体の中から基質分解活性が低下し、かつ、ヒルジン及びトロンビン基質に対する結合能を保持しているものを選択することによって第一段階のスクリーニングをすることができる。

# [0024]

本発明の1個又は数個のアミノ酸を置換して得られるトロンビン誘導体は、抗血栓、抗 炎症剤として用いる目的において、実質的にトロンビン基質分解活性を喪失しており、且 つ基質結合能を野生型トロンビンと同等に保持していれば特に制限されるものではないが 、具体的には、B鎖の205番目のセリン(B鎖205;配列番号2の254番目のセリ ンに相当するセリン)、203番目のゲリシン(B鎖203;配列番号2の252番目の グリシンに相当するグリシン)、43番目のヒスチジン(B鎖43;配列番号2の92番目の 目のヒスチジンに相当するヒスチジン)、および99番目のアスバラギン酸(B鎖993; 配列番号2の148番目のアスバラギン酸に相当するアスバラギン酸(B銀はれた2つ 配列のアミノ酸が置換されたトロンビン誘導体であることが好ましく、B鎖の203番目の のグリシン、43番目のヒスチジン、および99番目のアスバラギン酸から選ばれた1つ 以上のアミノ酸と、B鎖の203番目のゲリシン、43番目のヒスチジンのいず れか一方または両方のアミノ酸と、B鎖の205番目のセリンが置換されたアミノ酸配列 を有するトロンビン誘導体が特に好ましい。

#### [0025]

活性中心であるB鎖205番目のセリンは、その置換によってエクソサイト | の構造が破壊されてトロンビン基質結合能が損なわないようにするために、スレオニン、アラニン、グリシン、システインのいずれかに置換されていることが好ましく、アラニン、グリシンへの置換がより好ましい。B鎖203グリシンは、アラニン、セリン、スレオニンのいずれかに置換されている事が好ましい。B鎖99のアスパラギン酸は、アスパラギンに置換されていることが好ましい。B鎖43のヒスチジンは、アラニンまたはアスパラギンに置換されていることが好ましい。

# [0026]

なお、本明細書中において、B鎖205、B鎖203等は、B鎖の1番目のアミノ酸(例えば、配列番号2のアミノ酸番号50のイソロイシン)から数えたアミノ酸番号を示している。なお、上記のような置換アミノ酸の位置はアミノ酸の欠失、挿入、付加などによって位置が前後することがある。例えば、N末端部に1つのアミノ酸残基が挿入されれば本来205番目のセリン残基は206番目となるが、そのような205番目のセリン残基に相当するセリン残基も、本発明においては205番目のセリン残基と呼ぶこととする。

# [0027]

B鎖の205番目のセリン、203番目のグリシン、43番目のヒスチジン、および99番目のアスパラギン酸のうち、置換される2つ以上のアミノ酸の組合せは特に制限されるものではないが、置換を受ける2つ以上のアミノ酸(置換部位)の組合せ、さらには、置換相手となるアミノ酸の種類により、基質結合能や抗血栓効果に違いが出ることがある。一例として、下記トロンビン誘導体1~5を挙げて説明する。

# [0028]

トロンビン誘導体1:置換部位がB鎖205番目のセリンと99番目のアスパラギン酸であり、セリンをアラニンに置換し、アスパラギン酸をアスパラギンに置換したトロンビン誘導体(配列番号22のアミノ酸番号44~351の配列)。

トロンビン誘導体2:置換部位がB鎖205番目のセリンと43番目のヒスチジンであり、セリンをアラニンに置換し、ヒスチジンをアラニンに置換したトロンビン誘導体(配列番号26のアミノ酸番号44~351の配列)。

トロンビン誘導体3:置換部位がB鎖205番目のセリンと203番目のグリシンであり、セリンをグリシンに置換し、グリシンをアラニンに置換したトロンビン誘導体(配列番号8のアミノ酸番号44~351の配列)。

トロンビン誘導体4:置換部位がB鎖205番目のセリンと203番目のグリシンであり、セリンおよびグリシンをアラニンに置換したトロンビン誘導体(配列番号24のアミノ酸番号44~351の配列)。

トロンビン誘導体5:置換部位がB鎖205番目のセリン、203番目のグリシン、および99番目のアスパラギン酸であり、セリンおよびグリシンをアラニンに置換し、アスパラギン酸をアスパラギンに置換したトロンビン誘導体(配列番号14のアミノ酸番号44~351の配列)。

#### [0029]

トロンビン誘導体 1 ~ 5 は何れも、ヒルジンゲルへの結合能を保持していたが、トロンビン誘導体 4 および 5 は、野生型トロンビンに比べ、ヘバリンゲルへの結合能が低下していた。

# [0030]

トロンビン誘導体  $1\sim 5$  は何れも抗血栓効果を有するものであるが、その効果の序列は下記の通りであった。

「トロンビン誘導体2>トロンビン誘導体1、3>>トロンビン誘導体4、5」特に、トロンビン誘導体2は、後述のようなカルボキシル基修飾の有無に関わらず非常に高い抗血栓効果がみられた。また、トロンビン誘導体2にみられる抗血栓効果は、凝固カスケードに対し特異的に作用するものであり、特にAPTTを良く延長した。さらに、トロンビン誘導体2のカルボキシル基を修飾したトロンビン誘導体における抗血栓効果は、いずれも強い、凝固カスケード、血小板凝集、および血小板粘着抑制作用によってもたらされるものであった。

トロンビン誘導体2および4は、共に205番目のセリンをアラニンに置換したものであるが、前述のようにその抗血栓効果には大きな違いが見られた。トロンビン誘導体3および4も、共に203番目のグリシンをアラニンに置換したものであるが、やはりその抗血栓作用には前述のような違いが見られた。

トロンビン誘導体1,3はそのままではそれほど強い抗血栓性は有さないが、後述のような化学修飾によって基質特異性を変化させるか、又はアミノ酸(例えばB鎖77番目の

リシン)を置換しフィブリノゲンへの親和性を特異的に低下させ、相対的に血液凝固第8因子に対する特異性を向上させる事によって、強いAPTT延長抑制効果又は血小板凝集抑制効果の一方又は両方を有するトロンビン誘導体が得られる。

一方、トロンビン誘導体4,5においてはカルボキシル基の化学修飾を行った場合でも、また77番目のリシンを置換し遺伝子工学的に特異性を変化させてもあまり強い抗血栓能は得られなかった。

# $[0\ 0\ 3\ 1]$

以上より、トロンビン活性中心の置換によって得られるトロンビン誘導体は、以下の様に分類される。ただし、以下の分類はあくまでも一例であり、本発明のトロンビン誘導体はこの外の分類に分類されるトロンビン誘導体であってもよい。

- A)活性中心セリン及び活性中心ヒスチジンを同時に置換することによって得られる、カルボキシル基修飾及びフィブリノゲンへの親和性を低下させるアミノ酸の置換無しで強い抗血栓能を有するタイプ。
- B) 活性中心セリン及び活性に関与する他のアミノ酸1つを同時に置換することによって得られるトロンビン誘導体であり、そのままではそれほど強い抗血栓能を持たないが、カルボキシル基修飾及び/又はフィブリノゲン親和性を低下させるアミノ酸の置換によって高い抗血栓能が現われるタイプ。
- () 活性中心セリンのみ/又は活性に関与する他のアミノ酸1つを同時に置換することによって得られるトロンビン誘導体でありカルボキシル基修飾及び/又はフィブリノゲン親和性を低下させるアミノ酸の置換によっても高い抗血栓能は現われないタイプ。
- D) 抗血栓能を有しているものも残存活性を有しているため、抗血栓剤としては使用できないタイプ。

# [0032]

本発明のトロンビン誘導体は、上記置換に加えて、さらに、ナトリウム結合部位が置換されたトロンビン誘導体であってもよい。ナトリウム結合部位とはBiochemistry 1992年、31巻、pl1721-11730に開示された部位をいう。この中ではB鎖232又はB鎖234のアスパラギン酸(配列番号2の281又は283番目のアスパラギン酸に相当するアスパラギン酸)が好ましい。これらのアスパラギン酸は両方が置換されてもよい。また、これらのアスパラギン酸は、アラニンもしくはアスパラギンに置換されることが好ましい。

#### $[0\ 0\ 3\ 3\ ]$

本発明のトロンビン誘導体は、上記置換に加えて、活性中心のアミノ酸以外のアミノ酸において、1又は数個のアミノ酸のさらなる置換によってトロンボモジュリン及び/またはフィブリノゲンへの結合能を特異的に低下した誘導体であることが好ましい。ここで、活性中心のアミノ酸としては、B鎖の205番目のセリン、43番目のヒスチジン、および99番目のアスパラギン酸などが挙げられる。このような誘導体のトロンボモジュリン及び/またはフィブリノゲン結合能は野生型トロンビンの50%以下に低下していることが好ましい。トロンボモジュリン結合能を選択的に低下させることで、本発明のトロンビン誘導体が生体内に投与された場合にトロンボモジュリンに結合し、本来生体内で機能するべきトロンビンのプロテイン(活性化を抑制することを防ぐことができる。このようなトロンビン誘導体は、少なくとも抗血液凝固カスケード又は抗血小板効果のいずれかを保持するものが好ましい。

トロンビンは、生体内ではトロンビンレセプター、血液凝固第8因子、トロンボモジュリン及びフィブリノゲンなどへの結合能を有しているが、上記トロンビン誘導体は、トロンビンレセプター又は血液凝固第8因子への結合能がフィブリノゲンへの結合能に比較して相対的に2倍以上に高まったトロンビン誘導体、またはトロンビンレセプター又は血液凝固第8因子への結合能がトロンボモジュリンへの結合能に比較し相対的に2倍以上に高まったトロンビン誘導体であることが好ましい。なお、「相対的に2倍以上に高まった」とは、例えば、アミノ酸の置換により、置換前に比較し、誘導体の、トロンビンレセプター又は血液凝固第8因子に対する結合定数、又は1Asys等での結合容量と、トロンボモジュリンやフィブリノゲンに対する結合定数もしくは結合量の比が2:1以上になることを

いう。

# [0034]

トロンボモジュリン及び/またはフィブリノゲンへの結合能を特異的に低下させる置換は特に限定されるものではないが、B鎖77番目のリシン(B鎖77;配列番号2の126番目のリシンに相当するリシン)又はB鎖24番目のアスパラギン(B鎖24;配列番号2の73番目のアスパラギン)を他のアミノ酸に置換することが好ましい。B鎖77リシン及びB鎖24 グルタミンを置換するアミノ酸は特に限定されるものではないが、アラニンまたはグルタミン酸であることが好ましい。

# [0035]

本発明のトロンビン誘導体は、ヒルジンC末端ペプチドへの結合能が野生型トロンビンの1%以上であり、トロンビン基質分解活性が野生型トロンビンの100万分の1以下である限りにおいて、上述した置換されるアミノ酸以外のアミノ酸において、1又は数個のアミノ酸が置換、欠失、挿入、付加されたアミノ酸配列を有する誘導体であってもよい。なお、ここで数個とは、2~20個、好ましくは2~10個、より好ましくは2~5個を意味する。また、ヒルジンC末端ペプチドへの結合能が野生型トロンビンの1%以上、かつトロンビン基質分解活性が野生型トロンビンの100万分の1以下である限りにおいて、配列番号2のアミノ酸配列と全体として一定以上の相同性、すなわち、80%以上、好ましくは90%以上、特に好ましくは95%以上の相同性を有する範囲で改変されたものであってもよい。

#### [0036]

上記のようなトロンビン誘導体は部位特異的変異導入法により各誘導体をコードするDNAを作製し、該DNAを哺乳動物細胞などで発現させることによって得られる。このようなDNAは上述したようにA鎖及びB鎖の両方をコードするものであってもよいし、各鎖をそれぞれ発現させてもよい。部位特異的変異導入法は特に限定されるものではないが、例えば、市販のQuikChange Site-Directed Mutagenesis Kit (ストラタジーン社製)などを用いて行っても良い。また、化学合成によってトロンビン誘導体を得ることもできる。

# [0037]

本発明のトロンビンはさらに、上記の誘導体のカルボキシル基が修飾されたものであってもよい。この場合、カルボキシル基がカルボジイミドによって修飾されたものが好ましい。カルボキシル基が修飾されることによって、フィブリノゲンに対する結合能が低下するため、トロンビンレセプターなどの基質に対する選択性が増し、より少量で抗血栓効果を達成することができる。トロンビン誘導体のカルボキシル基の修飾は、例えば、国際公開02/077031号バンフレットに記載の方法に基いて行うことができる。

#### [0038]

また、上記誘導体をアミノ基を有する化合物を用いてカルボキシル基修飾してもよい。アミノ基を有する化合物は特に制限されないが、アミノ酸のエステル、側鎖にアミノ基を有するポリエチレングリコールなどが好ましい。アミノ酸のエステルとしてはグリシンエチルエステルなどが挙げられる。アミノ基を有する化合物を用いる修飾も国際公開 0 2 / 0 7 7 0 3 1 号パンフレットに記載の方法に基いて行うことができる。一方、上記誘導体をポリエチレングリコールと反応させることによって、カルボキシル基を修飾してもよい。なお、ポリエチレングリコールまたはアミノ基を有するポリエチレングリコールを用いる場合、ポリエチレングリコール部分の分子量は 1 0 0 0 以下であることが好ましい。

# [0039]

抗血栓効果を特異的に上げるためにトロンビン表面のアミノ酸の置換を行った場合に得られる効果、及びさらにカルボキシル基修飾を組合わせた場合に得られる効果は、置換するアミノ酸の組み合わせなどによって大きく異なり、疾患及び病態など応じて、目的に応じてアミノ酸置換のみを導入したトロンビン誘導体または化学修飾を組み合わせたトロンビン誘導体を用いることができる。

即ち、深部静脈血栓症等の静脈における血栓症においては血液凝固を抑制する薬が一般に用いられるため、各トロンビン誘導体及びそのカルボキシル基修飾体の中から高いAPTT

延長効果を持つトロンビン誘導体を用いることが望ましい。

一方、動脈系の血栓症においては血小板凝集を抑制する薬が一般に用いられるため、高い血小板凝集抑制効果を持ったトロンビン誘導体が望まれる。その中よりAPTT延長効果の異なるトロンビン誘導体は出血など副作用の状況等に応じて選択がなされるべきである。

# [0040]

以下にトロンビン誘導体の活性中心のアミノ酸置換とそのカルボキシル基修飾との関係について一例を挙げて説明する。以下の説明は水溶性カルボジイミドを縮合剤として用い、且つ修飾をグリシンエチルエステルによって行い約15個のカルボキシル基が修飾された誘導体である。

修飾体1:B鎖205セリンをアラニンに、B鎖43ヒスチジンをアラニンに置換した誘導体は、カルボキシル基の修飾を行わずとも、非常に高いAPTT延長効果を有している。本配列のトロンビン誘導体はカルボキシル基修飾を行ってもAPTT延長効果はそれほど増幅されない。しかしながらカルボキシル基修飾を行った本配列のトロンビン誘導体は血小板に対するリストセチン凝集抑制効果、カルボキシル基修飾トロンビン(Mートロンビン)凝集抑制効果が大きく高まり、抗血液凝固、抗血小板能共に高い効果をもった誘導体が得られた。

修飾体2:B鎖205セリンをグリシンに、B鎖203番目のグリシンをアラニンに置換した誘導体は、化学修飾前には APTT延長効果、抗血小板効果は弱いものであるが、カルボキシル基修飾を行うことで、APTT延長効果、抗血栓効果が高まり中程度のAPTT抑制効果と高い抗血小板効果を持ち合わせたトロンビン誘導体が得られた。

修飾体3:B鎖205セリンをアラニンに、B鎖203番目のグリシンをアラニンに置換したトロンビン誘導体はAPTT延長効果をほとんど示さなかった。このトロンビン誘導体のカルボキシル基を修飾した場合にもAPTT延長効果の増幅は顕著には見られなかった。

修飾体4:B鎖205セリンをグリシンに、B鎖203グリシンをアラニンに、B鎖77リシンをグルタミン酸に置換したトロンビン誘導体はAPTT延長効果を持つが、抗血小板効果は非常に弱いものである。このトロンビン誘導体のカルボキシル基修飾を行った場合にはAPTT延長効果のさらなる増加は殆ど見られないが、抗血小板効果は顕著に増幅された。

修飾体5:205セリンをアラニンに置換した誘導体は比較的弱いAPTT延長効果を持つが抗血小板効果は非常に弱いものであった。このトロンビン誘導体にカルボキシル基修飾を行った場合にはAPTT延長効果の大幅な増幅は見られないが、抗血小板効果は顕著に増幅された。

## $[0\ 0\ 4\ 1]$

即ち前述の第一段階でスクリーニングされた誘導体の中から、A)活性中心におけるアミノ酸の置換の組み合わせにより抗血栓性の増したタイプ、B)さらなるアミノ酸の置換により、フィブリノゲンへの親和性を低下させて基質特異性を変化することによって抗血栓性が増したタイプ、C)さらなるアミノ酸の置換によってA)B)のトロンビン誘導体のトロンボモジュリン親和性が低下したタイプ、D) A)B)C)それぞれのトロンビン誘導体のカルボキシル基を修飾した種々の抗血栓効果を持ったタイプのトロンビン誘導体を選択することができる。

## [0042]

本発明の各種トロンビン誘導体は、目的によって使い分ける事が可能である。例えば、トロンビン誘導体2は静脈内におけるフィブリン血栓(赤色血栓)に対し効果的である事が予測され、トロンビン誘導体2のカルボキシル基修飾体は、動脈内の血小板血栓(白色血栓)に対しても効果的である事が予想される。

又、動脈内での血小板血栓においてもその疾患において出血が問題になる場合には、トロンビン誘導体2のカルボキシル基修飾体よりもAPTT延長効果の低いトロンビン誘導体3のカルボキシル基修飾体の方が望ましい。これらは疾患の患者に対するリスクと出血のリスクを考慮して選択することができる。

本発明は主にトロンビンの活性中心の変異体によって得られる抗血栓作用を持ったトロンビン誘導体に関するものである。本発明において、ヘパリン結合能の低下という現象は

、活性中心の変異によるトロンビン分子全体の構造変化が原因であると推察される。活性中心を本発明で開示されるような最適な組み合わせで変異させた上で、目的に応じ、さらなる組換之体として積極的にエクソサイト目に位置するアミノ酸を置換する事によってへパリン親和性を低下させたトロンビン誘導体を得ることも可能である。

# [0043]

なお、カルボキシル基修飾を行う場合、カルボキシル基修飾によって付加される効果は その修飾個数によっても大きく影響を受ける。

トロンビンのカルボキシル基修飾による上記各誘導体が修飾体1から5に記載される所望の効果を得るためには3個以上のカルボキシル基が修飾される事が望ましい。3個以下では前記カルボキシル基修飾によって付加される効果は著しく低下する。同様にカルボキシル基修飾は25個以下であることが望ましい。25個を超えた場合にも前記カルボキシル基修飾による効果は著しく低下すると共に 修飾による回収率の著しい低下が起こる。但しトロンビン誘導体表面にアミノ酸置換によってカルボキシル基を導入、削除して得られるトロンビン誘導体に関しては、その置換によるカルボキシル基の増加、減少は除いて考える。

さらに修飾個数によって多様な効果を持った誘導体が得られる。例えば前述の修飾体1)の修飾個数を8又は5個と減らす事で非常に高いAPTT延長効果と中から低度の抗血小板効果を持った誘導体が得られる。

カルボキシル基を修飾する場合、少なくともB鎖25番目のグルタミン酸のカルボキシル基が修飾されたものであることが好ましい。本発明のカルボキシル基が修飾されたトロンビン誘導体は、血小板のリストセチン凝集抑制能が向上された誘導体及び/または血小板のGP1bα拮抗能を有する誘導体であることが好ましい。

# [0044]

本発明はまた、上述したようなトロンビン誘導体をコードする DNAを提供する。このような DNAとしては、例えば、配列番号 7、13、21, 23, 25 または 27 の塩基番号 130~1056の塩基配列を含む DNAなどを例示することができる。また、上述したようなトロンビン誘導体をコードする限りにおいて、配列番号 7の塩基番号 130~1056の塩基配列を含む DNAとストリンジェントな条件下でハイブリダイズするものであってもよい。ここで、ストリンジェントな条件としては、例えば、通常のサザンハイブリダイゼーションの洗いの条件である 60  $\mathbb C$  、 $1\times SSC$ , 0.1% SDS、好ましくは  $0.1\times SSC$ , 0.1% SDS に相当する塩濃度で、1回より好ましくは  $2\sim3$  回洗浄する条件が挙げられる。

## [0045]

本発明のトロンビン誘導体は抗血栓作用を有している。この作用は、例えば、実施例に示すような血漿の部分活性化トロンボプラスチン時間(APTT)測定や全血凝固時間測定、血小板凝集能抑制効果によって確認することができる。

本発明のトロンビン誘導体を製剤学的に許容される製剤担体と組合わせることにより、医薬組成物として使用することができる。ここで、医薬組成物として好ましくは、抗血栓治療薬、抗炎症剤、血小板凝集抑制剤、血小板粘着抑制剤、血小板GPIb拮抗剤、トロンビンレセプター活性化抑制剤などを挙げることができる。上記製剤担体は製剤学的に許容されるものであれば特に制限されないが、通常の薬剤に汎用される注射剤用溶剤、安定剤、希釈剤、界面活性剤等を使用できる。本発明の医薬組成物の投与単位形態は特に限定されず、治療目的に応じて適宜選択できる。例えば、注射剤等を例示できる。本発明の医薬組成物の投与量は、症状などに応じて適宜選択される。

#### 【実施例】

## [0046]

以下実施例により本発明を更に詳しく説明するが、本発明はその趣旨を超えない限り、この実施例の範囲には限定されない。

#### [0047]

<1>トロンビン基質分解活性の測定

方法A:合成基質S2238(シグマ社)を基質とし、50mMトリス塩酸(pH8)、

37℃における405 n M の吸光度の増加による測定を行った。

被験サンプル(ヒト野生型トロンビンまたはトロンビン誘導体)の $50\,\mathrm{mM}$  トリス塩酸  $0.1\,\mathrm{M}$  NaCl溶液(pH7.4)、ヒト野生型トロンビンの場合の濃度は $1\,\mu\,\mathrm{g/ml}$ 、トロンビン誘導体の場合の濃度は $200\,\mu\,\mathrm{g/ml}$ )と、合成基質 $S2238050\,\mathrm{mM}$  トリス塩酸  $0.1\,\mathrm{M}$  NaCl溶液(pH7.4)を、 $200\,\mu\,\mathrm{l}$  ずつエッペンチューブに加え、 $37\,\mathrm{C}$ 、12時間インキュベーションした。反応停止は50%酢酸  $200\,\mu\,\mathrm{l}$ を添加して行った。

なお、合成基質 S 2 2 3 8 の 5 0 m M トリス塩酸 0.1M NaCl 溶液(pH7.4)と、5 0 m M トリス塩酸 0.1M NaCl (pH7.4)を、2 0 0  $\mu$  l ずつエッペンチューブに加え、37  $\mathbb{C}$ 、1 2 時間 インキュベーションしたものをコントロールとした。

12時間インキュベーションした後のコントロールの吸光度は、インキュベーション前に比べて0.005増加した。被験サンプルの12時間インキュベーション終了後の吸光度の増加が、インキュベーション前の吸光度に比べて0.05以下の場合は測定限界以下であると判定した。

方法Aにおいて活性が認められないレベルに活性が低下したトロンビンに関しては、さらに以下の方法B又はC又はDいずれかの活性測定を行った。

# [0048]

# [0049]

方法  $C: 50\,\text{mM}$  トリス塩酸  $0.1\,\text{M}$  NaCl(pH7.4) に溶解した $4\,\text{m}$  g/m l フィブリノゲン溶液  $2\,0\,0\,\mu$  1 に、 $0.2\,\text{m}$  g/m l に調整された被験サンプル(トロンビン誘導体)を $1\,0\,0\,\mu$  1 添加し良く混和したのち、 $37\,\text{C}$ 、3時間のインキュベーションを行った。3時間後のクロット形成の有無を目視によって判断した。

#### [0050]

方法D:  $50\,\text{mM}$  トリス塩酸  $0.1\,\text{M}$  NaCl pH7.4に溶解した $0.1\,\text{mg/ml}$  トロンビンレセプター細胞外ドメインペプチド(配列番号 4 )溶液  $200\,\mu$  l に、 $0.3\,\text{mg/ml}$  に調整された被験サンプル(トロンビン誘導体)を $100\,\mu$  l 添加し 良く混和したのち、 $37\,\text{C}$  3時間のインキュベーションを行った。 $50\,\text{M}$  酢酸  $200\,\mu$  l を添加して反応を停止した後、SDS-PAGEによってトロンビンレセプターの活性化の有無を確認した。目視で分解産物が確認される場合にSDSPAGEを-SH条件下で行いトロンビンレセプターの分解産物のバンドの濃さをライトキャプチャー(アトー株式会社)を用い解析比較した。

## $[0\ 0\ 5\ 1]$

< 2 > 基質結合能の測定法

方法E:ヒルジンC末端ペプチド(配列番号3)への結合性の確認

(1)ヒルジン(末端ペプチドゲルの作製

ヒルジン(末端ペプチド1 0  $\mathbf{m}$   $\mathbf{g}$   $\mathbf{e}$  0. 1  $\mathbf{M}$   $\mathbf{N}$   $\mathbf{a}$   $\mathbf{H}$   $\mathbf{c}$   $\mathbf{0}$   $\mathbf{g}$   $\mathbf{g}$   $\mathbf{g}$   $\mathbf{g}$   $\mathbf{e}$   $\mathbf{m}$   $\mathbf{e}$   $\mathbf{g}$   $\mathbf{e}$   $\mathbf{e}$   $\mathbf{e}$   $\mathbf{g}$   $\mathbf{e}$   $\mathbf{e$ 

(2)ヒルジン(末端ペプチド(配列番号3)への結合性の確認

ヒト野生型トロンビンもしくはトロンビン誘導体を含有する分画の2 m l を、5 0 m M トリス塩酸 0.15 M NaCl(pH8) 4 C に平衡化したヒルジン<math>C 末端ペプチドカラム10

m1に添加し、30m1の50mMトリス塩酸緩衝液で洗浄後、50mMトリス塩酸1MNaCl 1Mグアニジン塩酸(pH8)で溶出した。抗ヒトトロンビン抗体を用いたウェスタンブロッティングにより素通り分画、および溶出分画のトロンビンを確認した。なお、本実験では50%以下の担体への結合の誘導体は基質結合能を喪失していると判断した。

[0052]

方法F:バイオセンサー(lAsys日製産業)を用いたトロンビン誘導体のトロンビンレセプター結合能の測定

(1)トロンビン誘導体固定化キュベットの作製

被験サンプル(トロンビン誘導体)  $0.1 \text{ml} 0.1 \text{mg/ml} 10 \text{mM} NaHCO_3$ (pH8)を、NHS活性化CMデキストランキュベット(日製産業社)10分間 25 C で撹拌することにより、被験サンプル(トロンビン誘導体)をNHS活性化CMデキストランキュベットに固定し、トロンビン誘導体固定化キュベットを得た。引き続き 1 M エタノールアミン(pH8)を0.2 ml加えブロッキング処理を行った。

(2)約1000、500、200、100、50、25、10nMに調整した トロンビンレセプター細胞外ドメインペプチド(配列番号 4)の50mM リン酸緩衝液 0.15M NaCl 溶液(pH7.4)0.1m lを、(1)で得られたトロンビン誘導体固定化キュベットに加え結合曲線を解析した。解析はFAST fit(日製産業)を用い同社マニュアルに順じて行った。

[0053]

<3>APTT測定方法

本実施例において方法に関し特に指定が無い限り、APTTの測定は下記の方法にて行った

標準血漿(国際試薬社)とサンプルを混和し、総量の25%のAPTT試薬(国際試薬社)を加え37% 5分インキュベーションを行う。<math>5分後 0.1M  $CaCl_2を12μMになるように添加しカルシウム添加後 凝固までの時間を測定する。$ 

 $[0\ 0\ 5\ 4]$ 

[実験例1]

(1)ヒト野生型トロンビンの発現

ヒト野生型トロンビンのA鎖及びB鎖を含むDNA(配列番号 5)をベクターに挿入しCHO細胞にトランスフェクションし、プレトロンビン生産細胞を得た。同プレトロンビン生産細胞をCD-CHO培地2リットルで10日間培養した。得られたプレトロンビン生産細胞の培養液 2リットルを 20リットルの10 mM PIPES緩衝液(pH7)4 C CCC 6 時間ずつ 2 回透析したのち、CMセルロファイン(チッソ社)500 m 1に添加し、10 m M PIPES緩衝液(pH7)1 リットルにて洗浄した。次に、10 m M PIPES緩衝液(pH7)0  $\sim$  1 M, Na CI の直線的濃度 切配にて溶出を行った。溶出液を各 25 m 1 ずつの分画に分け、それぞれを抗ヒトトロンビンポリクローナル抗体(コスモバイオ社)を用いたウェスタンブロッティングによって確認したところ、ヒト野生型トロンビンは約 0. 4 Mで溶出された。

[0055]

(2)ヒト野生型トロンビンのエカリンによる活性化及び活性化ヒト野生型トロンビンの ヒルジン(末端ペプチドカラム結合性の確認

得られたヒト野生型トロンビンを $5 \,\mathrm{mg}$  含む分画約 $1 \,0 \,0 \,\mathrm{ml}$  を $2 \,\mathrm{U}$  ットルの $5 \,0 \,\mathrm{mM}$  トリス塩酸緩衝液、 $0 \cdot 1 \,5 \,\mathrm{M}$  NaCl, $5 \,\mathrm{mM}$ 、CaCl  $_2$  (pH8) 溶液に透析した後 エカリン (シグマ社)  $1 \,0 \,0$  unitsを加え  $37 \,\mathrm{C}$   $24 \,\mathrm{eff}$  間インキュベーションした。エカリン処理後の一部を用い方法E記載のヒルジンC 末端結合実験を行ったところ、素通り分画にはトロンビンは確認できず、溶出分画にトロンビンのバンドが確認された。

[0056]

(3)ヒト野生型トロンビンの精製

次にヒルジン(末端結合実験に使用した残りのエカリン活性化後のトロンビンを含む溶液  $9.8\,\mathrm{m}\,1$  を、 $5.0\,\mathrm{m}\,\mathrm{M}$  トリス塩酸緩衝液、 $0.1\,\mathrm{M}$  NaCl (pH8) で平衡化した硫酸化セルロファインカラム (チッソ社)  $2.0\,\mathrm{O}\,\mathrm{m}\,1$  に添加し、同緩衝液  $2.0\,\mathrm{O}\,\mathrm{m}\,1$  で同カラムを洗浄した後、 $5.0\,\mathrm{m}\,\mathrm{M}$  トリス塩酸緩衝液、 $1\,\mathrm{M}$  NaCl (pH8) にて溶出した。さらに溶出液

を50 m M トリス塩酸緩衝液、0.1 M NaCl (pH8) に透析し 同緩衝液で平衡化されたヒルジン(末端ペプチドカラム (ヒルジン(末端ペプチドを200 m g、NHS活性化セルロファイン (チッソ社) を30 m l とした以外は、前述の「方法C:ヒルジン、(1) ヒルジン(末端ペプチドゲルの作製」に記載の方法に準じて作製した) 30 m l に添加した。50 m M トリス塩酸緩衝液 150 m l で該ヒルジン(末端ペプチドカラムを洗浄した後、50 m M トリス塩酸緩衝液、1 M NaCl 1 M グアニジン塩酸 (pH8) にて溶出し、SDSPAGE上ほぼ純化されたヒルジン結合性のヒト野生型トロンビン 約5 m g を得た。

## $[0\ 0\ 5\ 7]$

# [実験例2]

(1) B鎖203グリシンをアラニンにB鎖205セリンをグリシンに置換したトロンビン (以下203A205Gトロンビン) の発現

203A205GトロンビンのDNAに相当する変異導入プライマーを用いたPCR法にて合成した。 203A205Gトロンビンをコードする遺伝子の塩基配列を配列番号7に示す。

203A205Gトロンビンを実験例1の(1)の方法で発現した。実験例1の(2)の方法に準じてヒルジンC末端ペプチド結合性を確認したところ、素通り分画にはバンドは確認されず、溶出ピークにトロンビン同様のバンドが確認された。引き続き実験例1の(3)の方法に準じて硫酸化セルロファイン、ヒルジンC末端ペプチドカラムによる精製を行った。SDS-PAGE上でほぼ純化された203A205Gトロンビンが約5mg得られた。

## [0058]

- (2) 203A 205Gトロンビンの基質分解活性測定
- (1)で得られた203A205Gトロンビンのトロンビン基質分解活性を、前述の方法Aに従って測定した結果、インキュベーション後の吸光度の有意な増加はみられなかった。

さらに、203A205Gトロンビンのトロンビン基質分解活性を、前述の方法Bに従って測定した結果、XIII因子のA鎖活性化産物のバンドは確認されなかった。

さらに、203A205Gトロンビンのトロンビン基質分解活性を、前述の方法Cに従って測定した結果、クロット形成は確認されなかった。

# [0059]

- (3) 203A205Gトロンビンのトロンビンレセプターへの結合能の確認
- (1)で得られた203A205Gトロンビンのトロンビンレセプターへの結合能を、前述の方法Fに従って測定した。203A205Gトロンビンのトロンビンレセプターの解離定数は $3.2\mu$  Mであった。

# [0060]

(4) 203A205Gトロンビンの活性化部分トロンボプラスチン時間(APTT)の測定

 $50\,\mu$  g/mlの $203\,A205\,G$ トロンビン(PBS; $137\,m$ M NaCl, $2.68\,m$ M KCl, $8.1\,m$ M Na $_2$ HPO4, $1.47\,m$ M KH $_2$ PO $_4$ (pH7.4)を $100\,\mu$ 1を標準血漿(国際試薬社) $100\,\mu$ 1と混合し、APTTを測定した。PBSのみを同様に添加した標準血漿をコントロールとして測定したところ、コントロールが4.8秒、 $203\,A205\,G$ トロンビンでは4.9秒であった。

#### $[0\ 0\ 6\ 1]$

(5) PRP (多血小板血漿:platelet rich plasma) を用いた203A205Gトロンビンの抗血小板機能の評価

評価 2 : 血小板凝集惹起物質として  $1\mu$  g/mlカルボキシル基修飾トロンビン(ヒト野生型)  $5\,\mathrm{m\,M}$  リン酸緩衝液  $0.15\mathrm{M}$  NaCl(pH7.4) 溶液を用いた以外は、評価(1) の方法に準じて実験を行った。コントロールとして、PRP130 $\mu$ 1に、 $5\,\mathrm{m\,M}$  リン酸緩衝液  $0.15\mathrm{M}$  NaCl(pH7.4)  $100\mu$ 1 を添加し透過率の経時変化を記録した。なお、透過率の測定はEASY TRACER ET-800 (東京光電株式会社)を用いて行った。結果を図 1 2 に示す

#### $[0\ 0\ 6\ 2]$

(6) カルボキシル基修飾203A205Gトロンビンの活性化部分トロンボプラスチン時間(APT)) 及びプロトロンビン時間(PT)の測定

1 mg/5 ml の 203 A 205 G F ロンビン/50 mM リン酸緩衝液 0.5 M NaCl (pH6.5) を 0.2 M グリシンエチルエステル 0.5 M NaCl (pH6.5) に室温で3時間透析した後、1-Ethyl-3-(3-dimethylaminopropyl)-carbodiimide (和光純薬)を、その濃度が<math>20 mg/mlになるように添加し、25 Cにて 1 時間 インキュベーションし、203 A 205 G F ロンビンのカルボキシル基を修飾した。質量分析の結果分子量約 1400 d 増加しており約 15 個のカルボキシル基が修飾されていた。

# [0063]

評価1:APTT測定1

修飾された203A205Gトロンビン $500\mu$ gを、5mM PIPES緩衝液 0.15M NaCl (pH7.4) 1m 1 に溶解したもの $50\mu$ lを、標準血漿(国際試薬社)に容量比で1:10 の割合となるように添加し、APTTを測定した。5mM PIPES緩衝液 0.15M NaCl (pH7.4) を、標準血漿(国際試薬社)に1:10 (容量比)となるように添加したものをコントロールとし、APTTを測定した。なお、APTT試薬には国際試薬社のものを使用した。その結果、コントロールのAPTTは38秒であったのに対し、カルボキシル基修飾203A205GトロンビンのAPTTは65秒であった。

評価2:APTT測定2

修飾された203A205Gトロンビン $50\mu$ gを、PBSに溶解したもの $100\mu$ lを、標準血漿(国際試薬社) $100\mu$ l に添加し、APTTを測定した。PBSを標準血漿(国際試薬社)に同様に添加したものをコントロールとし、APTTを測定した。なお、APTT試薬には国際試薬社のものを使用した。その結果、コントロールのAPTTは44秒であったのに対し、カルボキシル基修飾203A205GトロンビンのAPTTは85秒であった。

#### $[0\ 0\ 6\ 4]$

評価3:PTの測定

修飾された203A205 Gトロンビン500  $\mu$  gを、5 mM PIPES 緩衝液 0.15 M NaCl (pH7.4) 1 m 1 に溶解したものを、標準血漿(国際試薬社)に容量比で1:1 0 の割合となるように添加し、PTを測定した。5 mM PIPES 緩衝液 0.15 M NaCl (pH7.4) を、標準血漿(国際試薬社)に1:1 0 (容量比)となるように添加したものをコントロールとし、PTを測定した。なお、PT試薬にはSIGMA社のTHROMBOPLASTIN WITH CALSIUMを使用した。その結果、コントロールのPTは20 秒であったのに対しカルボキシル基修飾203A205 GトロンビンのPTは21 秒であった。

## [0065]

(7) PRP (多血小板血漿: platelet rich plasma) を用いたカルボキシル基修飾203A2 05Gトロンビンの抗血小板機能の評価

NaCl (pH7.4) 溶液 $35\mu$  l を添加した。コントロールとして、PRP1 $30\mu$  l に、 $5\,\text{mM}$  リン酸緩衝液 0.15M NaCl (pH7.4)  $100\mu$  l を添加し透過率の経時変化を記録した。なお、透過率(波長 $7\,0\,0\,\text{n}$  m)の測定はEASY TRACER ET-800 (東京光電株式会社)を用いて行った。結果を図 l に示す。なお、縦軸の透過率は血小板凝集能と正の相関を示す値である。

評価 2 : 血小板凝集惹起物質として  $1\mu$  g/mlカルボキシル基修飾トロンビン(ヒト野生型) 5 m M リン酸緩衝液 0.15 M NaCl (pH7.4) 溶液を用いた以外は、評価 1 の方法に準じて実験を行った。コントロールとして、PRP130  $\mu$  1 に、5 m M リン酸緩衝液 0.15 M NaCl (pH7.4) 100  $\mu$  1 を添加し透過率の経時変化を記録した。なお、透過率の測定はEASY TRACER ET-800 (東京光電株式会社)を用いて行った。結果を図 2 に示す。

図1、図2より、カルボキシル基修飾203A205Gトロンビンを用いることによって血小板凝集が低下したことから、該トロンビン誘導体は抗血小板効果を示すことがわかった。

## $[0\ 0\ 6\ 6]$

以上の結果から、203A205Gトロンビンは、活性が検出限界以下に低下しているが、基質への結合能は保持していることがわかった。また、APTTの結果および血小板凝集抑制実験の結果から、203A205Gトロンビンは $80\mu$  g/mlにおいては抗血栓効果、抗血小板効果を有していなかったが、約15個のカルボキシル基が修飾を受けたカルボキシル基修飾203A205Gトロンビンはより低濃度においても十分な抗血栓効果、抗血小板効果を有していることがわかった。

# $[0\ 0\ 6\ 7]$

- (8) 203A205Gトロンビンのカルボキシル基修飾個数と抗血栓性の関係の評価
- (8) -1. 修飾個数 1 から 1 0 個のカルボキシル基修飾 203 A 205 G 誘導体の作製

1-Ethyl-3-(3-dimethylaminopropyl)-carbodiimide (和光純薬)を終濃度  $2 \text{ mg} \sim 2 \text{ 0mg}$  gになるように加え 2 5  $\mathbb{C}$  にて 6 0 分~120 分インキュベーションを行い、203 A 205 Gトロンビンの 2 個~28 個のカルボキシル基を修飾した修飾誘導体 $1 \sim 5$  を得た。

# [0068]

(8) - 2. PBSに透析した修飾誘導体1~5のAPTT延長効果

修飾された203A205Gトロンビン $50\mu$ gを、PBSに溶解したもの $100\mu$ lを、標準血漿(国際試薬社) $100\mu$ lに添加し、APTTを測定した。PBSを標準血漿(国際試薬社)に同様に添加したものをコントロールとし、APTTを測定した。なお、APTT試薬には国際試薬社のものを使用した。

結果を以下に示す。

203A205Gトロンビン 約0個修飾 APTT 47秒 約1個修飾 48秒 203A205Gトロンビン修飾誘導体 1 APTT APTT 56秒 203A205Gトロンビン修飾誘導体2 約3個修飾 203A205Gトロンビン修飾誘導体3 約5個修飾 APTT 6 1 秒 203A205Gトロンビン修飾誘導体4 約10個修飾 APTT 77秒 203A205Gトロンビン修飾誘導体5 約26個修飾 APTT 60秒

以上よりEDCを用いた203A205Gトロンビンにおいて3 個以上のカルボキシル基修飾によって顕著なAPTT延長効果が確認された。修飾体 $1\sim4$  における修飾前後における回収率は75%以上であった。26 個修飾された誘導体においてはAPTT延長効果は見られるものの、凝集がおき、回収率が40%と低く過度な修飾による回収率の低下が起こることが分かった。

#### $[0\ 0\ 6\ 9\ ]$

## [実験例3]

(1) B鎖205セリンをアラニンに置換したトロンビン(以下205Aトロンビン)の発現205AトロンビンのDNAに相当する変異導入プライマーを用いたPCR法にて合成した。205Aトロンビンをコードする遺伝子の塩基配列を配列番号9に示す。

205Aトロンビンを実施例1の(1)の方法に準じて発現させた。実験例1の(2)の方法に準じてヒルジンC末端ペプチド結合性を確認したところ、素通り分画にはバンドは確

認されず、溶出ピークにトロンビン同様のバンドが確認された。引き続き実施例1の(3)の方法に準じ、硫酸化セルロファイン、ヒルジンC末端ペプチドカラムによる精製を行った。SDS-PAGE上 ほぼ純化された205Aトロンビンが約6mg得られた。

 $[0 \ 0 \ 7 \ 0]$ 

- (2) 205Aトロンビンの基質分解活性測定
- (1)で得られた205Aトロンビンのトロンビン基質分解活性を前述の方法Bに従って測定した結果、活性化されたXIIIのA鎖は確認されなかった。

 $[0\ 0\ 7\ 1]$ 

(3) 205Aトロンビンの活性化部分トロンボプラスチン時間(APTT)の測定

205Aトロンビン500 $\mu$ gを、PBS 1m1に溶解した溶液100 $\mu$ 1を、標準血漿(国際試薬社)に容量比で1:1の割合となるように添加し、APTTを測定した。PBSを、標準血漿(国際試薬社)に1:1で添加したものをコントロールとし、APTTを測定した。なお、APTT試薬には国際試薬社のものを使用した。その結果、コントロールのAPTTは55秒であったのに対し、205AトロンビンのAPTTは95秒であった。

205Aトロンビン50μgを、PBS 1mlに溶解した溶液100μlを、標準血漿(国際試薬社)に容量比で1:1の割合となるように添加し、APTTを測定した。PBSを、標準血漿(国際試薬社)に1:1で添加したものをコントロールとし、APTTを測定した。なお、APTT 試薬には国際試薬社のものを使用した。その結果、コントロールのAPTTは41秒であったのに対し、205AトロンビンのAPTTは62秒であった。

# [0072]

さらに、lmg/5mlの205Aトロンビン/50mMリン酸緩衝液 0.5M NaCl (pH6.5)を0.2 M グリシンエチルエステル 0.5M NaCl (pH6.5)に室温で3時間透析した後 1-Ethyl-3-(3-dimethylaminopropyl)-carbodiimide(和光純薬)を、その濃度が20mg/mlになるように添加し、25  $\mathbb C$ にて 1 時間インキュベーションし、205Aトロンビンのカルボキシル基を修飾した。

カルボキシル基修飾205Aトロンビン $50\mu$ gを、PBS 1mlに溶解した溶液 $100\mu$ lを、標準血漿(国際試薬社)に容量比で1:1の割合となるように添加し、APTTを測定した。PBSを、標準血漿(国際試薬社)に1:1で添加したものをコントロールとし、APTTを測定した。なお、APTT試薬には国際試薬社のものを使用した。その結果、コントロールのAPTTは40秒であったのに対し、カルボキシル基修飾205AトロンビンのAPTTは63秒であった。

## $[0\ 0\ 7\ 3]$

(5) PRP (多血小板血漿: platelet rich plasma) を用いた205Aトロンビンの抗血小板機能の評価

評価1:採血直後のクエン酸添加全血 $10\,\text{ml}$  を、 $800\,\text{rpm}$  で $15\,\text{分遠心し}$  、上澄みより $PRP\,2\,\text{ml}$  を得た。さらに $25\,00\,\text{rpm}$  で $10\,\text{分遠心}$  分離することによりPPP (乏血小板血漿: $p\,\text{latelet}$   $p\,\text{oo}$   $r\,\text{plasma}$ ) を得た。 $1\,0\,0\,\mu\,1$  添加した場合に $20\,\text{SA}$ トロンビンの終濃度が $70\,\mu\,g\,\text{/m\,l}$  となるように濃度が調整された、 $20\,\text{SA}$ トロンビンの $5\,\text{mM}$  リン酸緩衝液  $0.1\,\text{SM}$  NaCl ( $p\,\text{H}$  7.4) 溶液  $1\,0\,0\,\mu\,1$  を $PR\,P\,1\,3\,0\,\mu\,1$  に添加し、血小板凝集惹起物質として $5\,\text{m\,g}\,\text{/m\,l}$  リストセチン $5\,\text{m\,M}$  リン酸緩衝液  $0.1\,\text{SM}$  NaCl ( $p\,\text{H}$  7.4) 溶液 $35\,\mu\,1$  を添加した。コントロールとして、 $PR\,P\,1\,3\,0\,\mu\,1$  に、 $5\,\text{m\,M}$  リン酸緩衝液  $0.1\,\text{SM}$  NaCl ( $p\,\text{H}$  7.4) 溶液 $35\,\mu\,1$  を添加した。コントロールとして、 $PR\,P\,1\,3\,0\,\mu\,1$  に、 $5\,\text{m\,M}$  リン酸緩衝液  $0.1\,\text{SM}$  NaCl ( $p\,\text{H}$  7.4  $10\,0\,\mu\,1$  を添加し透過率の経時変化を記録した。なお、透過率(波長  $7\,0\,0\,\text{n\,m}$ ) の測定は $E\,\text{ASY}$  TRACER ET  $-8\,0\,0$  (東京光電株式会社) を用いて行った。しかしながら本実験で $7\,0\,\mu\,g\,\text{/m\,l}$ において血小板凝集抑制効果は確認されなかった。

評価 2 : 血小板凝集惹起物質として  $1\mu$  g/mlカルボキシル基修飾トロンビン(ヒト野生型)  $5\,\mathrm{m\,M}$  リン酸緩衝液  $0.15\,\mathrm{M}$  NaCl (pH7.4) 溶液を用いた以外は、評価(1)の方法に準じて実験を行った。コントロールとして、PRP130  $\mu$  1 に、 $5\,\mathrm{m\,M}$  リン酸緩衝液  $0.15\,\mathrm{M}$  NaCl (pH7.4)  $100\,\mu$  1 を添加し透過率の経時変化を記録した。なお、透過率の測定はEASY TRACER ET-800 (東京光電株式会社)を用いて行った。しかしながら本実験で70  $\mu$  g/mlにおいては血小板凝集抑制効果は確認されなかった。

以上より、205Aトロンビンは弱いAPTT延長効果が確認された。しかしながら抗血小板効果は確認されなかった。

 $[0\ 0\ 7\ 4\ ]$ 

[実験例4]

(1) B鎖205セリンをスレオニンに置換したトロンビン(以下205Tトロンビン)の発現205TトロンビンのDNAに相当する変異導入プライマーを用いたPCR法にて合成した。205Tトロンビンをコードする遺伝子の塩基配列を配列番号11に示す。

205Tトロンビンを実施例1の(1)の方法で発現させた。実験例1の(2)の方法に準じてヒルジンC末端ペプチド結合性を確認したところ、素通り分画にはバンドは確認されず、溶出ピークにトロンビン同様のバンドが確認された。引き続き実施例1の(3)の方法に準じて硫酸化セルロファイン、ヒルジンC末端ペプチドカラムによる精製を行った。SDS-PAGE上 ほぼ純化された205Tトロンビンが約5mg得られた。

[0075]

(2) 205Tトロンビンの基質分解活性測定

(1)で得られた205Tトロンビンのトロンビン基質分解活性を、前述の方法Aに従って測定した結果、205Tトロンビンの基質分解活性は、ヒト野生型トロンビンに比較し約 $2.5 \times 1.0^{-4}$ の活性であった。

さらにトロンビンのトロンビン基質分解活性を、前述の方法Bに従って測定した結果、ほぼ全てのXIIIのA鎖は野生型トロンビン同様の活性化を受け、分解された活性化血液凝固XIII因子のバンドが確認された。以上より、205Tトロンビンは活性が残存していることがわかった。

[0076]

[実験例5]

(1) B鎖203グリシンをアラニンにB鎖205セリンをアラニンにB鎖99アスパラギン酸をアスパラギンに置換したトロンビン(203A205A99Nトロンビン)の発現

203A205A99NトロンビンのDNAに相当する変異導入プライマーを用いたPCR法にて合成した。203A205A99Nトロンビン塩基配列を配列番号13に示す。

203A205A99Nトロンビンを実施例1の(1)の方法で発現した。実験例1の(2)の方法に準じてヒルジンC末端ペプチド結合性を確認したところ、素通り分画にはバンドは確認されず、溶出ピークにトロンビン同様のバンドが確認された。引き続き実施例1の(3)の方法に準じ、硫酸化セルロファイン、ヒルジンC末端ペプチドカラムによる精製を行った。<math>SDS-PAGE上ほぼ純化された203A205A99Nトロンビンが約5mg得られた。

[0077]

(2) 203A 205A 99Nトロンビンの基質分解活性測定

(1)で得られた203A205A99Nトロンビンのトロンビン基質分解活性を、前述の方法Aに従って測定した結果、インキュベーション後の吸光度の増加はみられなかった。

さらに、203A205A99Nトロンビンのトロンビン基質分解活性を、前述の方法Bに従って 測定した結果、XIII因子のA鎖活性化産物のバンドは確認されなかった。

[0078]

(3) 203A205A99Nトロンビン添加血液のAPTTの測定

203A205A99Nトロンビン $100\mu$ gを5mM PIPES緩衝液 0.15M NaCl (pH7.4) 1 m 1 に溶解したものを、標準血漿(国際試薬社)に容量比で1:1 の割合となるように添加し、APTTを測定した。5mM PIPES緩衝液 0.15M NaCl (pH7.4) を、標準血漿(国際試薬社)に容量比1:1 の割合となるように添加したものをコントロールとし、APTTを測定した。なお、APTT試薬には国際試薬社のものを使用した。その結果、コントロールのAPTTは55秒であったのに対し、203A205A99NトロンビンのAPTTは60秒であった。以上より、203A205A99Nトロンビンはヒルジンゲルへの結合能を有し且つ、活性が十分に低下しているものも十分な抗血栓効果を有していないことがわかった。

[0079]

[実験例6]

(1)B鎖205セリンをバリンに置換したトロンビン(以下205Vトロンビン)の発現

205VトロンビンのDNAに相当する変異導入プライマーを用いたPCR法にて合成した。205Vトロンビンをコードする遺伝子の塩基配列を配列番号15に示す。

205Vトロンビンを実施例1の(1)の方法で発現した。実験例1の(2)の方法に準じてヒルジンC末端ペプチド結合性を確認したところ、素通り分画にほぼすべてのトロンビンのバンドが現われ、溶出ピークにはトロンビンのバンドが確認されなかった。これにより、205Vトロンビンは基質結合能が低下していることがわかった。

 $[0 \ 0 \ 8 \ 0]$ 

# [実験例7]

(1)B鎖205セリンをアスパラギン酸に置換したトロンビン(以下205Dトロンビン)の発現

205DトロンビンのDNAに相当する変異導入プライマーを用いたPCR法にて合成した。205Dトロンビン塩基配列を配列番号17に示す。

205Dトロンビンを実施例1の(1)の方法で発現した。実験例1の(2)の方法に準じてヒルジンC末端ペプチド結合性を確認したところ、素通り分画にほぼすべてのトロンビンのバンドが現われ、溶出ピークにはトロンビンのバンドが確認されなかった。これにより、205Dトロンビンは基質結合能が低下していることがわかった。

[0081]

# [実験例8]

(1) B鎖205セリンをアスパラギンに置換したトロンビン(以下205Nトロンビン)の発現205NトロンビンのDNAに相当する変異導入プライマーを用いたPCR法にて合成した。205Nトロンビンをコードする遺伝子の塩基配列を配列番号19に示す。

205Nトロンビンを実施例1の(1)の方法で発現した。実験例1の(2)の方法に準じてヒルジンC末端ペプチド結合性を確認したところ、素通り分画にほぼすべてのトロンビンのバンドが現われ、溶出ピークにはトロンビンのバンドが確認されなかった。これにより、205Nトロンビンは基質結合能が低下していることがわかった。

[0082]

## [実験例9]

国際公開第01/03740号パンフレットの実施例1記載のアンヒドロトロンビンのトロンビンレセプター結合能の測定を、方法Dにより測定したところ、該アンヒドロトロンビンとトロンビンレセプターの解離定数は1.2μMであった。

[0083]

#### [実験例10]

(1) B鎖205セリンをアラニンにB鎖99アスパラギン酸をアスパラギンに置換したトロンビン (205A99Nトロンビン) の発現

205A99NトロンビンのDNAに相当する変異導入プライマーを用いたPCR法にて合成した

205A99Nトロンビンをコードする遺伝子の塩基配列を配列番号 2 1 に示す。

205A99Nトロンビンを実施例1の(1)の方法で発現した。実験例1の(2)の方法に準じてヒルジンC末端ペプチド結合性を確認したところ、素通り分画にはバンドは確認されず、溶出ピークにトロンビン同様のバンドが確認された。引き続き実施例1の(3)の方法に準じ、硫酸化セルロファイン、ヒルジンC末端ペプチドカラムによる精製を行った。SDS-PAGE上ほぼ純化された205A99Nトロンビンが約5.5mg得られた。

 $[0 \ 0 \ 8 \ 4]$ 

- (2) 205A99Nトロンビンの基質分解活性測定
- (1)で得られた205A99Nトロンビンのトロンビン基質分解活性を、前述の方法Aに従って測定した結果、インキュベーション後の吸光度の増加はみられなかった。

さらに、205A99Nトロンビンのトロンビン基質分解活性を、前述の方法Bに従って測定した結果、XIIIのA鎖活性化産物のバンドは確認されなかった。

[0085]

(3) 205A99Nトロンビンの活性化部分トロンボプラスチン時間(APTT)の測定 205A99Nトロンビン $50\mu$ 8を、PBS 1m1に溶解し、その $100\mu$ 1 を、標準血漿(国際試薬社)に $100\mu$ 1 と混和し、APTTを測定した。PBSを、標準血漿(国際試薬社)に1:1 で添加したものをコントロールとし、APTTを測定した。なお、APTT試薬には国際試薬社のものを使用した。その結果、コントロールのAPTTは55秒であったのに対し、205A99NトロンビンのAPTTは58秒であった。

# [0086]

# [実験例11]

(1) B鎖203 グリシンをアラニンにB鎖205セリンをアラニンに置換したトロンビン(203A 205Aトロンビン)の発現

203A205AトロンビンのDNAに相当する変異導入プライマーを用いたPCR法にて合成した。203A205Aトロンビンをコードする遺伝子の塩基配列を配列番号23に示す。

203A205Aトロンビンを実施例1の(1)の方法で発現した。実験例1の(2)の方法に準じてヒルジンC末端ペプチド結合性を確認したところ、素通り分画にはバンドは確認されず、溶出ピークにトロンビン同様のバンドが確認された。引き続き実施例1の(3)の方法に準じ、硫酸化セルロファイン、ヒルジンC末端ペプチドカラムによる精製を行った。<math>SDS-PAGE上ほぼ純化された203A205Aトロンビンが約4mg得られた。

# [0087]

- (2) 203A205Aトロンビンの基質分解活性測定
- (1)で得られた203A205Aトロンビンのトロンビン基質分解活性を、前述の方法Aに従って測定した結果、インキュベーション後の吸光度の増加はみられなかった。

さらに、203A205Aトロンビンのトロンビン基質分解活性を、前述の方法Bに従って測定した結果、XIIIのA鎖活性化産物のバンドは確認されなかった。203A205AトロンビンはヒルジンC末端ペプチド結合性を有し且つ十分に活性を失っていることが分かった。203A205Aトロンビン $100\,\mu$  gを、 $5\,m$ M PIPES緩衝液  $0.15\,M$  NaCI (pH7.4)  $1\,m$ Iに溶解したものを、標準血漿(国際試薬社)に容量比で1:1 の割合となるように添加し、APTTを測定した。 $5\,m$ M PIPES緩衝液  $0.15\,M$  NaCI (pH7.4) を、標準血漿(国際試薬社)に1:1 の割合となるように添加したものをコントロールとし、APTTを測定した。なお、APTT試薬には国際試薬社のものを使用した。その結果、コントロールのAPTTは $55\,M$ であったのに対し、203A205AトロンビンのAPTTは $55\,M$ であった。

## [0088]

## [実験例12]

(1) B鎖205セリンをアラニンに、B鎖43ヒスチジンをアラニンに置換したトロンビン (205A43Aトロンビン) の発現

205A43AトロンビンのDNAに相当する変異導入プライマーを用いたPCR法にて合成した。205A43Aトロンビンをコードする遺伝子の塩基配列を配列番号25に示す。

205A43Aトロンビンを実施例1の(1)の方法で発現した。実験例1の(2)の方法に準じてヒルジンC末端ペプチド結合性を確認したところ、素通り分画にはバンドは確認されず、溶出ビークにトロンビン同様のバンドが確認された。引き続き実施例1の(3)の方法に準じ、硫酸化セルロファインによる精製を行った後、50mM NaHCO3 50mM NaCIに透析を行い50mM NaHCO3 50mM NaCIで平衡化されたヘバリンセルロファイン 10mlにアプライした。同緩衝液20mlで洗浄した後、50mM NaHCO3 1M NaCIまでのlml/min 60min条件での濃度匀配にて溶出を行った。2mlずつのフラクションを回収し205A43Aトロンビンを含むフラクションを回収した。回収された205A43Aトロンビンを再び50mM NaHCO3 50mM NaCIに透析を行い50mM NaHCO3 50mM NaCIで平衡化されたヘバリンセルロファイン 10mlに再度アプライした。同緩衝液20mlで洗浄した後、50mM NaHCO3 1M NaCIまでのlml/min 60min条件での濃度匀配にて溶出を行い、同様に2mlずつのフラクションを回収し205A43Aトロンビンを含むフラクションを再度精製、回収した。SDS-PAGE上ほぼ純化された205A43Aトロンビンが約5mg得られた。

# [0089]

- (2) 205A43Aトロンビンの基質分解活性測定
- (1)で得られた205A43Aトロンビンのトロンビン基質分解活性を、前述の方法Aに従って測定した結果、インキュベーション後の吸光度の増加はみられなかった。

205A43Aトロンビン $25\mu$  gを、5mM PIPES緩衝液 0.15M NaCl (pH7.4) 1mlに溶解したものを、標準血漿(国際試薬社)に容量比で1:1 の割合となるように添加し、APTTを測定した。5mM PIPES緩衝液 0.15M NaCl (pH7.4) を、標準血漿(国際試薬社)に1:1 の割合となるように添加したものをコントロールとし、APTTを測定した。なお、APTT試薬には国際試薬社のものを使用した。その結果、コントロールのAPTTは48秒であったのに対し、205A43AトロンビンのAPTTは132秒であった。

## [0090]

(3) 205A43Aトロンビンの活性化部分トロンボプラスチン時間(APTT)及びプロトロンビン時間(PT)の測定

APTTの測定:205A43Aトロンビン $25\mu$ gを、5mM PIPES緩衝液 0.15M NaCl (pH7.4) 1ml に溶解したものを、標準血漿(国際試薬社)に容量比で1:1 の割合となるように添加し、APTTを測定した。5mM PIPES緩衝液 0.15M NaCl (pH7.4) を、標準血漿(国際試薬社)に1:1 の割合となるように添加したものをコントロールとし、APTTを測定した。なお、APTT試薬には国際試薬社のものを使用した。その結果、コントロールのAPTTは48秒であったのに対し、205A43AトロンビンのAPTTは132秒であった。

# [0091]

PTの測定:205A43Aトロンビン $25\mu$  gを、5mM PIPES緩衝液 0.15M NaCl (pH7.4) 1m Ic 溶解したものを、標準血漿(国際試薬社)に容量比で1:1 の割合となるように添加し、PTを測定した。5mM PIPES緩衝液 0.15M NaCl (pH7.4) を、標準血漿(国際試薬社)に1:1 の割合となるように添加したものをコントロールとし、P T を測定した。なお、P T 試薬にはS I G M A 社のT HROMBOPLASTIN WITH CALSIUMを使用した。その結果、コントロールのP T は25 秒であったのに対し、205A43AトロンビンのP T は25 秒であった。

# [0092]

(4) カルボキシル基修飾205A43Aトロンビンの活性化部分トロンボプラスチン時間(APTT)の測定

1 mg/5ml の 205 A436 h ロンビン/ 50 m M リン酸緩衝液 0.5 M N a C 1 p H 6.5 を 0.2 M グリシンエチルエステル 0.5 M N a C 1 (pH 6.5) に室温で 3 時間透析した後 1 - E thy 1-3-(3-dimethy 1 aminopropy 1)-carbodiimide (和光純薬)を、その濃度が <math>20 mg/ml になるように添加し、 25 C にて 1 時間 インキュベーションし、 205 A43 A トロンビンのカルボキシル基を修飾した。修飾体の質量分析の結果、約 16 個のカルボキシル基が修飾された。

#### [0093]

修飾された205A43Aトロンビンを5mM PIPES緩衝液 0.15M NaCl (pH7.4) 1m1に溶解したものを、標準血漿(国際試薬社)に容量比で1:1 の割合となるように添加し、APTTを測定した。5mM PIPES緩衝液 0.15M NaCl (pH7.4) を、標準血漿(国際試薬社)に1:1 で添加したものをコントロールとし、APTTを測定した。なお、APTT試薬には国際試薬社のものを使用した。その結果、コントロールのAPTTは48秒であったのに対し、修飾205A43AトロンビンのAPTTは125秒であった。

## [0094]

(5) PRPを用いた205A43Aトロンビンの抗血小板機能の評価

評価 1 : 採血直後のクエン酸添加全血 $10\,\mathrm{m}$  | を、 $800\,\mathrm{r}$  pmで $15\,\mathrm{f}$  遠心し、上澄みより $PRP\,2\,\mathrm{m}$  | を得た。さらに $2500\,\mathrm{r}$  pmで $10\,\mathrm{f}$  遠心分離することによりPPPを得た。 $1\,0\,0\,\mu\,1$  添加した場合に $20\,5\,\mathrm{A}\,4\,3\,\mathrm{A}$ トロンビンの終濃度が、 $3\,0\,\mu\,\mathrm{g}/\mathrm{m}\,1$  になるように濃度が調製された、 $20\,5\,\mathrm{A}\,4\,3\,\mathrm{A}$ トロンビンの $5\,\mathrm{m}\,\mathrm{M}$  リン酸緩衝液  $0.15\,\mathrm{M}$  Na $0\,1$  (pH7.4) 溶液を、 $1\,0\,0\,\mu\,1$  ずつPR  $P130\,\mu\,1$  に添加し、惹起物質として $5\,\mathrm{m}\,\mathrm{g}/\mathrm{m}$  リストセチン $5\,\mathrm{m}\,\mathrm{M}$  リン酸緩衝液  $0.15\,\mathrm{M}$  Na $0\,1$  (pH7.4) 溶液 $35\,\mu\,1$  を添加した。コントロールとして、 $PRP130\,\mu\,1$  に、 $5\,\mathrm{m}\,\mathrm{M}$  リン酸緩衝液  $0.15\,\mathrm{M}$  Na $0\,1$  、 $0.15\,\mathrm{M}$  Na $0\,1$  Na $0\,1$  、 $0.15\,\mathrm{M}$  Na $0\,1$  、 $0.15\,\mathrm{M}$  Na $0\,1$  Na $0\,$ 

果を図3に示す。

評価 2 : 惹起物質として $1\mu$  g/mlカルボキシル基修飾トロンビン 5 mM リン酸緩衝液 0.15M NaCl (pH7.4) 溶液を用いた以外は、評価 1 の方法に準じて実験を行った。コントロールとして、PRP130  $\mu$  1 に、5 mM リン酸緩衝液 0.15M NaCl (pH7.4)  $100\mu$  1 を添加し透過率の経時変化を記録した。結果を図 4 に示す。

# [0095]

(6) PRPを用いたカルボキシル基修飾205A43Aトロンビンの抗血小板機能の評価

評価2:惹起物質として $1\mu$  g/mlカルボキシル基修飾トロンビン5 mM リン酸緩衝液 0.15M NaCl(pH7.4) 溶液を用いた以外は、評価(1)の方法に準じて実験を行った。コントロールとして、PRP130 $\mu$  1 に、5 mM リン酸緩衝液 0.15M NaCl(pH7.4)  $100\mu$  1 を添加し透過率の経時変化を記録した。なお、透過率の測定はEASY TRACER ET-800 (東京光電株式会社)を用いて行った。結果を図8~10に示す。

# [0096]

以上の結果から、205A43Aトロンビン誘導体は化学修飾の有無に関わらず抗血栓能を有したが、抗血小板作用については修飾の有無によって効果に差があった。したがって、205A43Aトロンビン誘導体はAPTTを中心とした血液凝固に主に強く作用し、カルボキシル基修飾205A43Aトロンビン誘導体はAPTTと共に強い抗血小板能を有する事が分かった。

# [0097]

## [実験例13]

(1) B鎖203グリシンをアラニンにB鎖205セリンをグリシンにB鎖77リシンをグルタミン酸に置換したトロンビン(77E203A205Gトロンビン)の発現

77E203A205GトロンビンのDNAに相当する変異導入プライマーを用いたPCR法にて合成した。77E203A205Gトロンビン塩基配列を配列番号27に示す。

77E203A205Gトロンビンを実施例1の(1)の方法で発現した。実験例1の(2)の方法に準じてヒルジンC末端ペプチド結合性を確認したところ、素通り分画にはバンドは確認されず、溶出ピークにトロンビン同様のバンドが確認された。引き続き実施例1の(3)の方法に準じ、硫酸化セルロファイン、ヒルジンC末端ペプチドカラムによる精製を行った。SDS-PAGE上ほぼ純化された77E203A205Gトロンビンが約3mg得られた。

## [0098]

(2) 77E203A205Gトロンビン添加血液のAPTTの測定

77E203A205Gトロンビン $50\mu$ gをPBSに溶解したものを、標準血漿(国際試薬社)に容量比で1:1の割合となるように添加し、APTTを測定した。同様にPBSを、標準血漿(国際試薬社)に容量比1:1の割合となるように添加したものをコントロールとし、APTTを測定した。なお、APTT試薬には国際試薬社のものを使用した。その結果、コントロールのAPTTは44种であったのに対し、77E203A205GトロンビンのAPTTは78种であった。又、以上より、203A205Gトロンビンは十分な抗血栓能を有していなかったが77E203A205Gトロンビンは77リシンの置換によりフィブリノゲン親和性を低下させることにより大幅なAPTT延長効果の増加が起こり十分な抗血栓効果を有している事が分かった。

#### [0099]

(3) 203A205G77Eトロンビンのフィブリノゲン及びトロンボモジュリンへの結合特異性

# の確認

203A205Gトロンビン誘導体の0.1mg/ml 10mM  $NaHCO_3$  (pH8) 溶液、および203A205G77E トロンビン誘導体の0.1mg/ml 10mM  $NaHCO_3$  (pH8) 溶液を、それぞれnHS活性化CMデキストランキュベット(日製産業社)に添加し、10分間、25 C で撹拌することにより、被験サンプル(トロンビン誘導体)をnHS活性化CMデキストランキュベットに固定し、203A205G トロンビン固定化キュベットおよび203A205G77Eトロンビン固定化キュベットを得た。203A205G77E 1000

さらに両キュベットを同様に洗浄、再生後、両キュベットに500nMの血液凝固第8因子溶液(50mM Tris塩酸 0.15M NaCl 10mM CaCl<sub>2</sub>(pH7.4)に溶解)を $100\mu$ 1加之たところ3分後203A205Gトロンビン固相化キュベットには約300arc secの血液凝固第8因子が吸着され、203A205G77Eトロンビン固相化キュベットには約300arc secの血液凝固第8因子が吸着された。

さらに両キュベットを $50\,\mathrm{mM}$  リン酸緩衝液、 $2\,\mathrm{M}$  NaCl、 $30\,\mathrm{mM}$  ベンズアミジン( $\mathrm{pH7.4}$ )で洗浄、再生後、 $203\,\mathrm{A}205\,\mathrm{G}$ トロンビン固定化キュベットおよび $203\,\mathrm{A}205\,\mathrm{G}$ 77Eトロンビン固定化キュベットそれぞれに、 $50\,\mathrm{nM}$ の可溶性トロンボモジュリン溶液(コスモバイオ)( $50\,\mathrm{mM}$  リン酸緩衝液、 $0.15\,\mathrm{M}$  NaCl( $\mathrm{pH7.4}$ )に溶解)を $100\,\mu$  1 加えたところ、3分後  $203\,\mathrm{A}205\,\mathrm{G}$ トロンビン固相化キュベットには約 $100\,\mathrm{arc}$  secのトロンボモジュリンが吸着され、 $203\,\mathrm{A}205\,\mathrm{G}$ 77Eトロンビン固相化キュベットには約 $20\,\mathrm{arc}$  secのトロンボモジュリンが吸着された。

以上の結果より203A205Gトロンビン誘導体に新たにB鎖77リシンのグルタミン酸への置換を加えることでキュベット上で血液凝固第8因子吸着に対してフィブリノゲン吸着量は約3分の1に トロンボモジュリン吸着は約2分の1に低下している事がわかった。

また I A s y s F A S T F I T P R O G R A M (日製産業)による解析の結果 203A205 G に対するフィブリノゲン結合定数は 10.8n M、血液凝固第 8 因子親和性は 5.07n M、203A205 G 77 E に対するフィブリノゲン親和性は 190n M、血液凝固第 8 因子親和性は 22.5n M であった。

この特異性の変化により実験例 1.3 に記載の 7.7E203A205Gトロンビン誘導体は 203A205Gトロンビン誘導体に比較し高い APTT延長能を有している事が予測された。

# [0100]

# [実験例14]

(1) B鎖203グリシンをアラニンにB鎖205セリンをアラニンにB鎖99アスバラギン酸をアスパラギンにB鎖77リシンをグルタミン酸に置換したトロンビン(77E203A205A99Nトロンビン)の発現

77E203A205A99NトロンビンのDNAに相当する変異導入プライマーを用いたPCR法にて合成した。77E203A205A99Nトロンビン塩基配列を配列番号29に示す。

77E203A205A99Nトロンビンを実施例1の(1)の方法で発現した。実験例1の(2)の方法に準じてヒルジンC末端ペプチド結合性を確認したところ、素通り分画にはバンドは確認されず、溶出ピークにトロンビン同様のバンドが確認された。引き続き実施例1の(3)の方法に準じ、硫酸化セルロファイン、ヒルジンC末端ペプチドカラムによる精製を行った。SDS-PAGE上ほぼ純化された77E203A205A99Nトロンビンが約3mg得られた。

## 

(2) 77E203A205A99Nトロンビン添加血液のAPTTの測定

77E203A205A99Nトロンビン $50\mu$ gをPBSに溶解したものを、標準血漿(国際試薬社)に容量比で1:1の割合となるように添加し、APTTを測定した。同様にPBSを、標準血漿(国際試薬社)に容量比1:1の割合となるように添加したものをコントロールとし、APTTを測定した。なお、APTT試薬には国際試薬社のものを使用した。その結果、コントロールのAPTTは41秒であったのに対し、77E203A205A99NトロンビンのAPTTは39秒であった。以上より、77E203A205A99Nトロンビンがルへの結合能を有し且つ、活性が十分に低下し且つフィブリノゲン親和性を低下させる変異を加えてはているものも十分な抗APTT効果を有していないことがわかった。

# $[0\ 1\ 0\ 2\ ]$

[実験例15]

カルボキシル基修飾アンヒドロトロンビン及びカルボキシル基修飾203A205Gトロンビン、205A43AトロンビンのAPTTの比較

PBSに溶解した $50\mu$  g/mlのカルボキシル基修飾アンヒドロトロンビン、カルボキシル基修飾203A205Gトロンビン、205A43Aトロンビンを以下の2 方法でAPTTを測定した。コントロールとしてPBSのみを添加して下記方法a, b にてAPTTを測定した。尚 カルボキシル基修飾アンヒドロトロンビンは残存活性の影響を極力防ぐために合成後 APMSF 試薬(シグマ社)を2 mg/ml添加し不活性化を行い、さらにその後PBSにて十分透析を行い残存APMSF 試薬の除去を行った。

# [0103]

方法a:標準血漿 $1\ 0\ 0\ \mu$  lにAPTT試薬 $5\ 0\ \mu$  l を加え $3\ 7\ \mathbb{C}$ で $5\ \mathcal{H}$  インキュベーションを行ったものにPBSに溶解した各サンプル $1\ 0\ 0\ \mu$  l を加えさらにすばやく $0\ .\ 1\ M\ CaCl_{2}$  を $1\ 2\ \mu$  l 加えカルシウム添加から凝固までの時間を測定した。

方法 b :標準血漿 1 0 0  $\mu$  1 PBSに溶解した各サンプル 1 0 0  $\mu$  1 及びAPTT試薬 5 0  $\mu$  1 を加え 3 7  $\mathbb{C}$ で 5 分インキュベーションを行った後 0 . 1 M  $\mathbb{C}$  a  $\mathbb{C}$  l 2  $\mu$  1 加え カルシウム添加から凝固までの時間を測定した。

# $[0\ 1\ 0\ 4\ ]$

結果を以下に示す。

コントロール方法 a 43秒; 方法 b 45秒カルボキシル基修飾アンヒドロトロンビン方法 a 105秒; 方法 b 66秒カルボキシル基修飾203A205Gトロンビン方法 a 75秒; 方法 b 80秒205A43Aトロンビン方法 a 81秒; 方法 b 104秒

## [0105]

以上より、カルボキシル基修飾アンヒドロトロンビンにおいては方法aにて良くAPTTを延長したのに対しカルボキシル基修飾203A205Gトロンビン、205A43Aトロンビンにおいては方法bにて良くAPTTが延長された。またカルボキシル基修飾203A205Gトロンビンよりも205A43Aトロンビンの方が同一条件においてAPTT延長効果は高かった。

方法 a は標準血漿と各トロンビン誘導体混合物のインキュベーション時間が無いのに対し方法 b は標準血漿と各トロンビン誘導体混合物が37℃で5分インキュベーションされる。カルボキシル基修飾アンヒドロトロンビンにおいて方法 b でAPTT延長効果が少なくなった理由としてアンヒドロトロンビンから化学的に合成されるアンヒドロトロンビンにおいて極微量に残存するトロンビンの存在を完全に否定できず極わずかなトロンビンが標準血漿と37℃インキュベーションすることで微量の血液凝固因子(特に第8因子)活性化が起き、APTT延長効果を抑制したものと考えられた。一方、カルボキシル基修飾203A2056トロンビン、205A43Aトロンビンにおいては遺伝子組み換え技術によって完全に活性を失っているトロンビン誘導体であり、標準血漿とインキュベーションした場合においても血液凝固因子の活性化は起きず、むしろインキュベーションを行った場合の方が顕著にAPTTを延長した。

以上の考察より、抗血栓剤としてトロンビン誘導体及びそのカルボキシル基修飾誘導体を用いる場合には極微量のトロンビンの混入が考えられるアンヒドロトロンビンを用いるよりも、遺伝子工学的に完全に不活性化され且つ均一な組み換え誘導体から選ばれる適切

な薬効を有した本発明で得られる遺伝子組み換えトロンビン及びそのカルボキシキル基修飾誘導体の方が安全であり、かつ37℃で少なくとも数時間は存在するvivoでは薬効も高いことが予想される事が示された。

【産業上の利用可能性】

[0106]

本発明のトロンビン誘導体は、抗血栓剤、抗炎症剤などの医薬として好適に用いることができる。

【図面の簡単な説明】

 $[0\ 1\ 0\ 7\ ]$ 

- 【図1】 5 mg/m1 リストセチンで血小板凝集を惹起したPRPに対する、カルボキシル基修飾203A205Gトロンビン( $37 \mu\text{ g/ml}$ )の抗血小板効果を示す図。009がコントロールを、010がカルボキシル基修飾203A205Gトロンビンを示す。縦軸が透過率(%)、横軸が時間(分)を示す(図  $2 \sim 1$  1 も同じ)。
- 【図 2 】  $1\mu$  g /m 1 カルボキシル基修飾トロンビンで血小板凝集を惹起したPRPに対する、カルボキシル基修飾 203A205Gトロンビン( $37\mu$  g/ml)の抗血小板効果を示す図。002がコントロールを、001がカルボキシル基修飾 203A205Gトロンビンを示す。
- 【図3】 5 m g/m l リストセチンで血小板凝集を惹起したP R P に対する、205 A43 Aトロンビン( $30 \, \mu \text{ g/m l}$ )の抗血小板効果を示す図。 $079 \, \text{m}$ コントロールを、 $080 \, \text{m} \, 205 \text{A}43 \, \text{A}$ トロンビンを示す。
- 【図 4 】  $1\mu$  g/m 1 カルボキシル基修飾トロンビンで血小板凝集を惹起したPRPに対する、205A43Aトロンビン( $30\mu$  g/ml)の抗血小板効果を示す図。083がコントロールを、084が205A43Aトロンビンを示す。
- 【図5】 5 mg/ml リストセチンで血小板凝集を惹起したPRPに対する、カルボキシル基修飾205A43Aトロンビン( $30 \text{ }\mu\text{ }\text{ }g/\text{ml}$ )の抗血小板効果を示す図。056 がコントロールを、<math>055 がカルボキシル基修飾 205 A43 Aトロンビンを示す。
- 【図 6 】 5 mg/ml リストセチンで血小板凝集を惹起したPRPに対する、カルボキシル基修飾 205A43Aトロンビン( $15 \mu \text{ g/ml}$ )の抗血小板効果を示す図。042 がコントロールを、041 がカルボキシル基修飾 205A43Aトロンビンを示す。
- 【図 7 】 5 m g/m l リストセチンで血小板凝集を惹起した P R P に対する、カルボキシル基修飾 205 A43 A トロンビン( $7.5 \mu \text{ g/m l}$ )の抗血小板効果を示す図。058 がコントロールを、057 がカルボキシル基修飾 205 A43 A トロンビンを示す。
- 【図 8】  $l_{\mu}$  g/mlカルボキシル基修飾トロンビンで血小板凝集を惹起したPRPに対する、カルボキシル基修飾 205A43Aトロンビン(30  $\mu$  g/ml)の抗血小板効果を示す図。064がコントロールを、063がカルボキシル基修飾 205A43Aトロンビンを示す。
- 【図 9】  $1\mu$  g/m 1 カルボキシル基修飾トロンビンで血小板凝集を惹起したPRPに対する、カルボキシル基修飾 205A43Aトロンビン( $15\mu$  g/m 1)の抗血小板効果を示す図。067がコントロールを、066がカルボキシル基修飾 205A43Aトロンビンを示す。
- 【図 10】  $1\mu$  g/m 1 カルボキシル基修飾トロンビンで血小板凝集を惹起したPRPに対する、カルボキシル基修飾 205A43Aトロンビン( $7.5\mu$  g/m 1)の抗血小板効果を示す図。070がコントロールを、069がカルボキシル基修飾 205A43Aトロンビンを示す。
- 【図12】  $1\mu$  g/m 1 カルボキシル基修飾トロンビンで血小板凝集を惹起したPRPに対する、203A205Gトロンビン(80 $\mu$  g/m 1)の抗血小板効果を示す図。097がコントロールを、098が203A205Gトロンビンを示す。

## SEQUENCE LISTING

```
<110> Chisso Corporation
       FUJIMORI KOGYO Co., Ltd.
〈120〉 トロンビン誘導体、およびそれを含有する医薬組成物
\langle 130 \rangle P - C 4 0 8 7 7
<150> JP 2004/080950
<151> 2004-03-19
\langle 150 \rangle JP 2004/170346
<151> 2004-06-08
\langle 160 \rangle 30
\langle 170 \rangle PatentIn version 3.1
< 2 1 0 > 1
<211> 927
<212> DNA
<213> Homo sapiens
< 2 2 0 >
<221> CDS
\langle 2 \ 2 \ 2 \rangle (1).. (9 2 7)
<223>
< 4 0 0 > 1
acc gcc acc agt gag tac cag act ttc ttc aat ccg agg acc ttt ggc
                                                                           4.8
Thr Ala Thr Ser Glu Tyr Gln Thr Phe Phe Asn Pro Arg Thr Phe Gly
                 5
                                       1.0
tcg gga gag gca gac tgt ggg ctg cga cct ctg ttc gag aag aag tcg
                                                                            96
Ser Gly Glu Ala Asp Cys Gly Leu Arg Pro Leu Phe Glu Lys Lys Ser
             2.0
                                   2.5
ctg gag gac aaa acc gaa aga gag ctc ctg gaa tcc tac atc gac ggg
                                                                           1 4 4
Leu Glu Asp Lys Thr Glu Arg Glu Leu Leu Glu Ser Tyr Ile Asp Gly
        3.5
                              4 ()
                                                    4.5
                                                                           192
cgc att gtg gag ggc tcg gat gca gag atc ggc atg tca cct tgg cag
Arg Ile Val Glu Gly Ser Asp Ala Glu Ile Gly Met Ser Pro Trp Gln
    5.0
                          5.5
                                                6.0
gtg atg ctt ttc cgg aag agt ccc cag gag ctg ctg tgt ggg gcc agc
                                                                           2 4 0
Val Met Leu Phe Arg Lys Ser Pro Gln Glu Leu Leu Cys Gly Ala Ser
```

7.5

8.0

7.0

65

	atc Ile															2 8 8	
	ccc Pro															3 3 6	
	a a g L y s															3 8 4	
	t t g L e u 1 3 0															4 3 2	
	g a c A s p															4 8 0	
Ser	gac Asp	Tyr	Ile	H i s 165	Pro	V a l	Суѕ	Leu	Pro 170	Asp	Arg	Glu	Thr	A 1 a 175	Ala	5 2 8	
Ser	t t g L e u	Leu	G 1 n 180	Ala	G l y	Tyr	Lys	G 1 y 185	Arg	V a l	Thr	G l y	Trp 190	G l y	Asn	5 7 6	
Leu	Lys	G I u 195	Thr	Trp	Thr	Ala	A s n 2 0 0	V a 1	Gly	L y s	G 1 y	G 1 n 2 0 5	Pro	Ser		6 2 4	
Leu	c a g G l n 2 l 0	Val	V a l	Asn	Leu	Pro 215	IIe	V a l	Glu	Arg	Pro 220	V a l	Суѕ	Lys	Asp	672	
S e r 2 2 5	a c c Thr	Arg	I I e	Arg	I 1 e 2 3 0	Thr	Asp	Asn	Met	Phe 235	Суѕ	Ala	G l y	Tyr	L y s 2 4 0	7 2 0	
Pro	g a t A s p	Glu	G l y	L y s 2 4 5	Arg	G l y	Asp	Ala	C y s 250	Glu	Gly	Asp	Ser	G l y 255	Gly	7 6 8	
Pro	t t t Phe	V a l	Met 260	Lys	Ser	Pro	Phe	A s n 2 6 5	Asn	Arg	Trp	Tyr	G 1 n 2 7 0	Met	Gly	8 1 6	
a t c	g t c	t c a	t g g	ggt	gaa	g g C	tgt	gac	Cgg	gat	ggg	a a a	tat	g g C	ttc	864	

I 1 e	V a 1	Ser 275	Trp	G 1 y	Glu	G 1 y	C y s 2 8 0	Asp	Arg	Asp	G 1 y	L y s 285	Tyr	G 1 y	P h e	
	a c a T h r 2 9 0															9 1 2
	t t t P h e			tag												927
< 2 1 0 < 2 1 1 < 2 1 2 < 2 1 3	1 > 3 2 > P	0 8 R T	sapi	iens												
< 4 0 0	) > 2															
Thr	Ala	Thr	Ser	G 1 u 5	Tyr	Gln	Thr	Phe	P h e	Asn	Pro	Arg	Thr	P h e 1 5	G 1 y	
Ser	G 1 y	Glu	A 1 a 2 0	Asp	Суѕ	Gly	Leu	Arg 25	Pro	L e u	P h e	Glu	L y s 3 0	L y s	Ser	
L e u	Glu	A s p 3 5	Lys	Thr	Glu	Arg	G l u 4 0	Leu	Leu	Glu	Ser	T y r 4 5	I 1 e	Asp	G 1 y	
	IIe 50				Ser							Ser	Pro	Trp	Gln	
V a 1 6 5	Met	Leu	Phe	Arg	L y s 7 0	Ser	Pro	Gln	Glu	L e u 7 5	L e u	Суѕ	G 1 y	Ala	S e r 8 0	
L e u	I 1 e	Ser	Asp	Arg 85	Trp	V a l	Leu	Thr	A 1 a 9 0	Ala	His	Суѕ	Leu	L e u 9 5	Туг	
Pro	Pro	Trp	A s p	Lys	Asn	P h e	Thr	G 1 u 1 0 5	Asn	Asp	Leu	Leu	V a l 1 1 0	Arg	I l e	
Gly	Lys	H i s	Ser	Arg	Thr	Arg	T y r 1 2 0	Glu	Arg	Asn	I I e	G 1 u 1 2 5	Lys	I 1 e	Ser	
Met	L e u 1 3 0	Glu	Lys	1 1 e	Tyr	I 1 e 1 3 5	His	Pro	Arg	Tyr	A s n 1 4 0	Trp	Arg	Glu	Asn	
L e u 1 4 5	Asp	Arg	Asp	I 1 e	A 1 a	Leu	Met	Lуs	Leu	L y s 155	Lys	Pro	V a l	Ala	P h e 1 6 0	
Ser	Asp	Туг	I 1 e	H i s	Pro	V a l	Суѕ	Leu	Pro	Asp	Arg	Glu	Thr	Ala	Ala	

165 170 175

Ser Leu Leu Gln Ala Gly Tyr Lys Gly Arg Val Thr Gly Trp Gly Asn 180 185 190

Leu Lys Glu Thr Trp Thr Ala Asn Val Gly Lys Gly Gln Pro Ser Val 195 200

Leu Gln Val Val Asn Leu Pro Ile Val Glu Arg Pro Val Cys Lys Asp 210 215 220

Ser Thr Arg Ile Arg Ile Thr Asp Asn Met Phe Cys Ala Gly Tyr Lys 225 230 230 235

Pro Asp Glu Gly Lys Arg Gly Asp Ala Cys Glu Gly Asp Ser Gly Gly 245 250 255

Pro Phe Val Met Lys Ser Pro Phe Asn Asn Arg Trp Tyr Gln Met Gly 260 265 270

lle Val Ser Trp Gly Glu Gly Cys Asp Arg Asp Gly Lys Tyr Gly Phe 275 280 285

Tyr Thr His Val Phe Arg Leu Lys Lys Trp Ile Gln Lys Val Ile Asp 290 295 300

Gln Phe Gly Glu 305

<210> 3

<211> 10

<212> PRT

<213> Homo sapiens

< 4 0 0 > 3

Gly Asp Glu Glu Ile Pro Glu Glu Tyr Leu 1 5 10

< 2 1 0 > 4

<211> 73

<212> PRT

<213> Homo sapiens

< 4 0 0 > 4

Arg Arg Pro Glu Ser Lys Ala Thr Asn Ala Thr Leu Asp Pro Arg Ser 1 10 15

```
Phe Leu Leu Arg Asn Pro Asn Asp Lys Tyr Glu Pro Phe Trp Glu Asp
             2.0
                                   2.5
                                                        3.0
Glu Glu Lys Asn Glu Ser Gly Leu Thr Glu Tyr Arg Leu Val Ser Ile
        35
                              4 0
Asn Lys Ser Ser Pro Leu Gln Lys Gln Leu Pro Ala Phe Ile Ser Glu
    5.0
                          5.5
                                                6.0
Asp Ala Ser Gly Tyr Leu Thr Ser Ser
6.5
                     7.0
< 2 1 0 >
       5
<211> 1056
<212> DNA
<213> Homo sapiens
< 2 2 0 >
\langle 221 \rangle CDS
\langle 222 \rangle (1).. (1056)
< 2 2 3 >
< 4 0 0 >
atg gcg cac gtc cga ggc ttg cag ctg cct ggc tgc ctg gcc ctg gct
                                                                            48
Met Ala His Val Arg Gly Leu Gln Leu Pro Gly Cys Leu Ala Leu Ala
1
                 5
                                       1.0
                                                             1.5
                                                                            96
gcc ctg tgt agc ctt gtg cac agc cag cat gtg ttc ctg gct cct cag
Ala Leu Cys Ser Leu Val His Ser Gln His Val Phe Leu Ala Pro Gln
             2 0
                                   25
                                                        3 0
caa gca cgg tcg ctg ctc cag cgg gtc cgg cga acc gcc acc agt gag
                                                                           1 4 4
Gln Ala Arg Ser Leu Leu Gln Arg Val Arg Arg Thr Ala Thr Ser Glu
        35
                              4 0
                                                    45
tac cag act ttc ttc aat ccg agg acc ttt ggc tcg gga gag gca gac
                                                                           192
Tyr Gln Thr Phe Phe Asn Pro Arg Thr Phe Gly Ser Gly Glu Ala Asp
    5 0
                          55
                                                60
tgt ggg ctg cga cct ctg ttc gag aag tcg ctg gag gac aaa acc
                                                                           2 4 0
Cys Gly Leu Arg Pro Leu Phe Glu Lys Lys Ser Leu Glu Asp Lys Thr
65
                     7 0
                                           75
                                                                 8 0
gaa aga gag ctc ctg gaa tcc tac atc gac ggg cgc att gtg gag ggc
                                                                           288
Glu Arg Glu Leu Leu Glu Ser Tyr Ile Asp Gly Arg Ile Val Glu Gly
                 8.5
                                       90
                                                             95
tcg gat gca gag atc ggc atg tca cct tgg cag gtg atg ctt ttc cgg
                                                                           3 3 6
```

Ser	Asp	Ala	G I u 1 0 0	Ile	G 1 y	Met	Ser	Pro 105	Trp	Gln	V a l	Met	L e u 1 1 0	Phe	Arg	
									g c c A l a							3 8 4
									ctg Leu							4 3 2
									с g с A r g							4 8 0
									a t a I l e 1 7 0							5 2 8
									gag Glu							576
									g c c A l a							6 2 4
									g c a A l a							6 7 2
									g g c G l y							7 2 0
									agt Ser 250							768
									aag Lys							816
									t a c Tyr							8 6 4
cga Arg									ggg Gly							9 1 2

	ccc Pro															9 6 0
	ggc Gly															1008
	ctg Leu														t a g	1056
<210 <211 <212 <213	1 > 3 2 > F	5 3 5 1 7 R T H o m o	sapi	i e n s												
< 4 0 (	)> 6	)														
Met 1	Ala	His	V a l	Arg 5	Gly	L e u	Gln	Leu	P r o	Gly	Суѕ	Leu	Ala	L e u 1 5	Ala	
Ala	Leu	Суѕ	S e r 2 0	Leu	V a l	His	Ser	G 1 n 2 5	His	V a l	P h e	Leu	A 1 a 3 0	Pro	Gln	
Gln	Ala	Arg 35	Ser	Leu	Leu	Gln	Arg 40	V a 1	Arg	Arg	Thr	A 1 a 4 5	Thr	Ser	Glu	
Tyr	G 1 n 5 0	Thr	Phe	P h e	Asn	Pro 55	Arg	Thr	Phe	Gly	S e r 6 0	Gly	Glu	Ala	Asp	
C y s 6 5	Gly	Leu	Arg	Pro	L e u 7 0	Phe	Glu	L y s	Lys	Ser 75	Leu	Glu	Asp	Lys	T h r 8 0	
Glu	Arg	Glu	Leu	L e u 8 5	Glu	Ser	Tyr	Ile	A s p 9 0	Gly	Arg	Ile	V a l	G l u 9 5	G l y	
Ser	Asp	Ala	G l u 1 0 0	I l e	Gly	Met	Ser	Pro 105	Trp	Gln	V a l	Met	L e u 1 1 0	P h e	Arg	
Lys	Ser	Pro 115	Gln	Glu	L e u	Leu	C y s 1 2 0	Gly	Ala	Ser	Leu	I I e 1 2 5	Ser	Asp	Arg	
Trp	V a l 1 3 0	Leu	Thr	Ala	Ala	H i s 1 3 5	Суѕ	Leu	Leu	Tyr	P r o	Pro	Trp	Asp	Lys	
A s n 1 4 5	P h e	Thr	Glu	Asn	A s p 1 5 0	Leu	Leu	V a 1	Arg	I I e 1 5 5	G 1 y	Lys	H i s	Ser	Arg 160	

Thr Arg Tyr Glu Arg Asn Ile Glu Lys Ile Ser Met Leu Glu Lys Ile 165 170 1 7 5 Tyr lle His Pro Arg Tyr Asn Trp Arg Glu Asn Leu Asp Arg Asp lle 180 185 190 Ala Leu Met Lys Leu Lys Lys Pro Val Ala Phe Ser Asp Tyr Ile His 195 200 205 Pro Val Cys Leu Pro Asp Arg Glu Thr Ala Ala Ser Leu Leu Gln Ala 2 1 5 220 2 1 0 Gly Tyr Lys Gly Arg Val Thr Gly Trp Gly Asn Leu Lys Glu Thr Trp 225 230 2 3 5 Thr Ala Asn Val Gly Lys Gly Gln Pro Ser Val Leu Gln Val Val Asn 2 4 5 250 255 Leu Pro Ile Val Glu Arg Pro Val Cys Lys Asp Ser Thr Arg Ile Arg 260 270 265 lle Thr Asp Asn Met Phe Cys Ala Gly Tyr Lys Pro Asp Glu Gly Lys 275 280 285 Arg Gly Asp Ala Cys Glu Gly Asp Ser Gly Gly Pro Phe Val Met Lys 290 295 300 Ser Pro Phe Asn Asn Arg Trp Tyr Gln Met Gly Ile Val Ser Trp Gly 3 1 0 3 1 5 305 Glu Gly Cys Asp Arg Asp Gly Lys Tyr Gly Phe Tyr Thr His Val Phe 3 2 5 330 3 3 5 Arg Leu Lys Lys Trp lle Gln Lys Val lle Asp Gln Phe Gly Glu 3 4 0 3 4 5 350  $\langle 2 \ 1 \ 0 \rangle \qquad 7$ <211> 1056 <212> DNA <213> Homo sapiens

< 2 2 0 > < 2 2 1 > CDS

(1)...(1056)< 2 2 2 >

< 2 2 3 >

< 4 0 0 > 7

	c t g	t g t	a g c	5 c t t	gtg	сас	a g c	cag	1 0 c a t	gtg	t t c	c t g	g c t	15 cct	сав	9 6
саа	g c a	C y s	20 tcg	ctg	ctc	cag	C g g	25 gtc	Свв	сва	асс	g C C	3 0 a c c	a g t	g a g	1 4 4
		Arg 35 act					4 0					4 5				192
Tyr	G 1 n 5 0	Thr	P h e	Phe	Asn	Pro 55	Arg	Thr	Phe	Gly	S e r 6 0	Gly	Glu	Ala	Asp	
C y s 6 5	Gly	ctg Leu	Arg	Pro	L e u 7 0	P h e	Glu	Lys	Lys	Ser 75	Leu	Glu	Asp	Lys	T h r 8 0	2 4 0
		g a g G l u														2 8 8
		g c a A l a														3 3 6
		ссс Рго 115														3 8 4
Trp		ctc Leu														4 3 2
		a c c Thr														4 8 0
		t a c T y r														5 2 8
		cac His														5 7 6
		a t g M e t 1 9 5														6 2 4

	gtg Val 210															672
	tac Tyr I														t g g T r p 2 4 0	7 2 0
	gcc Ala														a a c A s n	768
	ccc Pro													atc Ile		816
	act a															8 6 4
	g g g g g g g g g g g g g g g g g g g															9 1 2
	ccc Pro I															960
-	ggc Gly										t a c T y r					1008
	ctg : Leu l														t a g	1 0 5 6
< 2 1 0 < 2 1 1 < 2 1 2 < 2 1 3	1 > 3 ! 2 > P I	5 1 R T o m o	sapi	e n s												
< 4 0	0 > 8															
Met 1	Ala I	His	V a 1	Arg 5	Gly	Leu	Gln	Leu	Pro 10	G l y	Cys	Leu	Ala	L e u 1 5	Ala	

Ala Leu Cys Ser Leu Val His Ser Gln His Val Phe Leu Ala Pro Gln

25

3 0

Gln	Ala	Arg 35	Ser	Leu	Leu	Gln	Arg 40	V a l	Arg	Arg	Thr	A 1 a 4 5	Thr	Ser	Glu
Tyr	G 1 n 5 0	Thr	P h e	P h e	Asn	Pro 55	Arg	Thr	P h e	Gly	S e r 6 0	G l y	Glu	Ala	Asp
C y s 6 5	Gly	Leu	Arg	Pro	L e u 7 0	P h e	Glu	Lys	Lys	Ser 75	Leu	Glu	Asp	Lys	T h r 8 0
Glu	Arg	Glu	Leu	L e u 8 5	Glu	Ser	Tyr	I 1 e	A s p 9 0	Gly	Arg	I 1 e	V a l	G l u 9 5	Gly
Ser	Asp	Ala	G l u 1 0 0	I l e	Gly	Met	Ser	Pro 105	Trp	Gln	Val	Met	L e u 1 1 0	Phe	Arg
Lys	Ser	Pro 115	Gln	Glu	Leu	Leu	C y s 1 2 0	Gly	Ala	Ser	Leu	I 1 e 1 2 5	Ser	Asp	Arg
Trp	V a l 1 3 0	Leu	Thr	Ala	Ala	His 135	Суѕ	Leu	Leu	Tyr	P r o	Pro	Trp	Asp	Lys
A s n 1 4 5	P h e	Thr	Glu	Asn	A s p 1 5 0	Leu	Leu	Val	Arg	IIe 155	Gly	Lys	His	Ser	Arg 160
Thr	Arg	Tyr	Glu	Arg 165	Asn	I l e	Glu	Lys	I 1 e 1 7 0	Ser	Met	Leu	Glu	L y s 1 7 5	Ile
Tyr		His													I l e
Ala	Leu	Met 195	Lys	Leu	Lys	Lys	Pro 200	V a l	Ala	Phe	Ser	A s p 2 0 5	Tyr	I l e	His
Pro	V a l 2 l 0	Суѕ	Leu	Pro	Asp	Arg 215	Glu	Thr	Ala	Ala	S e r 2 2 0	Leu	Leu	Gln	Ala
G 1 y 2 2 5	Tyr	Lys	Gly	Arg	V a 1 2 3 0	Thr	Gly	Trp	G 1 y	A s n 2 3 5	Leu	Lys	Glu	Thr	Trp 240
Thr	Ala	Asn	V a l	G 1 y 2 4 5	Lys	Gly	Gln	Pro	S e r 2 5 0	Val	Leu	Gln	V a l	V a l 2 5 5	Asn
Leu	Pro	I l e	V a 1 2 6 0	Glu	Arg	Pro	Val	C y s 2 6 5	Lys	Asp	Ser	Thr	Arg 270	I l e	Arg
I I e	Thr	Asp 275	Asn	Met	P h e	Суѕ	A 1 a 2 8 0	Gly	Туr	Lys	Pro	A s p 2 8 5	Glu	Gly	Lys
Arg	Gly	Asp	Ala	Суѕ	Glu	Ala	Asp	Gly	Gly	Gly	Pro	P h e	V a l	M e t	Lys

290 295 300

Ser Pro Phe 305	Asn Asn Arg 310	Trp Tyr Gln	Met Gly Ile V	al Ser Trp	G 1 y 3 2 0
Glu Gly Cys	Asp Arg Asp 325	Gly Lys Tyr	Gly Phe Tyr T 330	hr His Val	Phe
Arg Leu Lys	Lys Trp Ile 340	Gln Lys Val 345	lle Asp Gln P	he Gly Glu 350	
<210> 9 <211> 1056 <212> DNA <213> Homo	s a p i e n s				
<220> <221> CDS <222> (1). <223>	. (1056)				
			cct ggc tgc c Pro Gly Cys L 10		
			cat gtg ttc c His Val Phe L		
			cgg cga acc g Arg Arg Thr A		
			ttt ggc tcg g Phe Gly Ser G 60		
			aag tog otg g Lys Ser Leu G 75		
			gac ggg cgc a Asp Gly Arg I 90		
			tgg cag gtg a Trp Gln Val M		

		ссс Рго 115														3 8 4	
		ctc Leu														4 3 2	
		a c c T h r														4 8 0	
		t a c T y r														5 2 8	
		сас Ніѕ														5 7 6	
		atg Met 195														6 2 4	
		t g t C y s														6 7 2	
		aag Lys													t g g T r p 2 4 0	7 2 0	
		a a c A s n														7 6 8	
		att Ile														8 1 6	
		g a c A s p 2 7 5														8 6 4	
		g a t A s p														9 1 2	
a g c	ссс	t t t	a a c	аас	свс	t g g	t a t	саа	a t g	ggc	a t c	g t c	t c a	t g g	ggt	9 6 0	

Ser Pro Phe 305	Asn Asn Arg 310	Trp Tyr Gln	Met Gly Ile 315	Val Ser	Trp Gly 320
		ggg aaa tat Gly Lys Tyr		Thr His	
		cag aag gtc Gln Lys Val 345			
<210> 10 <211> 351 <212> PRT <213> Homo	s a p i e n s				
< 4 0 0 > 1 0					
Met Ala His	Val Arg Gly 5	Leu Gln Leu	Pro Gly Cys		Leu Ala 15
Ala Leu Cys	Ser Leu Val 20	His Ser Gln 25	His Val Phe	Leu Ala	Pro Gln
Gln Ala Arg 35	Ser Leu Leu	Gln Arg Val	Arg Arg Thr	Ala Thr 45	Ser Glu
Tyr Gln Thr 50		Pro Arg Thr 55	Phe Gly Ser	Gly Glu	Ala Asp
Cys Gly Leu 65	Arg Pro Leu 70	Phe Glu Lys	Lys Ser Leu 75	Glu Asp	Lys Thr 80
Glu Arg Glu	Leu Leu Glu 85	Ser Tyr Ile	Asp Gly Arg	lle Val	Glu Gly 95
Ser Asp Ala	Glu Ile Gly 100	Met Ser Pro	Trp Gln Val	Met Leu 110	Phe Arg
Lys Ser Pro 115	Gln Glu Leu	Leu Cys Gly 120	Ala Ser Leu	Ile Ser 125	Asp Arg
Trp Val Leu 130	Thr Ala Ala	His Cys Leu 135	Leu Tyr Pro 140	Pro Trp	Asp Lys
Asn Phe Thr 145	Glu Asn Asp 150	Leu Leu Val	Arg Ile Gly 155	Lys His	Ser Arg 160
Thr Arg Tyr	Glu Arg Asn	lle Glu Lys	lle Ser Met	Leu Glu	Lys Ile

165 170 175

Tyr Ile His Pro Arg Tyr Asn Trp Arg Glu Asn Leu Asp Arg Asp Ile 180 185

Ala Leu Met Lys Leu Lys Lys Pro Val Ala Phe Ser Asp Tyr Ile His 195 200 205

Pro Val Cys Leu Pro Asp Arg Glu Thr Ala Ala Ser Leu Leu Gln Ala 210 215 220

Gly Tyr Lys Gly Arg Val Thr Gly Trp Gly Asn Leu Lys Glu Thr Trp 225 230 235

Thr Ala Asn Val Gly Lys Gly Gln Pro Ser Val Leu Gln Val Val Asn 245 250 255

Leu Pro Ile Val Glu Arg Pro Val Cys Lys Asp Ser Thr Arg Ile Arg 260 265 270

Ile Thr Asp Asn Met Phe Cys Ala Gly Tyr Lys Pro Asp Glu Gly Lys 275 280 285

Arg Gly Asp Ala Cys Glu Gly Asp Ala Gly Gly Pro Phe Val Met Lys 290 295 300

Ser Pro Phe Asn Asn Arg Trp Tyr Gln Met Gly Ile Val Ser Trp Gly 305 310 310

Glu Gly Cys Asp Arg Asp Gly Lys Tyr Gly Phe Tyr Thr His Val Phe 325 330 335

Arg Leu Lys Lys Trp Ile Gln Lys Val Ile Asp Gln Phe Gly Glu 340 345 350

<210> 11

<211> 1056

<212> DNA

<213> Homo sapiens

< 2 2 0 >

<221> CDS

 $\langle 2 \ 2 \ 2 \rangle$  (1).. (1056)

< 2 2 3 >

< 4 0 0 > 1 1

atg gcg cac gtc cga ggc ttg cag ctg cct ggc tgc ctg gcc ctg gct Met Ala His Val Arg Gly Leu Gln Leu Pro Gly Cys Leu Ala Leu Ala 1 5 10

									cat His							9 6	
									cgg Arg							1 4 4	
									ttt Phe							192	
									aag Lys							2 4 0	
									g a c A s p 9 0							288	
									t g g T r p							3 3 6	
Lys	Ser	Pro 115	Gln	Glu	Leu	Leu	C y s 1 2 0	G l y	g c c A l a	Ser	Leu	I I e 1 2 5	Ser	Asp	Arg	3 8 4	
Trp	V a 1 1 3 0	Leu	Thr	Ala	Ala	His 135	Суѕ	Leu	ctg Leu	Tyr	Pro 140	Pro	Trp	Asp	Lys	4 3 2	
A s n 1 4 5	Phe	Thr	Glu	Asn	Asp 150	Leu	Leu	V a l	c g c A r g	IIe 155	Gly	Lys	His	Ser	Arg 160	4 8 0	
Thr	Arg	Tyr	Glu	Arg 165	Asn	I 1 e	Glu	Lys	a t a I I e 1 7 0	Ser	Met	Leu	Glu	L y s 175	IIe	5 2 8	
Tyr	Ile	His	Pro 180	Arg	Tyr	Asn	Trp	Arg 185	g a g G l u	Asn	Leu	Asp	Arg 190	Asp	IIe	5 7 6	
Ala	Leu	Met 195	Lys	Leu	Lys	Lys	Pro 200	V a 1	g c c A l a	Phe	Ser	A s p 2 0 5	Tyr	Ile	His	6 2 4	
cct	gtg	t g t	ctg	C C C	gac	agg	gag	acg	gca	gcc	agc	t t g	c t c	cag	gct	6 7 2	

Pro	Val Cys 210	Leu Pro	Asp Arg 215	Glu Thr	Ala Ala	Ser Leu Leu 220	Gln Ala	
						ctg aag gag Leu Lys Glu		7 2 0
						ctg cag gtg Leu Gln Val		7 6 8
						tcc acc cgg Ser Thr Arg 270	lle Arg	8 1 6
						cct gat gaa Pro Asp Glu 285		8 6 4
						ccc ttt gtc Pro Phe Val 300		9 1 2
						atc gtc tca lle Val Ser		9 6 0
		Asp Arg	Asp Gly	Lys Tyr	Gly Phe	tac aca cat Tyr Thr His		1008
						cag ttt gga Gln Phe Gly 350	Glu	1056
< 2 1 0 < 2 1 1 < 2 1 2 < 2 1 3	> 351 > PRT	sapiens						
< 4 0 0	> 12							
Met 1	Ala His	Val Arg 5	Gly Leu	Gln Leu	Pro Gly	Cys Leu Ala	Leu Ala 15	
Ala	Leu Cys	Ser Leu 20	Val His	Ser Gln 25	His Val	Phe Leu Ala 30	Pro Gln	

Gln Ala Arg Ser Leu Leu Gln Arg Val Arg Arg Thr Ala Thr Ser Glu

Tyr	G 1 n 5 0	Thr	P h e	P h e	Asn	Pro 55	Arg	Thr	P h e	Gly	Ser 60	G l y	Glu	Ala	Asp
Суs 65	Gly	Leu	Arg	Pro	L e u 7 0	P h e	Glu	Lys	Lys	Ser 75	Leu	Glu	Asp	Lys	T h r 8 0
Glu	Arg	Glu	Leu	L e u 8 5	Glu	Ser	Туг	II e	A s p 9 0	Gly	Arg	I I e	V a l	G I u 9 5	Gly
Ser	Asp	Ala	G l u 1 0 0	Ile	G l y	Met	Ser	Pro 105	Trp	Gln	V a 1	Met	L e u 1 1 0	P h e	Arg
Lys	Ser	Pro 115	Gln	Glu	Leu	Leu	C y s 1 2 0	G 1 y	Ala	Ser	Leu	I I e 1 2 5	Ser	Asp	Arg
Trp	V a 1 1 3 0	Leu	Thr	Ala	Ala	H i s 1 3 5	Суѕ	Leu	Leu	Туr	Pro 140	Pro	Trp	Asp	Lys
A s n 1 4 5	P h e	Thr	Glu	Asn	A s p 1 5 0	Leu	Leu	V a 1	Arg	II e 155	Gly	Lys	His	Ser	Arg 160
Thr	Arg	Туг	Glu	Arg 165	Asn	Ile	Glu	Lys	I 1 e 1 7 0	Ser	Met	Leu	Glu	L y s 175	I 1 e
Туг	I I e	His	Pro 180	Arg	Туг	Asn	Trp	Arg 185	Glu	Asn	Leu	Asp	Arg 190	Asp	I 1 e
							Pro 200							Ile	His
Pro	V a 1 2 1 0	Суѕ	Leu	Pro	Asp	Arg 215	Glu	Thr	Ala	Ala	S e r 2 2 0	Leu	Leu	Gln	Ala
G l y 2 2 5	Tyr	Lys	Gly	Arg	V a 1 2 3 0	Thr	Gly	Trp	Gly	A s n 2 3 5	Leu	Lys	Glu	Thr	Trp 240
Thr	Ala	Asn	V a 1	G l y 2 4 5	Lys	Gly	Gln	Pro	Ser 250	V a 1	Leu	Gln	V a 1	V a 1 2 5 5	Asn
Leu	Pro	Ile	V a 1 2 6 0	Glu	Arg	Pro	V a 1	C y s 2 6 5	Lys	Asp	Ser	Thr	Arg 270	Ile	Arg
I I e	Thr	A s p 2 7 5	Asn	Met	P h e	Суѕ	A l a 2 8 0	Gly	Туг	Lys	Pro	A s p 2 8 5	Glu	Gly	Lys
Arg	G 1 y 2 9 0	Asp	Ala	Суѕ	Glu	G l y 2 9 5	Asp	Thr	Gly	G l y	Pro 300	P h e	V a 1	Met	Lys

Ser Pro Phe 305	Asn Asn Arg 310	Trp Tyr Gln	Met Gly Ile 315	Val Ser Trp	G l y 3 2 0
Glu Gly Cys	Asp Arg Asp 325	Gly Lys Tyr	Gly Phe Tyr 330	Thr His Val	
Arg Leu Lys	Lys Trp Ile 340	Gln Lys Val 345	lle Asp Gln	Phe Gly Glu 350	
<pre>&lt;210&gt; 13 &lt;211&gt; 1056 &lt;212&gt; DNA &lt;213&gt; Homo</pre>	s a p i e n s				
<220> <221> CDS <222> (1) <223>	. (1056)				
			cct ggc tgc Pro Gly Cys 10		
			cat gtg ttc His Val Phe		
			cgg cga acc Arg Arg Thr		
			ttt ggc tcg Phe Gly Ser 60		
			aag tcg ctg Lys Ser Leu 75		
			gac ggg cgc Asp Gly Arg 90		
			tgg cag gtg Trp Gln Val		
aag agt ccc	cag gag ctg	ctg tgt ggg	gcc agc ctc	atc agt gac	c g c 3 8 4

Lys	Ser	Pro 115	Gln	Glu	Leu	Leu	C y s 1 2 0	Gly	Ala	Ser	Leu	II e 125	Ser	Asp	Arg	
														g a c A s p		4 3 2
														t c c S e r		4 8 0
														a a g L y s 1 7 5		5 2 8
														a a c A s n		576
														att Ile		6 2 4
														c a g G 1 n		672
														acg Thr		7 2 0
														g t g V a l 2 5 5		7 6 8
														atc Ile		8 1 6
														g g g G l y		8 6 4
cga Arg														atg Met		9 1 2
														t g g T r p		9 6 0

	ggc Gly															1008
	ctg Leu														t a g	1056
< 2 1 0 < 2 1 1 < 2 1 2 < 2 1 3	1 > 3 2 > F	4 3 5 1 P R T H o m o	s a p i	e n s												
< 4 0 0	0 > 1	. 4														
Met	Ala	His	V a l	Arg 5	Gly	Leu	Gln	Leu	Pro 10	Gly	Суѕ	Leu	Ala	Leu 15	Ala	
Ala	Leu	Суѕ	S e r 2 0	Leu	Val	His	Ser	G 1 n 2 5	His	Val	P h e	Leu	A 1 a 3 0	Pro	Gln	
Gln	Ala	Arg 35	Ser	Leu	Leu	Gln	Arg 40	Val	Arg	Arg	Thr	A 1 a 4 5	Thr	Ser	Glu	
Tyr	G 1 n 5 0	Thr	Phe	Phe	Asn	Pro 55	Arg	Thr	Phe	Gly	S e r 6 0	Gly	Glu	Ala	Asp	
C y s 6 5	G 1 y	Leu	Arg	Pro	L e u 7 0	Phe	Glu	Lys	Lys	Ser 75	Leu	Glu	Asp	Lys	T h r 8 0	
Glu	Arg	Glu	Leu	Leu 85	Glu	Ser	Tyr	I l e	A s p 9 0	Gly	Arg	Ile	Val	G 1 u 9 5	G l y	
Ser	Asp	Ala	G 1 u 1 0 0	Ile	Gly	Met	Ser	Pro 105	Trp	Gln	V a l	Met	L e u 1 1 0	P h e	Arg	
Lys	Ser	Pro 115	Gln	Glu	Leu	Leu	C y s 1 2 0	Gly	Ala	Ser	Leu	I 1 e 1 2 5	Ser	Asp	Arg	
Trp	V a l 1 3 0	Leu	Thr	Ala	Ala	His 135	Cys	Leu	Leu	Tyr	Pro 140	Pro	Trp	Asp	L y s	
A s n 1 4 5	P h e	Thr	Glu	Asn	A s p 1 5 0	Leu	Leu	Val	Arg	IIe 155	Gly	Lys	His	Ser	Arg 160	
Thr	Arg	Tyr	Glu	Arg 165	Asn	I 1 e	Glu	Lys	I I e 170	Ser	Met	Leu	Glu	Lys 175	I l e	

Tyr Ile His	Pro Arg 180	Tyr Asn	Trp Arg 185	Glu Asn	Leu Asp	Arg As	n Ile
Ala Leu Met 195	Lys Leu	Lys Lys	Pro Val 200	Ala Phe	Ser Asp 205	Tyr Il	e His
Pro Val Cys 210	Leu Pro	Asp Arg 215	Glu Thr	Ala Ala	Ser Leu 220	Leu Gl	n Ala
Gly Tyr Lys 225	Gly Arg	Val Thr 230	Gly Trp	Gly Asn 235	Leu Lys	Glu Th	r Trp 240
Thr Ala Asn	Val Gly 245	Lys Gly	Gln Pro	Ser Val 250	Leu Gln	Val Va 25	
Leu Pro Ile	V a l G l u 2 6 0	Arg Pro	Val Cys 265	Lys Asp	Ser Thr	Arg II 270	e Arg
Ile Thr Asp 275	Asn Met	Phe Cys	Ala Gly 280	Tyr Lys	Pro Asp 285	Glu Gl	y Lys
Arg Gly Asp 290	Ala Cys	Glu Ala 295	Asp Ala	Gly Gly	Pro Phe 300	Val Me	t Lys
Ser Pro Phe 305	Asn Asn	Arg Trp 310	Tyr Gln	Met Gly 315	lle Val	Ser Tr	p Gly 320
Glu Gly Cys	Asp Arg 325	Asp Gly	Lys Tyr	Gly Phe 330	Tyr Thr	His Va	
Arg Leu Lys	Lys Trp 340	lle Gln	Lys Val 345	lle Asp	Gln Phe	Gly Gl 350	u
<210> 15 <211> 1056 <212> DNA <213> Homo	s a p i e n s						
<220> <221> CDS <222> (1)	(1056)						
<pre>&lt; 4 0 0 &gt; 1 5 a t g g c g c a c Met Ala His 1</pre>							
gcc ctg tgt	agc ctt	gtg cac	agc cag	cat gtg	ttc ctg	gct cc	t cag 96

Ala	L e u	Суѕ	S e r 2 0	Leu	V a l	His	Ser	G 1 n 2 5	His	V a l	Phe	Leu	A 1 a 3 0	Pro	Gln	
	g c a A l a															1 4 4
	cag Gln 50															192
	ggg Gly															2 4 0
	aga Arg															2 8 8
	g a t A s p															3 3 6
	agt Ser															3 8 4
	g t c V a l 1 3 0															4 3 2
	t t c P h e															4 8 0
	agg Arg															5 2 8
	atc Ile															5 7 6
	ctg Leu															6 2 4
	g t g V a l 2 l 0															6 7 2

		a a g L y s													t g g T r p 2 4 0	7 2 0
		a a c A s n														7 6 8
		att Ile														8 1 6
		g a c A s p 2 7 5														8 6 4
		g a t A s p														9 1 2
		t t t P h e														960
		t g t C y s														1008
		aag Lys														1056
< 2 1 0 < 2 1 1 < 2 1 2 < 2 1 3	) 	16 351 PRT Homo	s a p	i e n s												
< 4 0 0	)>	1 6														
Met 1	Ala	His	V a l	Arg 5	G 1 y	Leu	Gln	Leu	Pro 10	G 1 y	Суѕ	Leu	Ala	L e u 1 5	Ala	
Ala	Leu	Суѕ	S e r 2 0	Leu	V a l	His	Ser	G 1 n 2 5	His	V a l	Phe	Leu	A 1 a 3 0	Pro	Gln	
			α.			Λ·		17			7D 1		m 1	0	0.1	

Gln Ala Arg Ser Leu Leu Gln Arg Val Arg Arg Thr Ala Thr Ser Glu

4 5

4 0

Tyr	G 1 n 5 0	Thr	Phe	P h e	Asn	Pro 55	Arg	Thr	P h e	Gly	S e r 6 0	Gly	Glu	Ala	Asp
Суs 65	G 1 y	Leu	Arg	Pro	L e u 7 0	P h e	Glu	L y s	L y s	S e r 7 5	Leu	Glu	Asp	L y s	T h r 8 0
Glu	Arg	Glu	Leu	L e u 8 5	Glu	Ser	Tyr	I I e	A s p 9 0	Gly	Arg	Ile	V a l	G I u 9 5	Gly
Ser	Asp	Ala	G I u 1 0 0	I I e	G 1 y	Met	Ser	Pro 105	Trp	Gln	V a l	Met	L e u 1 1 0	P h e	Arg
Lys	Ser	Pro 115	Gln	Glu	Leu	Leu	C y s 1 2 0	G 1 y	Ala	Ser	Leu	I 1 e 1 2 5	Ser	Asp	Arg
Trp	V a l 1 3 0	Leu	Thr	Ala	Ala	H i s 1 3 5	Суѕ	Leu	Leu	Tyr	Pro 140	Pro	Trp	Asp	Lys
A s n 1 4 5	P h e	Thr	Glu	Asn	A s p 1 5 0	Leu	Leu	V a l	Arg	II e 155	Gly	Lys	His	Ser	Arg 160
Thr	Arg	Tyr	Glu	Arg 165	Asn	I l e	Glu	L y s	I 1 e 1 7 0	Ser	Met	Leu	Glu	L y s 175	I 1 e
Tyr	I I e	His	Pro 180	Arg	Tyr	Asn	Trp	Arg 185	Glu	Asn	Leu	Asp	Arg 190	Asp	I 1 e
Ala	L e u	Met 195	Lys	L e u	Lys	Lys	Pro 200	Val	Ala	Phe	Ser	A s p 2 0 5	Tyr	I l e	His
Pro	V a l 2 1 0	Суѕ	Leu	Pro	Asp	Arg 215	Glu	Thr	Ala	Ala	S e r 2 2 0	Leu	Leu	Gln	Ala
G 1 y 2 2 5	Tyr	Lys	G 1 y	Arg	V a l 2 3 0	Thr	G 1 y	Trp	G 1 y	A s n 2 3 5	Leu	Lys	Glu	Thr	Trp 240
Thr	Ala	Asn	Val	G 1 y 2 4 5	Lys	Gly	Gln	Pro	Ser 250	V a l	Leu	Gln	Val	V a l 2 5 5	Asn
L e u	Pro	Ile	V a 1 2 6 0	Glu	Arg	Pro	V a l	C y s 2 6 5	Lys	Asp	Ser	Thr	Arg 270	I I e	Arg
I l e	Thr	A s p 2 7 5	Asn	Met	Phe	Суѕ	A 1 a 2 8 0	G 1 y	Tyr	Lys	Pro	A s p 2 8 5	Glu	Gly	Lys
Arg	G 1 y 2 9 0	Asp	Ala	Суѕ	Glu	G 1 y 2 9 5	Asp	Ala	G 1 y	Gly	Pro 300	P h e	V a l	Met	L y s
Ser 305	Pro	Phe	Asn	Asn	Arg 310	Trp	Tyr	Gln	Met	G 1 y 3 1 5	I I e	V a l	Ser	Trp	G 1 y 3 2 0

oru ory cys	325	Asp Gly	Lys lyl	330	1 9 1 1 11 1	335	1 11 6
Arg Leu Lys	Lys Trp 340	lle Gln	Lys Val 345		Gln Phe	Gly Glu 350	
<210> 17 <211> 1056 <212> DNA <213> Homo	s a p i e n s						
<220> <221> CDS <222> (1)	(1056)						
<pre>&lt;400&gt; 17 atg gcg cac Met Ala His </pre>							
gcc ctg tgt Ala Leu Cys							
caa gca cgg Gln Ala Arg 35							g a g 1 4 4 G l u
tac cag act Tyr Gln Thr 50				ttt ggc Phe Gly			
tgt ggg ctg Cys Gly Leu 65							a c c 2 4 0 T h r 8 0
gaa aga gag Glu Arg Glu							g g c 288 G l y
tcg gat gca Ser Asp Ala				Trp Gln			
aag agt ccc Lys Ser Pro 115				gcc agc Ala Ser			

Glu Gly Cys Asp Arg Asp Gly Lys Tyr Gly Phe Tyr Thr His Val Phe

											c c g P r o 1 4 0					4 3 2	
											g g c G l y					4 8 0	
											atg Met					5 2 8	
											ctg Leu					5 7 6	
											agt Ser					6 2 4	
											agc Ser 220					672	
											ctg Leu					7 2 0	
											ctg Leu					7 6 8	
											t c c S e r					8 1 6	
											cct Pro					8 6 4	
											ссс Рго 300					9 1 2	
											atc Ile					9 6 0	
g a a	g g C	t g t	gac	Сдд	gat	ggg	a a a	tat	g g C	t t c	t a c	a c a	c a t	g t g	t t c	1 0 0 8	

```
Glu Gly Cys Asp Arg Asp Gly Lys Tyr Gly Phe Tyr Thr His Val Phe
                3 2 5
                                    3 3 0
cgc ctg aag aag tgg ata cag aag gtc att gat cag ttt gga gag tag 1056
Arg Leu Lys Lys Trp Ile Gln Lys Val Ile Asp Gln Phe Gly Glu
           3 4 0
                                3 4 5
                                                    350
<210> 18
<211> 351
<212> PRT
<213> Homo sapiens
< 4 0 0 > 1 8
Met Ala His Val Arg Gly Leu Gln Leu Pro Gly Cys Leu Ala Leu Ala
               5
                    1 0
Ala Leu Cys Ser Leu Val His Ser Gln His Val Phe Leu Ala Pro Gln
                                25
            2.0
Gln Ala Arg Ser Leu Leu Gln Arg Val Arg Arg Thr Ala Thr Ser Glu
        35
                            4 0
                                                45
Tyr Gln Thr Phe Phe Asn Pro Arg Thr Phe Gly Ser Gly Glu Ala Asp
   5 0
                        5 5
                                            6.0
Cys Gly Leu Arg Pro Leu Phe Glu Lys Lys Ser Leu Glu Asp Lys Thr
6 5
                   7 0
                                       7.5
Glu Arg Glu Leu Leu Glu Ser Tyr Ile Asp Gly Arg Ile Val Glu Gly
                85
                                    9 0
                                                        95
Ser Asp Ala Glu Ile Gly Met Ser Pro Trp Gln Val Met Leu Phe Arg
                                        1 1 0
           1 0 0
                    1 0 5
Lys Ser Pro Gln Glu Leu Leu Cys Gly Ala Ser Leu Ile Ser Asp Arg
                           1.2.0
       1 1 5
Trp Val Leu Thr Ala Ala His Cys Leu Leu Tyr Pro Pro Trp Asp Lys
   130
                        135
                                            140
Asn Phe Thr Glu Asn Asp Leu Leu Val Arg Ile Gly Lys His Ser Arg
1 4 5
                   150
                                       155
                                                           160
Thr Arg Tyr Glu Arg Asn Ile Glu Lys Ile Ser Met Leu Glu Lys Ile
                165
                                   170
                                                      175
Tyr Ile His Pro Arg Tyr Asn Trp Arg Glu Asn Leu Asp Arg Asp Ile
```

185

180

```
Ala Leu Met Lys Leu Lys Lys Pro Val Ala Phe Ser Asp Tyr Ile His
        195
                              200
                                                    205
Pro Val Cys Leu Pro Asp Arg Glu Thr Ala Ala Ser Leu Leu Gln Ala
    2 1 0
                          2 1 5
                                               220
Gly Tyr Lys Gly Arg Val Thr Gly Trp Gly Asn Leu Lys Glu Thr Trp
225
                     230
                                           235
Thr Ala Asn Val Gly Lys Gly Gln Pro Ser Val Leu Gln Val Val Asn
                 2 4 5
                                       250
Leu Pro Ile Val Glu Arg Pro Val Cys Lys Asp Ser Thr Arg Ile Arg
             260
                                   265
                                                        270
lle Thr Asp Asn Met Phe Cys Ala Gly Tyr Lys Pro Asp Glu Gly Lys
        275
                              280
                                                    285
Arg Gly Asp Ala Cys Glu Gly Asp Asp Gly Gly Pro Phe Val Met Lys
    290
                          295
                                               300
Ser Pro Phe Asn Asn Arg Trp Tyr Gln Met Gly Ile Val Ser Trp Gly
305
                     3 1 0
                                           3 1 5
                                                                 3 2 0
Glu Gly Cys Asp Arg Asp Gly Lys Tyr Gly Phe Tyr Thr His Val Phe
                 3 2 5
                                       330
                                                             335
Arg Leu Lys Lys Trp Ile Gln Lys Val Ile Asp Gln Phe Gly Glu
             3 4 0
                                   3 4 5
                                                        350
< 2 1 0 > 1 9
<211> 1056
<212> DNA
<213> Homo sapiens
<220>
<221>
       CDS
< 2 2 2 >
      (1)...(1056)
< 2 2 3 >
\langle 4 \ 0 \ 0 \rangle 1 9
atg gcg cac gtc cga ggc ttg cag ctg cct ggc tgc ctg gcc ctg gct
                                                                            48
Met Ala His Val Arg Gly Leu Gln Leu Pro Gly Cys Leu Ala Leu Ala
                 5
1
                                       1 0
                                                            1.5
                                                                            96
gcc ctg tgt agc ctt gtg cac agc cag cat gtg ttc ctg gct cct cag
Ala Leu Cys Ser Leu Val His Ser Gln His Val Phe Leu Ala Pro Gln
             2 0
                                   2.5
                                                        3 0
```

	g c a A l a															1 4 4	
	cag Gln 50															192	
	ggg Gly															2 4 0	
	aga Arg															2 8 8	
	g a t A s p															3 3 6	
	agt Ser															3 8 4	
Trp	g t c V a l 1 3 0	Leu	Thr	Ala	Ala	His 135	Суѕ	Leu	Leu	Tyr	Pro 140	Pro	Trp	Asp	L y s	4 3 2	
A s n 1 4 5	t t c P h e	Thr	Glu	Asn	A s p 1 5 0	Leu	Leu	V a l	Arg	I I e 1 5 5	Gly	Lys	His	Ser	A r g 1 6 0	4 8 0	
Thr	agg Arg	Tyr	Glu	Arg 165	Asn	I I e	Glu	Lys	I 1 e 1 7 0	Ser	Met	Leu	Glu	Lys 175	I l e	5 2 8	
Tyr	atc Ile	His	Pro 180	Arg	Tyr	Asn	Trp	Arg 185	Glu	Asn	Leu	Asp	Arg 190	Asp	I 1 e	5 7 6	
Ala	ctg Leu	Met 195	Lys	Leu	Lys	Lys	Pro 200	V a l	Ala	P h e	Ser	A s p 2 0 5	Tyr	Ile	His	6 2 4	
Pro	g t g V a l 2 1 0	Суѕ	Leu	Pro	Asp	Arg 215	Glu	Thr	Ala	Ala	S e r 2 2 0	Leu	Leu	Gln	Ala	6 7 2	
gga	t a c	aag	ggg	c g g	gtg	a c a	ggc	t g g	ggc	аас	ctg	aag	gag	a c g	t g g	7 2 0	

G 1 y 2 2 5	Tyr Lys	Gly Arg	Val Thr 230	Gly Trp	Gly Asn 235	Leu Lys (	Glu Thr	Trp 240
						ctg cag ; Leu Gln		
						tcc acc ( Ser Thr		
						cct gat a Pro Asp ( 285		
						ccc ttt a Pro Phe 3		
						atc gtc lle Val :		
						tac aca ( Tyr Thr I		
					lle Asp	cag ttt g Gln Phe		t a g 1 0 5 6
< 2 1 0 < 2 1 1 < 2 1 2 < 2 1 3	1 > 3 5 1 2 > P R T	sapiens						
< 4 0 (	0 > 2 0							
Met 1	Ala His	Val Arg 5	Gly Leu	Gln Leu	Pro Gly	Cys Leu 1	Ala Leu 15	Ala
Ala	Leu Cys	Ser Leu 20	Val His	Ser Gln 25	His Val	Phe Leu /	Ala Pro 30	Gln
Gln	Ala Arg 35	Ser Leu	Leu Gln	Arg Val 40	Arg Arg	Thr Ala 7	Thr Ser	Glu
Tyr	Gln Thr 50	Phe Phe	Asn Pro	Arg Thr	Phe Gly	Ser Gly (	Glu Ala	Asp

C y s 6 5	Gly	Leu	Arg	Pro	L e u 7 0	P h e	Glu	Lys	Lys	Ser 75	Leu	Glu	Asp	Lys	T h r 8 0
Glu	Arg	Glu	Leu	L e u 8 5	Glu	Ser	Tyr	lle	A s p 9 0	Gly	Arg	lle	V a l	G 1 u 9 5	Gly
Ser	Asp	Ala	G l u 1 0 0	I 1 e	Gly	Met	Ser	Pro 105	Trp	Gln	V a l	Met	L e u 1 1 0	Phe	Arg
Lys	Ser	Pro 115	Gln	Glu	Leu	Leu	C y s 1 2 0	Gly	Ala	Ser	Leu	I I e 1 2 5	Ser	Asp	Arg
Trp	V a 1 1 3 0	Leu	Thr	Ala	Ala	His 135	Суѕ	Leu	Leu	Tyr	P r o	Pro	Trp	Asp	Lys
A s n 1 4 5	Phe	Thr	Glu	Asn	A s p 1 5 0	Leu	Leu	Val	Arg	I 1 e 1 5 5	Gly	Lys	His	Ser	Arg 160
Thr	Arg	Tyr	Glu	Arg 165	Asn	lle	Glu	Lys	I 1 e 1 7 0	Ser	Met	Leu	Glu	L y s 1 7 5	Ile
Tyr	lle	His	Pro 180	Arg	Tyr	Asn	Trp	Arg 185	Glu	Asn	Leu	Asp	Arg 190	Asp	Ile
Ala	Leu	Met 195	Lys	Leu	Lys	Lys	Pro 200	Val	Ala	P h e	Ser	A s p 2 0 5	Tyr	I 1 e	His
Pro		Суѕ							Ala		S e r 2 2 0		L e u	Gln	Ala
G 1 y 2 2 5	Туr	Lys	Gly	Arg	V a l 2 3 0	Thr	Gly	Trp	Gly	A s n 2 3 5	Leu	Lys	Glu	Thr	Trp 240
Thr	Ala	Asn	Val	G 1 y 2 4 5	Lys	Gly	Gln	Pro	S e r 2 5 0	V a l	Leu	Gln	V a l	V a l 2 5 5	Asn
Leu	Pro	lle	V a l 2 6 0	Glu	Arg	Pro	Val	C y s 2 6 5	Lys	Asp	Ser	Thr	Arg 270	I l e	Arg
lle	Thr	A s <b>p</b> 2 7 5	Asn	M e t	Phe	Суѕ	A 1 a 2 8 0	Gly	Tyr	Lys	Pro	A s p 2 8 5	Glu	Gly	Lys
Arg	G 1 y 2 9 0	Asp	Ala	Cys	Glu	G 1 y 2 9 5	Asp	Asn	Gly	Gly	Pro 300	Phe	V a l	Met	Lys
Ser 305	Pro	Phe	Asn	Asn	Arg 310	Trp	Туr	Gln	Met	G 1 y 3 1 5	I 1 e	V a l	Ser	Trp	G 1 y 3 2 0
Glu	Gly	Суѕ	Asp	Arg	Asp	Gly	Lys	Туr	Gly	P h e	Туr	Thr	His	V a l	P h e

3 2 5 3 3 0 3 3 5

Arg Leu Lys Lys Trp Ile Gln Lys Val Ile Asp Gln Phe Gly Glu 340 345

< 2 1 0 > 2 1 <211> 1056 <212> DNA <213> Homo sapiens < 2 2 0 > <221> CDS  $\langle 222 \rangle$  (1).. (1056) < 2 2 3 > < 4 0 0 > 2.1 atg gcg cac gtc cga ggc ttg cag ctg cct ggc tgc ctg gcc ctg gct 4.8 Met Ala His Val Arg Gly Leu Gln Leu Pro Gly Cys Leu Ala Leu Ala 1 0 96 gcc ctg tgt agc ctt gtg cac agc cag cat gtg ttc ctg gct cct cag Ala Leu Cys Ser Leu Val His Ser Gln His Val Phe Leu Ala Pro Gln 2.0 2.5 3.0 caa gca cgg tcg ctg ctc cag cgg gtc cgg cga acc gcc acc agt gag 1 4 4 Gln Ala Arg Ser Leu Leu Gln Arg Val Arg Arg Thr Ala Thr Ser Glu 35 4 0 4.5 tac cag act ttc ttc aat ccg agg acc ttt ggc tcg gga gag gca gac 192 Tyr Gln Thr Phe Phe Asn Pro Arg Thr Phe Gly Ser Gly Glu Ala Asp 5 0 5 5 6.0 tgt ggg ctg cga cct ctg ttc gag aag tcg ctg gag gac aaa acc 2 4 0 Cys Gly Leu Arg Pro Leu Phe Glu Lys Lys Ser Leu Glu Asp Lys Thr 65 7 0 75 8 0 gaa aga gag ctc ctg gaa tcc tac atc gac ggg cgc att gtg gag ggc 288 Glu Arg Glu Leu Leu Glu Ser Tyr lle Asp Gly Arg lle Val Glu Gly 85 90 95 tcg gat gca gag atc ggc atg tca cct tgg cag gtg atg ctt ttc cgg 336 Ser Asp Ala Glu Ile Gly Met Ser Pro Trp Gln Val Met Leu Phe Arg 100 105 1 1 0 aag agt ccc cag gag ctg ctg tgt ggg gcc agc ctc atc agt gac cgc 384 Lys Ser Pro Gln Glu Leu Leu Cys Gly Ala Ser Leu Ile Ser Asp Arg 1 1 5 1 2 0 1 2 5 tgg gtc ctc acc gcc gcc cac tgc ctc ctg tac ccg ccc tgg gac aag 4 3 2

Trp	V a l 1 3 0	Leu	Thr	Ala	Ala	His 135	Суѕ	Leu	Leu	Туr	Pro 140	Pro	Trp	Asp	Lys		
		a c c T h r														4 8 0	
		t a c T y r														5 2 8	
		сас Ніѕ														5 7 6	
		atg Met 195														6 2 4	
		t g t C y s														6 7 2	
		aag Lys														7 2 0	
		a a c A s n														7 6 8	
		att Ile														8 1 6	
		g a c A s p 2 7 5														8 6 4	
		g a t A s p														9 1 2	
		t t t P h e														960	
		t g t C y s														1008	

cgc ctg aag aag tgg ata cag aag gtc att gat cag ttt gga gag tag 1056 Arg Leu Lys Lys Trp Ile Gln Lys Val Ile Asp Gln Phe Gly Glu 3 4 0 3 4 5

< 2 1 0 > 2 2

<211> 351

<212> PRT

< 2 1 3 > Homo sapiens

< 4 0 0 > 2 2

Met Ala His Val Arg Gly Leu Gln Leu Pro Gly Cys Leu Ala Leu Ala 5 1 0

Ala Leu Cys Ser Leu Val His Ser Gln His Val Phe Leu Ala Pro Gln 20 25 3 0

Gln Ala Arg Ser Leu Leu Gln Arg Val Arg Arg Thr Ala Thr Ser Glu 35 4 ()

Tyr Gln Thr Phe Phe Asn Pro Arg Thr Phe Gly Ser Gly Glu Ala Asp 50 55 60

Cys Gly Leu Arg Pro Leu Phe Glu Lys Lys Ser Leu Glu Asp Lys Thr 65 7.0 75 8 0

Glu Arg Glu Leu Leu Glu Ser Tyr lle Asp Gly Arg lle Val Glu Gly 85 90

Ser Asp Ala Glu Ile Gly Met Ser Pro Trp Gln Val Met Leu Phe Arg 100 105 1 1 0

Lys Ser Pro Gln Glu Leu Leu Cys Gly Ala Ser Leu Ile Ser Asp Arg 1 1 5 1 2 0

Trp Val Leu Thr Ala Ala His Cys Leu Leu Tyr Pro Pro Trp Asp Lys 130 1 3 5

Asn Phe Thr Glu Asn Asp Leu Leu Val Arg Ile Gly Lys His Ser Arg 155 150 1 4 5

Thr Arg Tyr Glu Arg Asn Ile Glu Lys Ile Ser Met Leu Glu Lys Ile 165 170

Tyr Ile His Pro Arg Tyr Asn Trp Arg Glu Asn Leu Asp Arg Asn Ile 180 185 190

Ala Leu Met Lys Leu Lys Lys Pro Val Ala Phe Ser Asp Tyr Ile His

195 200 205

Pro Val Cys Leu Pro Asp Arg Glu Thr Ala Ala Ser Leu Leu Gln Ala 2 1 5 2 2 0 2 1 0 Gly Tyr Lys Gly Arg Val Thr Gly Trp Gly Asn Leu Lys Glu Thr Trp 225 2 3 0 235 Thr Ala Asn Val Gly Lys Gly Gln Pro Ser Val Leu Gln Val Val Asn 2 4 5 250 255 Leu Pro Ile Val Glu Arg Pro Val Cys Lys Asp Ser Thr Arg Ile Arg 260 265 2.7.0 lle Thr Asp Asn Met Phe Cys Ala Gly Tyr Lys Pro Asp Glu Gly Lys 275 2.8.0 285 Arg Gly Asp Ala Cys Glu Gly Asp Ala Gly Gly Pro Phe Val Met Lys 290 295 300 Ser Pro Phe Asn Asn Arg Trp Tyr Gln Met Gly Ile Val Ser Trp Gly 305 3 1 0 3 1 5 Glu Gly Cys Asp Arg Asp Gly Lys Tyr Gly Phe Tyr Thr His Val Phe 3 2 5 3 3 0 3 3 5 Arg Leu Lys Lys Trp Ile Gln Lys Val Ile Asp Gln Phe Gly Glu 3 4 0 3 4 5 350 <210> 23 <211> 1056 <212> DNA <213> Homo sapiens < 2 2 0 > <221> CDS (1)...(1056)<222> < 2 2 3 > < 4 0 0 > 2 3 atg gcg cac gtc cga ggc ttg cag ctg cct ggc tgc ctg gcc ctg gct 4.8 Met Ala His Val Arg Gly Leu Gln Leu Pro Gly Cys Leu Ala Leu Ala 1 5 1 0 15 gcc ctg tgt agc ctt gtg cac agc cag cat gtg ttc ctg gct cct cag 96 Ala Leu Cys Ser Leu Val His Ser Gln His Val Phe Leu Ala Pro Gln 20 25 3.0

caa gca cgg tcg ctg ctc cag cgg gtc cgg cga acc gcc acc agt gag

	2	0	8	6	4	2	0	8	6	4	2	0
	192	2 4 0	288	3 3 6	3 8 4	4 3 2	480	5 2 8	576	6 2 4	672	
Glu												
Ser												
Thr												<i>"</i> 0 <i>"</i>
A 1 a 4 5												0.0.7
Thr												c t a
Arg												116
Arg												000
V a l												tgg
Arg 40												a a c
Gln	сс g Р r о 5 5	t t c P h e	t c c S e r	atg Met	ctg Leu	сас Ніѕ 135	c t t L e u	att Ile	a a c A s n	aag Lys	agg Arg 215	0.00
Leu												a t a
Leu												0 0 0
Ser												
Arg 35												0.0.0
Ala												t o o
Gln												

					c agt gtc o Ser Val 250			
		gtg gag			c aag gac s Lys Asp		cgg atc	
					t tac aag y Tyr Lys			
					t ggg gga a Gly Gly			
					a atg ggc n Met Gly 315			
					t ggc ttc r Gly Phe 330			
					c att gat 1 lle Asp 5			t a g 1 0 5 6
< 2 1 0 < 2 1 1 < 2 1 2 < 2 1 3	3 5 1 2 > PRT	sapiens						
< 4 0 (	) > 24							
Met 1	Ala His	Val Arg 5	Gly Leu	Gln Le	u Pro Gly 10	Cys Leu	Ala Leu 15	Ala
Ala	Leu Cys	Ser Leu 20	Val His	Ser Gla 25	n His Val	Phe Leu	Ala Pro 30	Gln
Gln	Ala Arg 35	Ser Leu	Leu Gln	Arg Va	l Arg Arg	Thr Ala	Thr Ser	G l u
Tyr	Gln Thr 50	Phe Phe	Asn Pro	Arg Th	r Phe Gly	Ser Gly	Glu Ala	Asp

Cys Gly Leu Arg Pro Leu Phe Glu Lys Lys Ser Leu Glu Asp Lys Thr

Glu Arg Glu Leu Leu Glu Ser Tyr Ile Asp Gly Arg Ile Val Glu Gly 85

Ser Asp Ala Glu Ile Gly Met Ser Pro Trp Gln Val Met Leu Phe Arg

65

1 0 0

lys Ser Pro Glo Glo Leo Leo Cys Gly Ala Ser Leo Lle Ser Aso Ars

105

- Lys Ser Pro Gln Glu Leu Cys Gly Ala Ser Leu Ile Ser Asp Arg 115 120 125
- Trp Val Leu Thr Ala Ala His Cys Leu Leu Tyr Pro Pro Trp Asp Lys 130 135 140
- Asn Phe Thr Glu Asn Asp Leu Leu Val Arg Ile Gly Lys His Ser Arg 145 150 150
- Thr Arg Tyr Glu Arg Asn Ile Glu Lys Ile Ser Met Leu Glu Lys Ile 165 170 175
- Tyr Ile His Pro Arg Tyr Asn Trp Arg Glu Asn Leu Asp Arg Asp Ile 180 185 190
- Ala Leu Met Lys Leu Lys Lys Pro Val Ala Phe Ser Asp Tyr Ile His 195 200 205
- Pro Val Cys Leu Pro Asp Arg Glu Thr Ala Ala Ser Leu Leu Gln Ala 210 215 220
- Gly Tyr Lys Gly Arg Val Thr Gly Trp Gly Asn Leu Lys Glu Thr Trp 225 230 235
- Thr Ala Asn Val Gly Lys Gly Gln Pro Ser Val Leu Gln Val Val Asn 245 250 255
- Leu Pro Ile Val Glu Arg Pro Val Cys Lys Asp Ser Thr Arg Ile Arg 260 265 270
- Ile Thr Asp Asn Met Phe Cys Ala Gly Tyr Lys Pro Asp Glu Gly Lys 275 280 285
- Arg Gly Asp Ala Cys Glu Ala Asp Ala Gly Gly Pro Phe Val Met Lys 290 295 300
- Ser Pro Phe Asn Asn Arg Trp Tyr Gln Met Gly Ile Val Ser Trp Gly 305 310 315
- Glu Gly Cys Asp Arg Asp Gly Lys Tyr Gly Phe Tyr Thr His Val Phe 325 330 335

<210><211><211><211><211><213>	25 1056 DNA Homo	sapiens						
<220><221><221><222><223>	C D S (1)	(1056)						
atg gc					gc tgc ctg ly Cys Leu		•	48
					tg ttc ctg al Phe Leu		· ·	96
					ga acc gcc rg Thr Ala 45			4 4
					gc tcg gga ly Ser Gly 60			9 2
					cg ctg gag er Leu Glu 5			4 0
					gg cgc att ly Arg Ile			88
				o Trp G	ag gtg atg ln Val Met			3 6
					gc ctc ato er Leu IIe 125	Ser Asp		8 4
	l Leu		Суѕ Lе		ac ccg ccc yr Pro Pro 140			3 2

									cgc Arg							480
									a t a I l e 1 7 0							5 2 8
									gag Glu							5 7 6
									g c c A l a							6 2 4
									g c a A l a							672
									ggc Gly						t g g T r p 2 4 0	7 2 0
									agt Ser 250						a a c A s n	768
									aag Lys							8 1 6
									t a c T y r							8 6 4
									ggg Gly							9 1 2
									atg Met							960
									g g c G l y 3 3 0							1008
СВС	c t g	aag	aag	t g g	a t a	c a g	a a g	g t c	a t t	g a t	сав	t t t	gga	gag	t a g	1056

Arg	Leu	Lys	Lys	Trp	Пе	Gln	Lys	V a l	I 1 e	Asp	Gln	Phe	Gly	Glu
			3 4 0					3 4 5					3 5 0	

< 2 1 0 > 2 6

<211> 351

<212> PRT

<213> Homo sapiens

< 4 0 0 > 2 6

Met Ala His Val Arg Gly Leu Gln Leu Pro Gly Cys Leu Ala Leu Ala 1 5 10

Ala Leu Cys Ser Leu Val His Ser Gln His Val Phe Leu Ala Pro Gln 20 25 30

Gln Ala Arg Ser Leu Leu Gln Arg Val Arg Arg Thr Ala Thr Ser Glu 35 40 45

Tyr Gln Thr Phe Phe Asn Pro Arg Thr Phe Gly Ser Gly Glu Ala Asp 50 55

Cys Gly Leu Arg Pro Leu Phe Glu Lys Lys Ser Leu Glu Asp Lys Thr 65 70 75 80

Glu Arg Glu Leu Leu Glu Ser Tyr Ile Asp Gly Arg Ile Val Glu Gly 85 90

Ser Asp Ala Glu Ile Gly Met Ser Pro Trp Gln Val Met Leu Phe Arg 100 105 110

Lys Ser Pro Gln Glu Leu Leu Cys Gly Ala Ser Leu Ile Ser Asp Arg 115 120 125

Trp Val Leu Thr Ala Ala Cys Leu Leu Tyr Pro Pro Trp Asp Lys 130 135 140

Asn Phe Thr Glu Asn Asp Leu Leu Val Arg Ile Gly Lys His Ser Arg 145 150 155 160

Thr Arg Tyr Glu Arg Asn Ile Glu Lys Ile Ser Met Leu Glu Lys Ile 165 170 175

Tyr Ile His Pro Arg Tyr Asn Trp Arg Glu Asn Leu Asp Arg Asp Ile 180 185 190

Ala Leu Met Lys Leu Lys Lys Pro Val Ala Phe Ser Asp Tyr Ile His 195 200 205

Pro Val Cys	Leu Pro Asp	Arg Glu Thr 215	Ala Ala Ser 220	Leu Leu Gln	Ala
Gly Tyr Lys 225	Gly Arg Val 230	Thr Gly Trp	Gly Asn Leu 235	Lys Glu Thr	Trp 240
Thr Ala Asn	Val Gly Lys 245	Gly Gln Pro	Ser Val Leu 250	Gln Val Val 255	A s n
Leu Pro Ile	Val Glu Arg 260	Pro Val Cys 265	Lys Asp Ser	Thr Arg Ile 270	Arg
Ile Thr Asp 275	Asn Met Phe	Cys Ala Gly 280	Tyr Lys Pro	Asp Glu Gly 285	L y s
Arg Gly Asp 290	Ala Cys Glu	Gly Asp Ala 295	Gly Gly Pro 300	Phe Val Met	L y s
Ser Pro Phe 305	Asn Asn Arg 310	Trp Tyr Gln	Met Gly Ile 315	Val Ser Trp	G 1 y 3 2 0
Glu Gly Cys	Asp Arg Asp 325	Gly Lys Tyr	Gly Phe Tyr 330	Thr His Val 335	P h e
Arg Leu Lys	Lys Trp Ile 340	Gln Lys Val 345	lle Asp Gln	Phe Gly Glu 350	
<210> 27 <211> 1056 <212> DNA <213> Homo	s a p i e n s				
<220> <221> CDS <222> (1)	(1056)				
			cct ggc tgc Pro Gly Cys 10		
			cat gtg ttc His Val Phe		
			cgg cga acc Arg Arg Thr		

				t t c P h e												192
				cct Pro												2 4 0
				ctg Leu 85												2 8 8
				atc Ile												3 3 6
				g a g G l u												3 8 4
				g c c A l a												4 3 2
				a a t A s n												4 8 0
				c g a A r g 1 6 5												5 2 8
				agg Arg												5 7 6
				ctg Leu												6 2 4
				c c c P r o												6 7 2
				cgg Arg												7 2 0
a c a	g c c	аас	gtt	g g t	aag	ggg	c a g	ссс	a g t	g t c	c t g	c a g	g t g	gtg	аас	7 6 8

	Val Gly Ly 245	s Gly Gln Pr	o Ser Val Leu 250	Gln Val Val Asn 255	
			s Lys Asp Ser		816
			t tac aag cct y Tyr Lys Pro		864
			g ggg gga ccc y Gly Gly Pro 300		9 1 2
		g Trp Tyr Gl	a atg ggc atc n Met Gly Ile 315	gtc tca tgg ggt Val Ser Trp Gly 320	960
			t ggc ttc tac r Gly Phe Tyr 330		008
			l lle Asp Gln		056
<210> 28 <211> 351 <212> PRT <213> Homo	s a p i e n s				
< 2 1 1 > 3 5 1 < 2 1 2 > P R T	s a p i e n s				
<211> 351 <212> PRT <213> Homo <400> 28		y Leu Gln Le	u Pro Gly Cys	Leu Ala Leu Ala 15	
<pre>&lt;211&gt; 351 &lt;212&gt; PRT &lt;213&gt; Homo &lt;400&gt; 28  Met Ala His 1</pre>	Val Arg Gl 5		10 n His Val Phe		
<pre>&lt;211&gt; 351 &lt;212&gt; PRT &lt;213&gt; Homo &lt;400&gt; 28  Met Ala His 1  Ala Leu Cys</pre>	Val Arg Gl 5 Ser Leu Va 20	l His Ser Gl 25	10 n His Val Phe 1	15 Leu Ala Pro Gln	
<pre>&lt;211&gt; 351 &lt;212&gt; PRT &lt;213&gt; Homo &lt;400&gt; 28  Met Ala His 1  Ala Leu Cys  Gln Ala Arg 35</pre>	Val Arg Gl 5 Ser Leu Va 20 Ser Leu Le	l His Ser Gl 25 u Gln Arg Va 40	10 n His Val Phe 1	15 Leu Ala Pro Gln 30 Ala Thr Ser Glu 45	

Glu	Arg	Glu	Leu	L e u 8 5	Glu	Ser	Туr	I I e	A s p 9 0	G 1 y	Arg	Ile	V a 1	G l u 9 5	Gly
Ser	Asp	Ala	G l u 1 0 0	I I e	Gly	Met	Ser	Pro 105	Trp	Gln	V a l	Met	L e u 1 1 0	Phe	Arg
Lys	Ser	Pro 115	Gln	Glu	Leu	Leu	C y s 1 2 0	G 1 y	Ala	Ser	Leu	I 1 e 1 2 5	Ser	Asp	Arg
Trp	V a l 1 3 0	Leu	Thr	Ala	Ala	H i s 1 3 5	Суѕ	Leu	Leu	Tyr	Pro 140	Pro	Trp	Asp	Lys
A s n 1 4 5	P h e	Thr	Glu	Asn	A s p 1 5 0	Leu	Leu	V a 1	Arg	I I e 155	Gly	Lys	His	Ser	Arg 160
Thr	Arg	Tyr	Glu	Arg 165	Asn	I 1 e	Glu	Glu	I 1 e 1 7 0	Ser	Met	Leu	Glu	L y s 175	I 1 e
Tyr	I 1 e	His	Pro 180	Arg	Tyr	Asn	Trp	Arg 185	Glu	Asn	Leu	Asp	Arg 190	Asp	I 1 e
Ala	Leu	Met 195	Lys	Leu	Lys	Lys	Pro 200	V a 1	Ala	P h e	Ser	A s p 2 0 5	Туг	Ile	His
Pro	V a l 2 1 0	Суѕ	Leu	Pro	Asp	Arg 215	Glu	Thr	Ala	Ala	S e r 2 2 0	Leu	Leu	Gln	Ala
G 1 y 2 2 5	Tyr	Lys	G l y	Arg	V a 1 2 3 0	Thr	G l y	Trp	G 1 y	A s n 2 3 5	Leu	Lys	Glu	Thr	Trp 240
Thr	Ala	Asn	V a 1	G 1 y 2 4 5	Lys	G 1 y	Gln	Pro	Ser 250	V a l	Leu	Gln	V a 1	V a 1 2 5 5	Asn
Leu	Pro	I 1 e	V a 1 2 6 0	Glu	Arg	Pro	V a l	C y s 2 6 5	Lys	Asp	Ser	Thr	Arg 270	Ile	Arg
Ile	Thr	A s p 2 7 5	Asn	Met	Phe	Суѕ	A 1 a 2 8 0	G 1 y	Tyr	Lys	Pro	A s p 2 8 5	Glu	G l y	Lys
Arg	G 1 y 2 9 0	Asp	Ala	Суѕ	Glu	A 1 a 2 9 5	Asp	G 1 y	G 1 y	G 1 y	Pro 300	Phe	V a 1	Met	Lys
Ser 305	Pro	Phe	Asn	Asn	Arg 310	Trp	Tyr	Gln	Met	G l y 3 l 5	I I e	V a l	Ser	Trp	G 1 y 3 2 0
Glu	Gly	Суѕ	Asp	Arg 325	Asp	G 1 y	Lys	Tyr	G 1 y 3 3 0	Phe	Туг	Thr	H i s	V a 1 3 3 5	Phe
Arg	Leu	Lys	L y s 3 4 0	Trp	I 1 e	Gln	Lys	V a 1 3 4 5	I 1 e	Asp	Gln	P h e	G 1 y 3 5 0	Glu	

```
\langle 2 1 0 \rangle 2 9
<211> 1056
< 2 1 2 > DNA
<213> Homo sapiens
< 2 2 0 >
<221> CDS
< 2 2 2 >
      (1)...(1056)
< 2 2 3 >
< 4 0 0 > 2 9
atg gcg cac gtc cga ggc ttg cag ctg cct ggc tgc ctg gcc ctg gct
                                                                          48
Met Ala His Val Arg Gly Leu Gln Leu Pro Gly Cys Leu Ala Leu Ala
                                      1.0
                                                                           96
gcc ctg tgt agc ctt gtg cac agc cag cat gtg ttc ctg gct cct cag
Ala Leu Cys Ser Leu Val His Ser Gln His Val Phe Leu Ala Pro Gln
            2 0
                                  25
caa gca cgg tcg ctg ctc cag cgg gtc cgg cga acc gcc acc agt gag
                                                                          1 4 4
Gln Ala Arg Ser Leu Leu Gln Arg Val Arg Arg Thr Ala Thr Ser Glu
        35
                              4 0
                                                                          192
tac cag act ttc ttc aat ccg agg acc ttt ggc tcg gga gag gca gac
Tyr Gln Thr Phe Phe Asn Pro Arg Thr Phe Gly Ser Gly Glu Ala Asp
    5 0
                         5.5
                                               6 0
tgt ggg ctg cga cct ctg ttc gag aag tcg ctg gag gac aaa acc
                                                                          2 4 0
Cys Gly Leu Arg Pro Leu Phe Glu Lys Lys Ser Leu Glu Asp Lys Thr
65
                     7 0
                                           75
                                                                8.0
gaa aga gag ctc ctg gaa tcc tac atc gac ggg cgc att gtg gag ggc
                                                                          288
Glu Arg Glu Leu Leu Glu Ser Tvr lle Asp Glv Arg lle Val Glu Glv
                 85
                                      90
                                                            95
tcg gat gca gag atc ggc atg tca cct tgg cag gtg atg ctt ttc cgg
                                                                          3 3 6
Ser Asp Ala Glu Ile Gly Met Ser Pro Trp Gln Val Met Leu Phe Arg
            100
                                  105
                                                       110
aag agt ccc cag gag ctg ctg tgt ggg gcc agc ctc atc agt gac cgc
                                                                          3 8 4
Lys Ser Pro Gln Glu Leu Leu Cys Gly Ala Ser Leu Ile Ser Asp Arg
        115
                              1 2 0
                                                   1 2 5
tgg gtc ctc acc gcc gcc cac tgc ctc ctg tac ccg ccc tgg gac aag
                                                                          4 3 2
Trp Val Leu Thr Ala Ala His Cys Leu Leu Tyr Pro Pro Trp Asp Lys
    130
                         135
                                               140
aac ttc acc gag aat gac ctt ctg gtg cgc att ggc aag cac tcc cgc
                                                                         480
```

A s n 1 4 5	P h e	Thr	Glu	Asn	A s p	Leu	L e u	V a l	Arg	I I e 1 5 5	G 1 y	L y s	H i s	Ser	Arg 160	
														a a g L y s 1 7 5		5 2 8
														a a c A s n		5 7 6
														att Ile		6 2 4
														cag Gln		672
														acg Thr		7 2 0
														g t g V a l 2 5 5		7 6 8
														atc Ile		8 1 6
														ggg Gly		8 6 4
														atg Met		9 1 2
														t g g T r p		9 6 0
														g t g V a l 3 3 5		1 0 0 8
									att Ile					g a g G l u	t a g	1 0 5 6

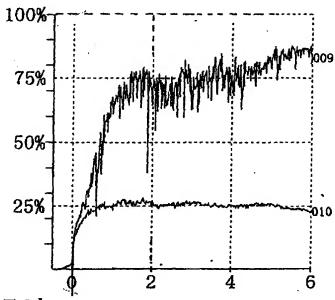
```
< 2 1 0 >
      3 0
<211> 351
<212>
     PRT
<213> Homo sapiens
\langle 4 \ 0 \ 0 \rangle \qquad 3 \ 0
Met Ala His Val Arg Gly Leu Gln Leu Pro Gly Cys Leu Ala Leu Ala
               5
                              1 0
Ala Leu Cys Ser Leu Val His Ser Gln His Val Phe Leu Ala Pro Gln
           2 0
                              25
                                                 3 0
Gln Ala Arg Ser Leu Leu Gln Arg Val Arg Arg Thr Ala Thr Ser Glu
       3 5 4 0
Tyr Gln Thr Phe Phe Asn Pro Arg Thr Phe Gly Ser Gly Glu Ala Asp
               5 5
Cys Gly Leu Arg Pro Leu Phe Glu Lys Lys Ser Leu Glu Asp Lys Thr
65
                  7.0
                                  7 5
Glu Arg Glu Leu Leu Glu Ser Tyr lle Asp Gly Arg lle Val Glu Gly
               85
                                  9 0
Ser Asp Ala Glu Ile Gly Met Ser Pro Trp Gln Val Met Leu Phe Arg
           100
                              105
                                            1 1 0
Lys Ser Pro Gln Glu Leu Leu Cys Gly Ala Ser Leu Ile Ser Asp Arg
       1 1 5
                              1 2 5
Trp Val Leu Thr Ala Ala His Cys Leu Leu Tyr Pro Pro Trp Asp Lys
                          1 4 0
   130
       1 3 5
Asn Phe Thr Glu Asn Asp Leu Leu Val Arg Ile Gly Lys His Ser Arg
                          155
             1.5.0
Thr Arg Tyr Glu Arg Asn Ile Glu Glu Ile Ser Met Leu Glu Lys Ile
               165
                                 170
Tyr Ile His Pro Arg Tyr Asn Trp Arg Glu Asn Leu Asp Arg Asn Ile
           180
                              185
                                                190
Ala Leu Met Lys Leu Lys Lys Pro Val Ala Phe Ser Asp Tyr lle His
       195
                          200
                                             205
Pro Val Cys Leu Pro Asp Arg Glu Thr Ala Ala Ser Leu Leu Gln Ala
                       2 1 5
```

2.2.0

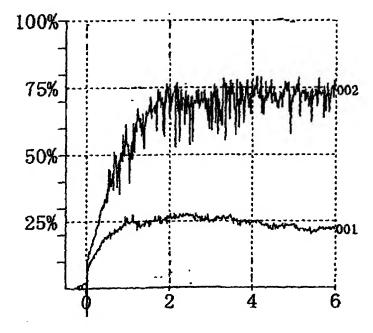
2 1 0

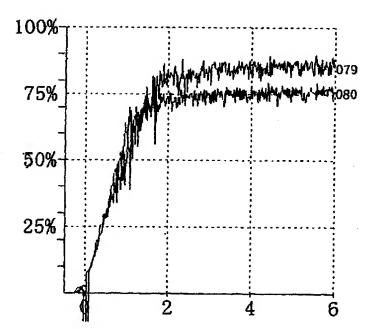
G 1 y 2 2 5	Tyr	Lys	Gly	Arg	V a 1 2 3 0	Thr	G 1 y	Trp	G l y	A s n 2 3 5	Leu	Lys	Glu	Thr	Trp 240
Thr	Ala	Asn	V a 1	G l y 2 4 5	Lys	G 1 y	Gln	Pro	S e r 2 5 0	V a 1	Leu	Gln	V a l	V a l 2 5 5	Asn
Leu	Pro	Ilе	V a 1 2 6 0	Glu	Arg	Pro	V a l	C y s 2 6 5	Lys	Asp	Ser	Thr	Arg 270	I l e	Arg
I I e	Thr	A s p 2 7 5	Asn	Met	Phe	Суѕ	A 1 a 2 8 0	G 1 y	Туr	Lys	Pro	A s p 2 8 5	Glu	G 1 y	Lys
Arg	G l y 2 9 0	Asp	Ala	C y s	Glu	A 1 a 2 9 5	Asp	Ala	Gly	G l y	Pro 300	P h e	V a l	Met	Lys
S e r 3 0 5	Pro	Phe	A s n	Asn	Arg 310	Trp	Tyr	Gln	Met	G l y 3 1 5	I I e	V a l	Ser	Trp	G 1 y 3 2 0
Glu	Gly	Суѕ	Asp	Arg 325	Asp	Gly	Lys	Tyr	G 1 y 3 3 0	P h e	Туг	Thr	His	V a l 3 3 5	Phe
Arg	Leu	Lys	L y s 3 4 0	Trp	Пе	Gln	Lys	V a 1 3 4 5	I I e	Asp	Gln	Phe	G 1 y 3 5 0	Glu	

【書類名】図面【図1】

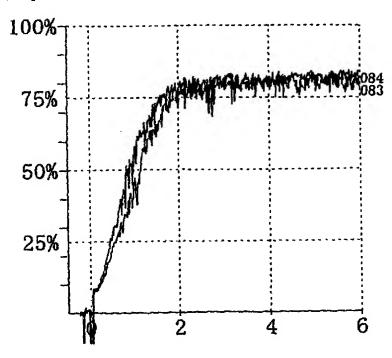


【図2】

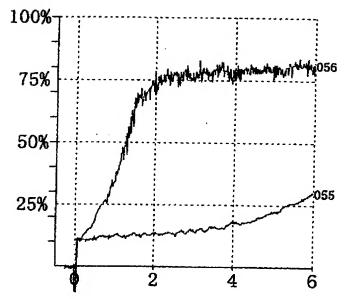




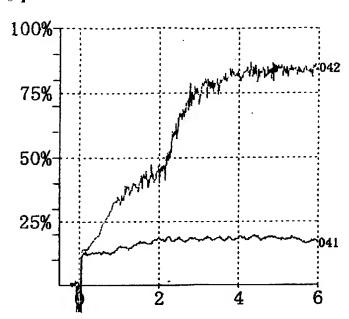
【図4】

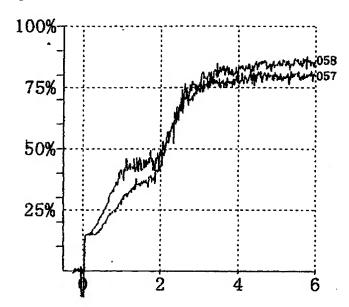




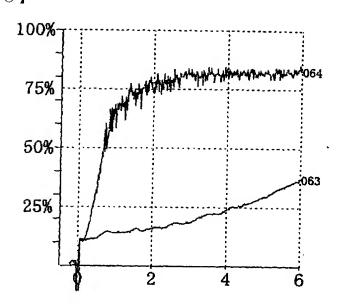


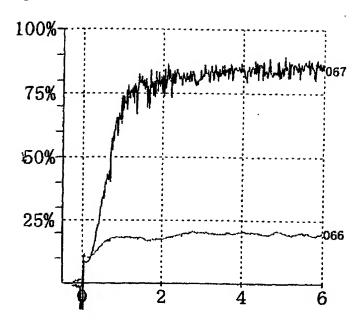
## 【図6】



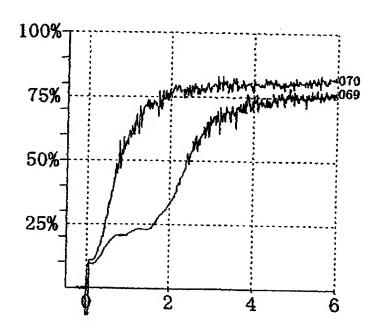


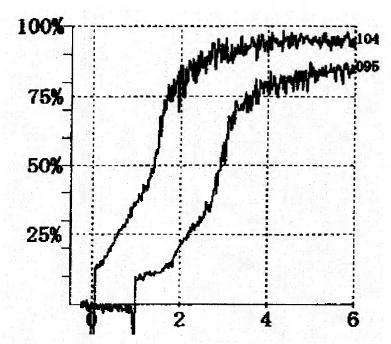
【図8】



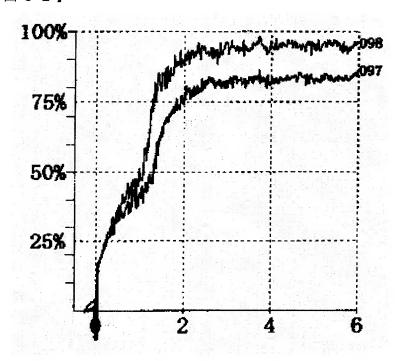


# 【図10】





【図12】



【書類名】要約書

【要約】

【課題】 抗血栓治療薬又は抗炎症治療薬として好適なトロンビン誘導体を提供する。

【解決手段】 トロンビンにアミノ酸置換を導入し、アミノ酸置換トロンビン誘導体の中から基質分解活性が低下し、かつ基質結合能を保持したトロンビン誘導体を選択する。 具体的にはB鎖203グリシン及びB鎖205セリン及びB鎖43ヒスチジン及び99アスパラギン酸が置換されたトロンビン誘導体及びそのカルボキシル基修飾体などを選択する。

【選択図】 図1

【書類名】 手続補正書 【整理番号】 P-C40877HI 【提出日】 平成16年 8月 5日 【あて先】 特許庁長官殿 【事件の表示】 【出願番号】 特願2004-217834 【補正をする者】 【識別番号】 0 0 0 0 0 2 0 7 1 チッソ株式会社 【氏名又は名称】 【補正をする者】 【識別番号】 0 0 0 2 2 4 1 0 1 【氏名又は名称】 藤森工業株式会社 【代理人】 【識別番号】 100100549 【弁理士】 【氏名又は名称】 嘉之 川口 【手続補正]】 【補正対象書類名】 特許願 【補正対象項目名】 代理権を証明する書面

【補正方法】 追加

【補正の内容】

【提出物件の目録】

【物件名】 委任状 1

【添付書類】 7 **IIIIIIIII** 250

#### 委 任 状

平成 /6 年 7 月 /5 日

私は、

識別番号 100100549 Æ 弁理士 川 口 之 嘉 識別番号 100090516 弁理士 松 倉 実 氏 氏 識別番号 100089244 弁理士 遠 山 勉 を以て、代理人として下記事項を委任します。

言己

## 1. 特許願

に関する手続



- 1. 上記出願又は 特 願 2004 - 80950 : 特國 2004-170346 に基づく特許法第41条第1項又は実用新案法第8条第1項の規定による優先 権の主張及びその取下げ
- 1. 上記出願に関する出願の変更、出願の放棄及び出願の取下げ
- 1. 上記出願に関する拒絶査定に対する審判の請求
- 1. 上記出願に係る特許権、実用新案権及び意匠権に基づく権利及びこれらに関 する権利に関する手続並びにこれらの権利の放棄
- 1. 上記出願に係る特許に対する特許異議の申立て又は実用新案登録に対する登 録異議の申立てに関する手続
- 1. 上記出願に係る特許、特許権の存続期間の延長登録及び意匠登録に対する無 効審判の請求に関する手続
- 1. 上記出願に係る特許権に関する訂正審判の請求
- 1. 上記各項の手続に関する請求の取下げ、申請の取下げ又は申立ての取下げ
- 1. 上記各項に関し行政不服審査法に基づく諸手続をなすこと
- 1. 上記各項の手続を処理するため、復代理人を選任及び解任すること

住所 (居所) 東京都中央区日本橋馬喰町1丁目4番16号

藤森工業株式会社

氏名 (名称) 

(代 表 者)



## 出願人履歴

0000000207119900823

大阪府大阪市北区中之島3丁目6番32号 チッソ株式会社 0000224101 19900830 新規登録 597072349

東京都中央区日本橋馬喰町1丁目4番16号藤森工業株式会社